

新訂版

川越の自然

— 雑木林・河川・公園・湧水・社寺林を訪ねて —

かわごえ環境ネット
設立20周年記念

川越の自然

— 雑木林・河川・公園・湧水・社寺林を訪ねて —



アズマイチゲ

ごあいさつ

かわごえ環境ネット（以下、国会）は、1998年（平成10年）3月に策定された「川越市環境基本計画」に基づき、市民、事業者、行政、さらに民間団体がパートナーシップを形成し、それぞれが役割を理解しつつ実行できるように、協働して行う事業について情報提供や調整を図るための組織として2000年（平成12年）8月5日に設立されました。

設立後、専門委員会として広報委員会、社会環境部会、自然環境部会、事業運営委員会が順次組織され、地域ぐるみで川越市の望ましい環境像「みんなで作る、自然・歴史・文化の調和した人と環境にやさしいまち」を実現するためにさまざまな取り組みをしてきました。

このたび、みなさまのご支援、ご協力により設立20周年を迎えることができました。まことにありがとうございます。

設立20周年記念事業として企画されたのは、国会設立10周年記念出版として2011年5月に発行された「川越の自然」の新訂版の発行です。

本書は、「川越の自然」の構成を基本としつつ、判型をB6版からA5版に改め、文章も新たに書き起こし、写真も多くを入れ替えて内容を刷新しました。特に、国会が調査・保全活動を長年続けてきた「(仮称)川越市森林公園」計画地については多くのページを割いて紹介しています。また、ドローンを飛ばして上空から撮影した写真を使用したり、故千木良宣行氏から絵画を提供いただいたり、イラストを用いて自然環境での遊び方を紹介したり、調査記録を詳しく掲載したりして、内容の充実に努めました。

自然に関する本は数多くありますが、川越市に特化した自然の本は少なく、本書は、川越に住んでいる方を始め、幅広い方々にご愛用いただけると思っています。本書を携えて各所を訪れていただき、自然に親しんでいただくとともに、自然環境の保全活動にもご参加いただければ幸いです。

本書の出版にあたっては、公益財団法人サイサン環境保全基金の助成をはじめ、巻末に掲載している多くの方々からのご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

今後も、国会の事業をはじめとして、川越の持続可能な発展に資する活動に対するご支援、ご協力をお願い申し上げます。

2021年2月27日

かわごえ環境ネット
理事長 小瀬 博之

はじめに

川越には山や丘陵はなく、ダイナミックな自然はありません。市内のどこに立っても民家が見え、人々の暮らしがすぐそばにあります。川越は「暮らしやすいまち」と言われます。地形が平坦で交通の便が良く、歴史的な街並みも残っていて、年間700万人もの観光客が訪れます。商店も多く、今も人口が増えている街です。

このような川越に自然はあるのでしょうか。街中に馴染んでいる方からはこのような声が聞かれそうです。ところがあるのです。しっかりと残っているのです。川越の自然要素は雑木林、河川、沼、湧水、自然系公園、田畑などでしょうか。

「かわごえ環境ネット」の自然環境部会では発足当時の2000年頃から、川越に残る様々な自然を訪ね、調査し、可能な所では保全再生活動をしてきました。そのような中で見えてきた川越の自然は、なかなかどうして生物多様性に富むものでした。雑木林は1600年代に人為的につくられた二次林ですが、今では川越の生き物の歴史を丸ごと保存しています。河川は大水のたびに变化しますが、生き物はしたたかに生きのびています。また、自然系の大規模な公園にも野生的なエリアが残されています。

本会が取り組んできたことの一つに、市民の方や子どもへの自然観察会や自然学習のサポートがあります。雑木林での100人近くの小学生の自然学習では、子どもたちから「毎日、ここならいいのに！」という声も聞かれました。子どもは自然の中が好きなのです。今回の「川越の自然」新訂版では、小さなお子さんと一緒に楽しめる情報が入っています。是非、お子さん、お孫さんと自然探索を楽しんでいただければ如何でしょう。

本書の編集には15名の会員があたり、分野別に分担しました。写真を多く取り入れ、説明は最小限にとどめていますので、もっと詳しく知りたいという方は専門図鑑などをご覧ください。幸いです。

本書をまとめるにあたり、多くの市民団体・個人の方から情報提供やご指導を頂き、ありがとうございました。深く感謝いたします。本書が末永く、皆様のお役に立つことを、また、川越の自然が今以上に豊かになることを願っています。

「川越の自然」編集委員会

代表 賀登 環

| | |
|--------------------------------------|------------|
| 第1章 川越のあらまし | 5 |
| 1. 川越の自然環境の特徴 | 7 |
| 2. 水と緑・生き物の環境 | 10 |
| 3. 川越の自然ポイントマップ | 12 |
| 第2章 武蔵野の雑木林 | 14 |
| 1. 「(仮称)川越市森林公園」計画地 | 20 |
| コラム 下松原地区のアカマツ林 | 23 |
| 2. 市民の森第1号 | 34 |
| 3. 市民の森第7号 | 35 |
| 4. 市民の森第8号 | 36 |
| 5. 市民の森第6号 | 38 |
| 6. 市民の森第9号 | 38 |
| 7. ふるさとの緑の景観地 | 39 |
| コラム 雑木林のクヌギの樹液にやってきた昆虫 | 41 |
| 8. 東洋大学川越キャンパス | 42 |
| コラム 川越における「ナラ枯れ」の発生 | 45 |
| 9. くぬぎ山 | 46 |
| 10. 大堀山館跡 | 48 |
| 11. 雑木林の遊びかた | 50 |
| 第3章 川越の河川・沼 | 52 |
| 1. 荒川流域 | 54 |
| 2. 入間川流域 | 55 |
| 3. 小畔川流域 | 58 |
| 4. 新河岸川流域 | 62 |
| 5. 寺尾調節池周辺 | 65 |
| 6. 不老川 | 69 |
| コラム 不老川 ちょっと昔のアルバム | 71 |
| 7. 伊佐沼 | 72 |
| 8. 三ツ又沼ピオトーブ | 74 |
| 9. 川の遊びかた | 76 |
| 第4章 川越の公園と緑地 | 77 |
| 1. 川越水上公園 | 78 |
| 2. 安比奈親水公園 | 82 |
| 3. 池辺公園 | 84 |
| 4. 川越運動公園 | 86 |
| 5. なぐわし公園 | 88 |
| 6. 小畔水鳥の郷公園 | 90 |
| 7. 御伊勢塚公園 | 92 |
| 8. 古谷湿地 | 94 |
| 9. 山王塚古墳 | 96 |
| 第5章 湧水 | 98 |
| 1. 小堤・八幡神社の湧水 | 100 |
| 2. 小仙波・龍池弁財天の湧水 | 102 |
| 3. 仙波河岸史跡公園 | 104 |
| 4. 下新河岸・日枝神社の湧水 | 106 |
| 5. 霞ピオトーブ | 108 |
| 第6章 社寺林 巨樹・古木巡り | 109 |
| 1. 喜多院 | 109 |
| 2. 中院 | 113 |
| 3. 川越八幡宮 | 116 |
| 4. 尾崎神社 | 118 |
| 5. 巨樹・古木巡り | 120 |
| コラム 川越周辺の自然豊かなところ 坂戸市城山 | 125 |
| 第7章 生き物の調査記録 | 126 |
| 1. 川越のチョウ | 126 |
| 2. 川越のトンボ | 131 |
| 3. 川越の昆虫 | 134 |
| 4. 田んぼの自然 | 138 |
| 第8章 ミニ図鑑 | 142 |
| 1. 植物 | 142 |
| 2. 昆虫以外の動物いろいろ | 150 |
| 3. 魚類・水生動物 | 152 |
| 4. 野鳥 | 156 |
| コラム コチドリ三態 | 161 |
| コラム 伊佐沼の珍鳥 | 161 |
| 第9章 統計類 | 162 |
| 1. 植物 | 162 |
| 2. 昆虫 | 164 |
| 3. 野鳥観察記録 | 168 |
| 第10章 かわごえ環境ネット設立20年のあゆみ | 170 |
| あとがき | 174 |
| 索引 | 176 |

第1章 川越のあらまし



市の木・かし



市の花・山吹



市の鳥・雁

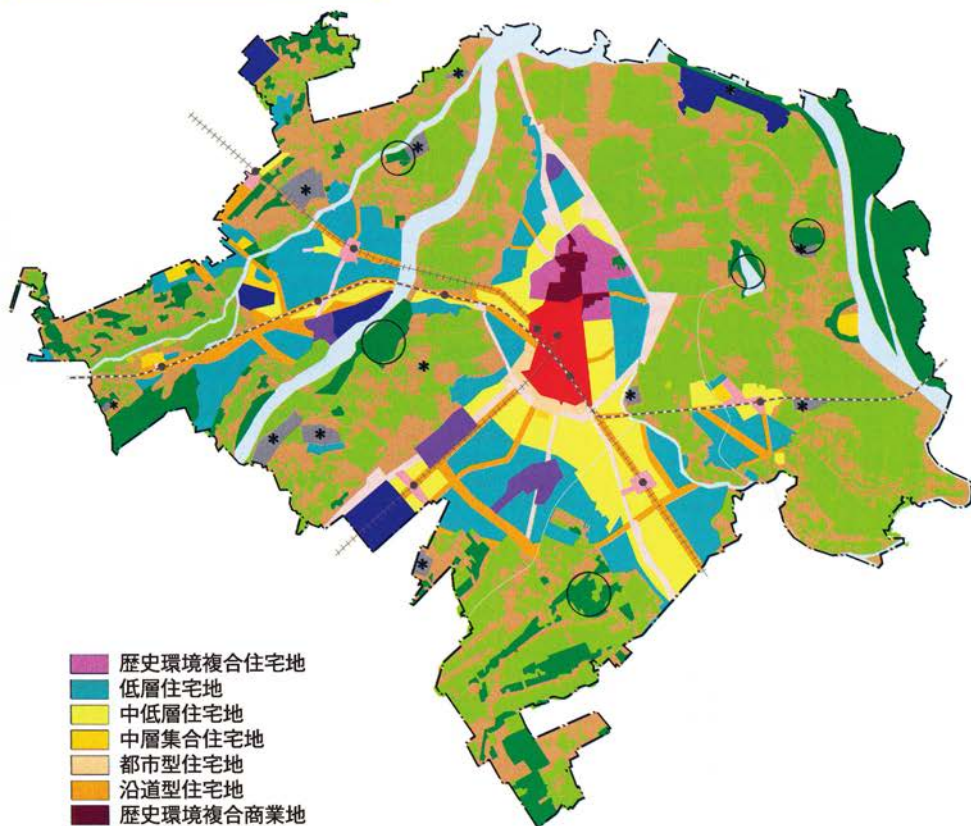
川越市は埼玉県の中央部よりやや南部、武蔵野台地の東北端（北緯35度55分30秒、東経139度29分08秒、海拔高度は18.5m＝市庁舎）に位置しています。東西16.27km、南北13.8km、周囲86.8kmで面積は109.13km²。海拔の最高地点は下赤坂の50m、一番低い地点は渋井の5mです。

西から東へ向けて緩やかに傾斜していますが、全体的に平坦でおおまかには北東部の水田地帯、中央部の市街地、南西部の畑地帯に分けられます。都心から30kmの首都圏に位置し、商品作物を生産する近郊農業、交通の利便性を生かした流通業、伝統に培われた商工業、豊かな歴史と文化を資源とする観光などが特徴です。南部の福原地区には武蔵野の面影を遺す雑木林が広がっており、2017年に近隣の三富地区とともに「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が「日本農業遺産」として登録されました。

2003年（平成15年）には県内で初の中核市になっています。人口は1955年（昭和30年）には10万人ほどでしたが、2019年（令和元年）には35万人余になっています。

川越の歩みを紐解くと、縄文期にはすでに集落が形成されていて、貝塚や遺跡が見られます。平安時代には河越氏が台頭、室町時代になると太田道灌、上杉氏らが河越城を築き東国武士が駆け巡る地となり、1537年（天文6年）に上杉氏が北条氏に敗れると、以後小田原北条氏の支配が続きました。江戸時代になると川越は江戸を守る要所とされ、歴代藩主は幕府の要職にある大物が当たり、新河岸川舟運、川越街道などを通じ江戸との交流が盛んで「小江戸」と呼ばれるようになりました。市の中心街は明治の大火後、相次いで重厚な蔵造り町家が建造され、現在、伝統的建造物群保存地区になっています。これらの歴史が現在、川越を観光地として支える基盤となっています。

川越の土地利用の方針



- 歴史環境複合住宅地
- 低層住宅地
- 中低層住宅地
- 中層集合住宅地
- 都市型住宅地
- 沿道型住宅地
- 歴史環境複合商業地
- 中心商業・業務地
- 地区中心商業地
- 近隣商業地
- 工業・流通地など
- 住・工商共存地区
- 流通・業務系沿道利用地
- 大規模公園など
- 農地
- 集落
- 公園・緑地
- 河川
- ★ 主な公共施設
- 鉄道・駅

川越市都市計画マスタープラン
(平成21年7月) より

これは都市計画図ですが、ほぼ現況に沿っています。図で一番面積を占めているのが農地、続いて集落になります。城下町の街並みが中心部にあり、住宅地・商業地が鉄道沿線に広がっています。公園・緑地は周辺部に多くあります。

1. 川越の自然環境の特徴

埼玉県地形・地質



「埼玉の自然をたずねて」堀口萬吉 監修より引用

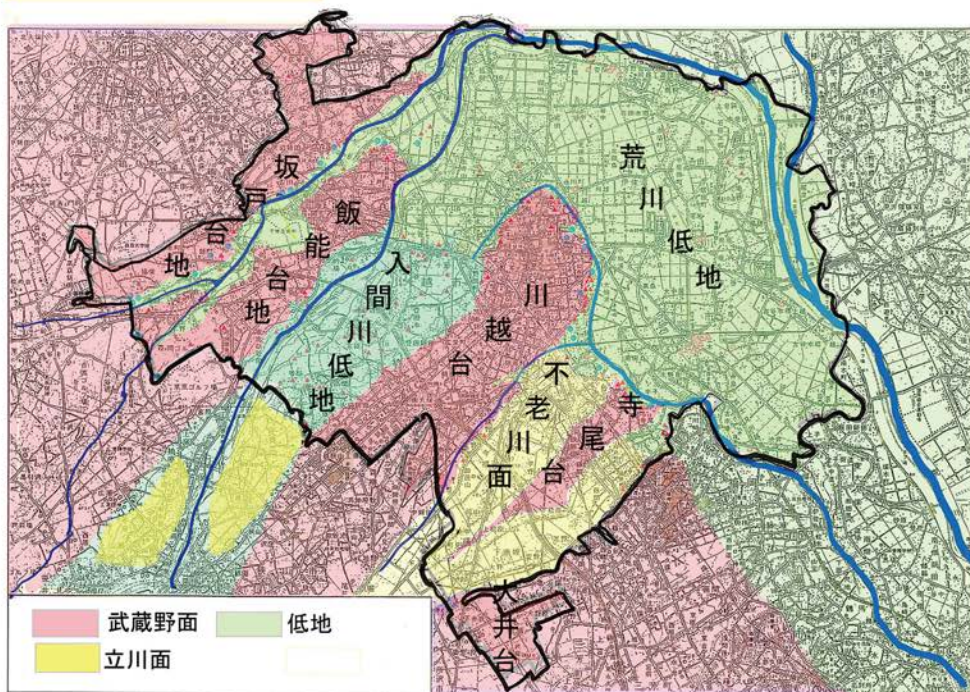
川越は埼玉県の中央より少し南に位置します。埼玉県の地形を俯瞰すると、西の方4割弱が山地を占め、続いて丘陵、台地と高度を下げながら東の低地へと連なり、関東平野の一翼を担っています。標高の最高点は三宝山2,483mで、丘陵はだいたい標高200m～50mくらい、台地や低地は川が土砂を運んでできた大地です。低地は南になだらかに傾斜していて、江戸時代には利根川、荒川が付け替えられ、豊かな大地になりました。

地質的にみると秩父は「日本地質学発祥の地」といわれるほど古生代からの様々な地層を含んでいます。秩父盆地は新第三紀(1500万年前ころ)には海辺にあり、パレオパラドキシアやサメなどの化石が見つかっています。2011年(平成23年)には「日本ジオパーク」の認定も受けました。

丘陵のうち北にあるもの(岩殿、比企など)は1200万年前の新第三紀中新世の地層からなり、南の方(加治、狭山など)は200万年前の第四紀更新世の地層からできています。台地や低地はさらに新しい時代に形成されました。川越の台地では関東ローム層の降灰が6万年前からはじまり、最終氷期の最も寒冷化した2万年前以降に低地がつくられました。

現在埼玉県民の多くが暮らしている大地は、地史的にみればついこの間できたばかりの大地といえるでしょう。

川越の地形・地質



「地下をさぐる」川越市下水道部平成2年発行より引用（一部改変）

埼玉の地形が外秩父山地から丘陵、そして台地から低地と変化していく境界に川越が位置しているといえます。川越の南から西域は武蔵野台地の北東端に位置し、北から東域は荒川低地に繋がります。台地の標高はおおむね南西から北東へと6/1000の傾斜で低くなりますが、台地の突端では段丘崖となり、その先は平坦な低地になっています。このような場所では本来、湧水が豊富なのですが、都市化の影響で非常に少なくなっています。

川越市で一番標高の高いところは下赤坂の50mくらい、台地部は20mくらいで荒川低地につながり、荒川低地はおおむね8mくらいで、荒川に近い一番低いところで5mです。川越の名前の由来どおり、荒川、入間川がまわりを囲むように流れていて、舌状の川越台の縁を新河岸川が流れています。

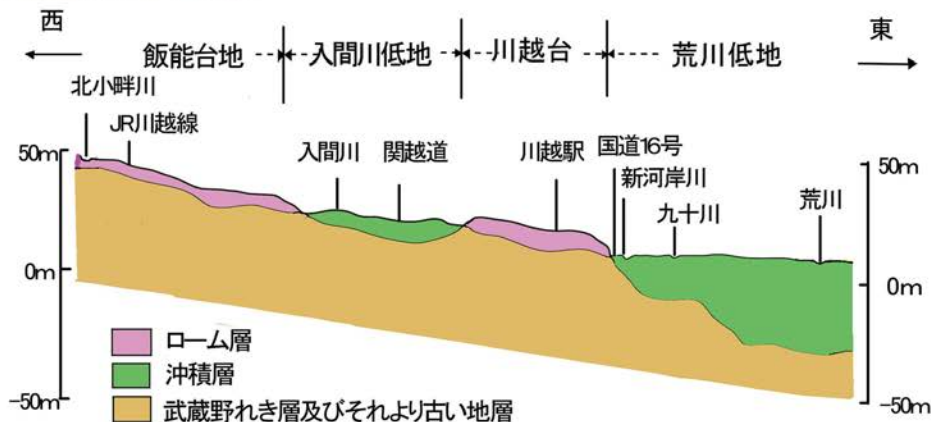
川越の台地部はよく見ると標高に変化があります。上の図で「川越台」、「寺尾台」、「大井台」は高く、その間にある「不老川面」は岸町あたりで10mくらい低くなっています。高い方の台地は武蔵野台地の地形面区分では「武蔵野面」、溝状に低くなっている「不老川面」は立川面に相当します。

下図は市役所を通る東西方向の断面図です。川越台の地下には「武蔵野れき層」が広がり、れきの種類は主に関東山地をつくる砂岩とチャートです。これは仙波河岸史跡公園の崖で観察できます。川越台のある武蔵野台地は、埼玉県南部から東京都にかけて広がる広大な台地で、青梅を扇の要として多摩川によってつくられた扇状地です。この扇状地の表面を何度も火山灰が覆ったので、5mにわたる関東ローム層が形成されました。

荒川低地には「沖積層」とよばれる、やわらかい砂や泥の地層が厚く堆積していています。このあたりはおよそ6000年前の縄文時代前期には海でした。その証拠に小仙波町には「小仙波貝塚跡」があり、荒川右岸最奥の貝塚だったのです。やがて気温が徐々に下がり、海が退き広大な陸地になりました。

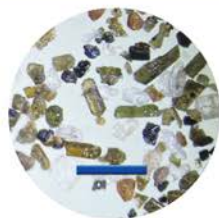
この台地と低地は10mの落差があり、地層にも大きな違いがあります。台地は地下3～5mくらいでれき層になり台地の土台となっています。一方、低地では砂泥が堆積して軟弱な地盤となり、地下25mくらいでやっくれき層があらわれます。水田には好都合でこの一帯は田園風景が広がっています。

川越台地の地下の様子



関東ローム層をのぞいてみると・・・

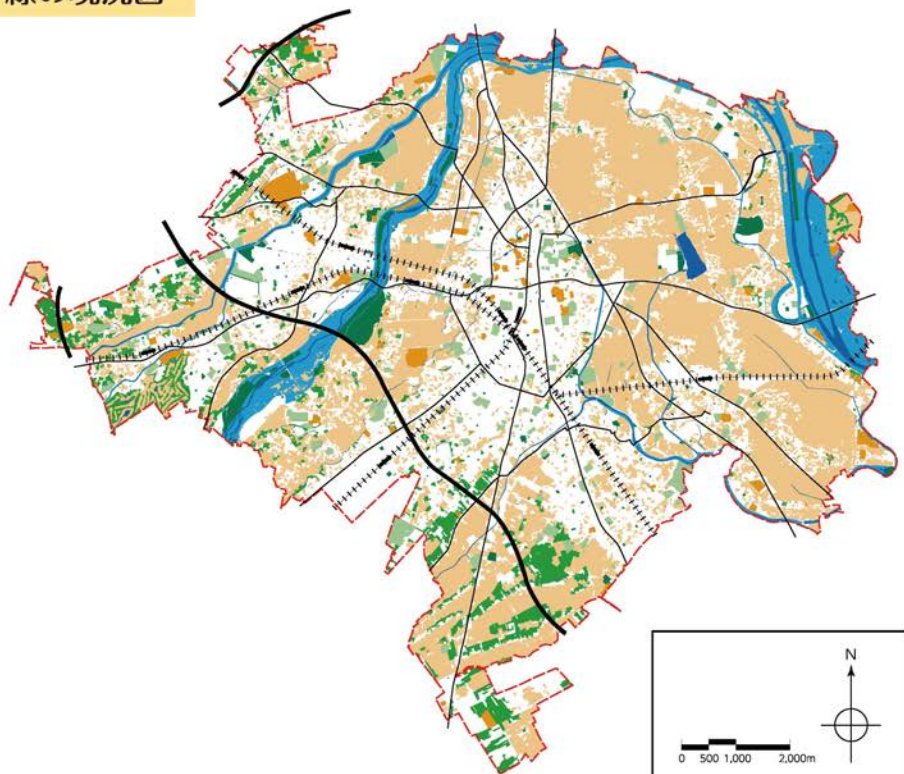
赤土ともよばれ、富士山、箱根火山、浅間山などの噴火による火山灰が風に流されて堆積した。0.1mm/1年のペース。川越台には5m近く積もっている。赤土を何度も洗って残った砂粒をみると、斜長石、輝石、かんらん石、磁鉄鉱などの鉱物が含まれている。(顕微鏡写真のスケールは1mm)



2. 水と緑・生き物の環境

緑の現況図

第三次川越市環境基本計画（平成28年）より引用



緑の構成（平成26年3月）

| 区 分 | | 凡 例 | 平成26年3月 面積 (ha) | 平成17年3月 面積 (ha) | 増減面積 (ha) |
|----------------------|------------------------|-----|--------------------|--------------------|--------------|
| 施設緑地 | 都市公園 | | 161.3 | 146.6 | 15.3 |
| | 公共施設緑地 | | 162.9 | 152.4 | 10.5 |
| | 民間施設緑地 | | 104.9 | 102.7 | 2.2 |
| その他の緑 | 水面：河川・沼・水路 | | 867.0 | 884.9 | -17.9 |
| | 水辺：河岸 | | | | |
| | 山林・原野その他 これらに類するもの | | 473.9 | 475.4 | -1.5 |
| | 農地・牧草地その他 これらに類するもの | | 3,894.9 | 4,210.0 | -315.1 |
| 緑の現況量総計 | | | 5,664.9 | 5,971.4 | -306.5 |
| 市域（10,916.0ha）に対する割合 | | | 51.9% | 54.7% | -2.8% |

川越市域の面積は10,916haですから「緑の現況量」は平成17年には市域の54.7%でしたが、平成26年には51.9%に減少しました。大きく減ったのは農地で300haあまりの減少です。緑の構成データによるとその内、「農地・牧草地など」が69%を占めており、次いで「水面・水辺など」の15%です。緑のかたまりといえる「山林・原野など」は8%しかありません。公園面積も一人当たり4.7㎡（平成30年）で全国の自治体の平均からまかなり低い水準です。

川越には山・丘陵がありません。これは日本の地形から見ると特異なことで、海岸沿いにある都市でも大抵は市域に山を含んでいます。目の前は海、振り返ると山、というよくある日本の風景です。川越は幸い川に恵まれています。市民が自然にふれることのできる緑地はとても少ないと言えるでしょう。

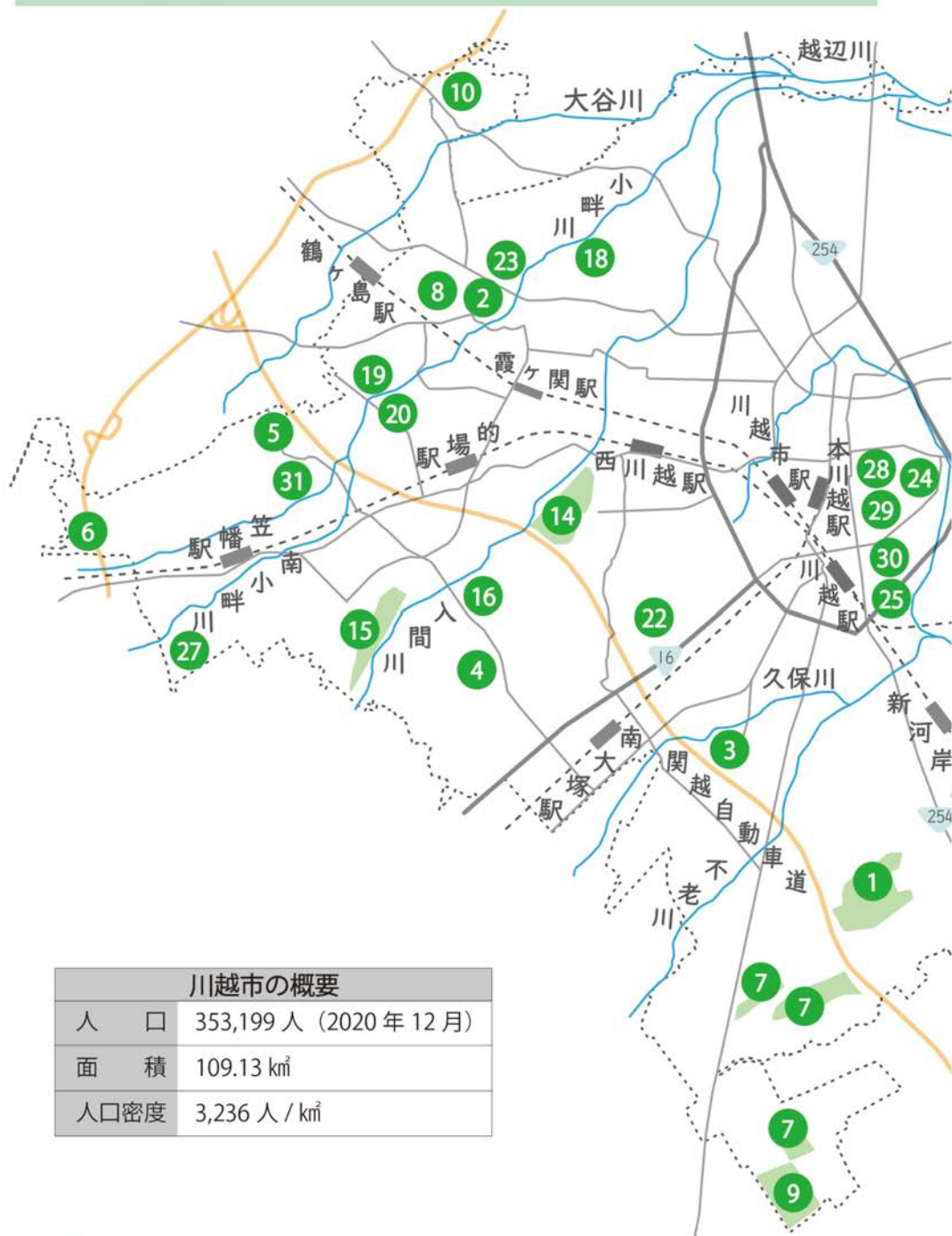
河川について

川越市は荒川水系にあり、一級河川は10河川、準用河川は4河川、その他多数の普通河川があります。普通河川は農業用水路で総延長は838kmです。

| 名称 | 等級 | 市内上流端～下流端 | 市内流路距離 (km) | 管理者 |
|---------|------|--------------|-------------|-----------|
| 荒川 | 一級河川 | 中老袋～古谷本郷下組 | 6.3 | 国土交通省 |
| 入間川 | 一級河川 | 増形～古谷本郷上組 | 19.0 | 国土交通省・埼玉県 |
| 小畔川 | 一級河川 | 笠幡～福田 | 10.3 | 国土交通省・埼玉県 |
| 越辺川 | 一級河川 | 福田～府川 | 2.0 | 国土交通省 |
| 南小畔川 | 一級河川 | 笠幡～笠幡 | 3.4 | 埼玉県 |
| 新河岸川 | 一級河川 | 上野田～渋井 | 11.7 | 埼玉県 |
| 不老川 | 一級河川 | 今福～砂 | 4.6 | 埼玉県 |
| 九十川 | 一級河川 | 古谷上～南田島 | 4.5 | 埼玉県 |
| びん沼川 | 一級河川 | 古谷本郷～萱沼 | 2.7 | 埼玉県 |
| 新河岸川放水路 | 一級河川 | 渋井～渋井 | 0.7 | 埼玉県 |
| 天の川 | 準用河川 | 天沼新田～上小坂 | 3.8 | 川越市 |
| 古川 | 準用河川 | 上寺山～府川 | 3.6 | 川越市 |
| 今福川 | 準用河川 | 今福～中台元町1丁目 | 1.7 | 川越市 |
| 久保川 | 準用河川 | 南大塚5丁目～岸町3丁目 | 2.5 | 川越市 |

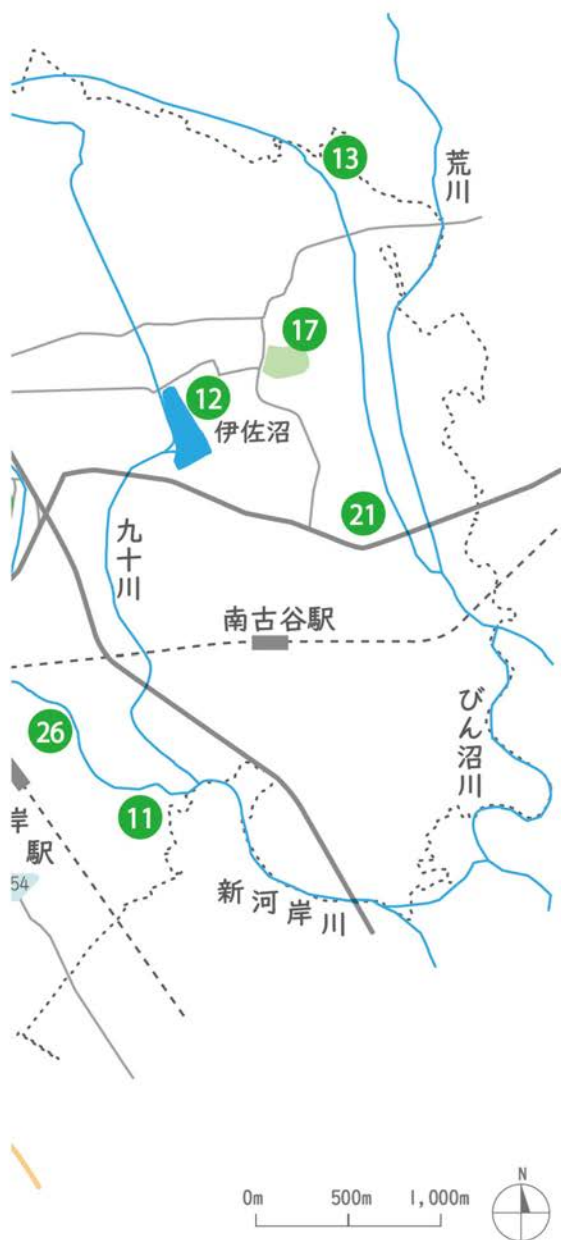
川越市河川課の資料より（令和元年）

3. 川越の自然ポイントマップ



川越市の概要

| | |
|------|--------------------------|
| 人口 | 353,199人 (2020年12月) |
| 面積 | 109.13 km ² |
| 人口密度 | 3,236人 / km ² |



| No | 名称 | P |
|----|------------------|-----|
| 1 | 「(仮称)川越市森林公園」計画地 | 20 |
| 2 | 市民の森第1号 | 34 |
| 3 | 市民の森第7号 | 35 |
| 4 | 市民の森第8号 | 36 |
| 5 | 市民の森第6号 | 38 |
| 6 | 市民の森第9号 | 38 |
| 7 | ふるさとの緑の景観地 | 39 |
| 8 | 東洋大学川越キャンパス | 42 |
| 9 | くぬぎ山 | 46 |
| 10 | 大堀山館跡 | 48 |
| 11 | 寺尾調節池 | 65 |
| 12 | 伊佐沼 | 72 |
| 13 | 三ツ又沼ビオトープ | 74 |
| 14 | 川越水上公園 | 78 |
| 15 | 安比奈親水公園 | 82 |
| 16 | 池辺公園 | 84 |
| 17 | 川越運動公園 | 86 |
| 18 | なぐわし公園 | 88 |
| 19 | 小畔水鳥の郷公園 | 90 |
| 20 | 御伊勢塚公園 | 92 |
| 21 | 古谷湿地(江遠島緑地) | 94 |
| 22 | 山王塚古墳 | 96 |
| 23 | 小堤・八幡神社 | 100 |
| 24 | 小仙波・龍池弁財天 | 102 |
| 25 | 仙波河岸史跡公園 | 104 |
| 26 | 下新河岸・日枝神社 | 106 |
| 27 | 霞ビオトープ | 108 |
| 28 | 喜多院 | 109 |
| 29 | 中院 | 113 |
| 30 | 川越八幡宮 | 116 |
| 31 | 尾崎神社 | 118 |

歴史

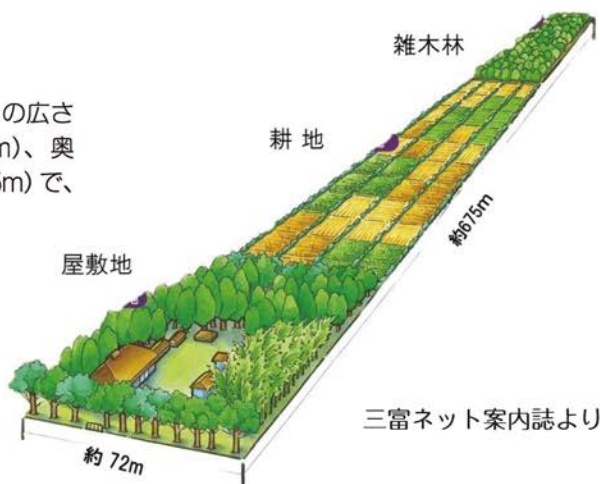
「むさしのは月の入るべき峰もなし尾花が末にかかる白雲」（藤原通方、続古今和歌集）と、中世に歌われたほど武蔵野一帯はススキ原が多かったようですが、江戸時代になると農地拡大のために手がはいることになりました。当時、草原は農家の入会秣場（いりあいまぐさば）として牛馬の餌や畑地の肥料を得るために利用されていました。

松平伊豆守信綱が寛永16年（1639年）に川越藩主になると、精力的に領内の整備を行いました。川越城の拡張、川島の水田地帯の治水事業、その後、武蔵野台地の新田開発に着手したのです。当時の川越南部は関東ロームの赤土で水もなく「人力も及ばざる所にして、不能といふ也」と開発不能地とされていました。秣場が使えなくなる農民の反対もありましたが、有力な農民を取り立てて粘り強く新田開発が行われ、やがて各地から農民が入植してくるようになり、次第に農地として機能するようになりました。信綱はこのようにして、中福、上松原、下松原、下赤坂、堀兼、中新田、水野へと開発を進めました。

信綱の後、藩主となった柳沢吉保はさらに南の方、三芳の三富の開拓を大規模に行いました（1694年）。新田開発は樹林地、畑、住居とセットで行われ年月を経て、帯状の雑木林が風景となっていきました。これが現在、「武蔵野の面影を残す雑木林」といわれる所以です。雑木林には当初、コナラやクヌギが植えられ、材は薪炭材に、落ち葉は堆肥として農家にとっては利用価値のある大切なものでした。

三富の区割り

農家1軒あたりの広さは幅40間（72m）、奥行き375間（675m）で、面積は約5ha。



雑木林の推移

武蔵野台地の雑木林は歴史的に「農用林」として人為的に作られた樹林で、大部分がコナラで構成されており、次いでクヌギ、アカマツ、リョウブなどが見られます。建築材としてスギ、ヒノキも植栽されました。コナラ、クヌギは成長が早く、20年くらいで根元の方で切り、萌芽更新させ材を薪炭として利用してきました。二股になった木があるのはその名残ですが、昭和30年代の燃料革命によりその役割も終え、さらに化学肥料が登場するに至って、落ち葉堆肥も姿を消しつつあります。

かくして雑木林は農家にとって価値を生むものでなくなり、手入れもされなくなりました。高度成長期に膨らむ首都圏の人口の受け皿として、まず雑木林が開発され急速にその面積が減少していきました。埼玉県全体では平成30年間に春日部市に相当する6,610haの雑木林が消失していきました。

現在、農用林として利用されている雑木林は少なく、大部分は放置され、本来の植生である常緑広葉樹のシラカシ、ヒサカキなどが繁茂しています。

このような雑木林を再生するためボランティアが活躍しています。30年以上放置された林はアズマネザサが林床を覆い、その間に倒れた樹木が横たわり、手入れするには相当な体力・技術が必要です。



二股になったコナラは萌芽更新の名残



笠幡の雑木林手入れ
(NPO埼玉森林サポータークラブ)

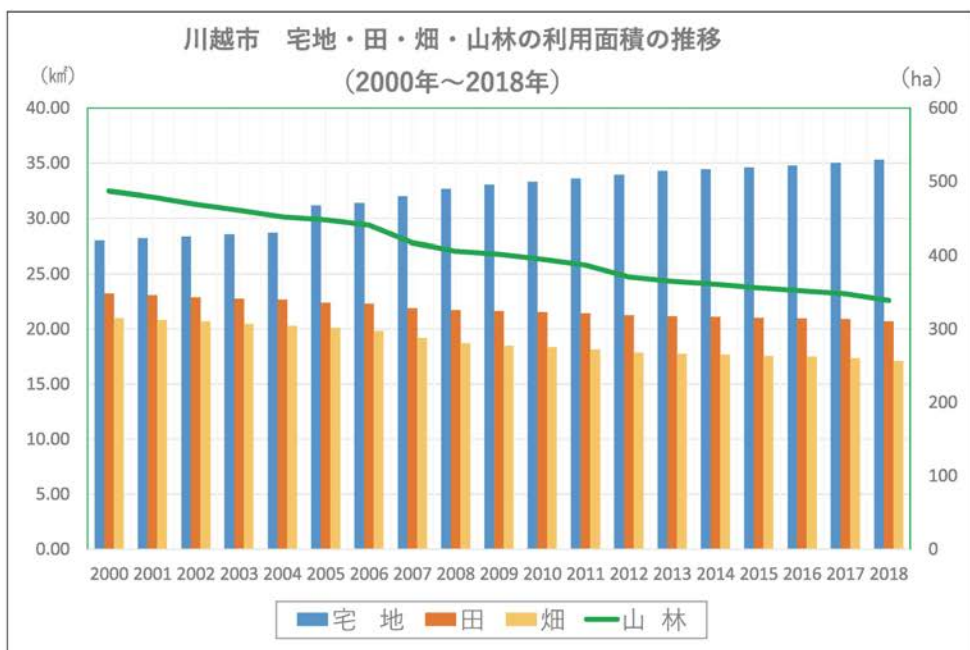


〔仮称〕川越市森林公園〕計画地手入れ
(かわごえ環境ネット)

今に残る雑木林

川越市域の面積はおよそ109km²で「川越市環境基本計画年次報告書」によると、その内、樹林地（雑木林）は2018年は339haなので市域の約3.1%になります。雑木林は原則、民有地なので存続には難しい側面があります。1996年度からの22年間でみると171haの減少で年あたり8haとなり、この割合で減っていくとあと40年でほぼなくなります。市としては11haあまりの雑木林を公有地化しています。

下のグラフは川越市の宅地、田、畑、山林の土地利用の変化を表したものです。棒グラフは宅地、田、畑の変化を左側縦軸のkm²で表し、緑色折れ線グラフは樹林地の変化を右側縦軸のhaで表しています。田や畑が減少し、その分宅地が増えているのが分かります。



市は「第三次川越市環境基本計画」において武蔵野の面影を残す雑木林の保全をうたっており、次ページの1, 2, 3などは、その方針に沿ったものです。以下に川越でまとまった雑木林が残っている場所を紹介します。詳しくは個々のページをご覧ください。

1. 「(仮称)川越市森林公園」計画地

南文化会館(ジョイフル)の南側に広がる約38haの雑木林や畑地。公園化の計画は40年ほど前からあり、平成16年に基本計画が作成されました。

2. 市民の森

この制度は、樹木の保全を図りつつ市民の憩いの場として提供するものです。地域にある民有緑地の保全と利用を図っています。2020年度現在1号地～9号地まで5箇所あり、総面積は48,170㎡です。番号が欠けている所は指定解除になったものです。元は農用林として使われていた雑木林なので、植生はほとんどがコナラ、クヌギ、スギ、ヒノキでしめられています。

| 市民の森 | 所在地 | 面積(m ²) | 指定年度 |
|------|------------|---------------------|--------|
| 第1号地 | 小堤31番他 | 13,533 | 昭和60年度 |
| 第6号地 | 笠幡1674番他 | 3,224 | 平成3年度 |
| 第7号地 | 中台3丁目13番1他 | 6,458 | 平成6年度 |
| 第8号地 | 大袋452番1他 | 14,408 | 平成9年度 |
| 第9号地 | 笠幡2646番1他 | 10,547 | 平成10年度 |

3. ふるさとの緑の景観地

埼玉県「ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例」に基づいて指定され、川越では次の3箇所で、面積は合わせて46.5haほどです。いずれも福原地区にあります。

中福ふるさとの緑の景観地 17.0ha

下赤坂ふるさとの緑の景観地 19.0ha

上松原ふるさとの緑の景観地 10.5ha

4. その他の雑木林

○東洋大学川越キャンパス

鶴ヶ島駅から徒歩7分の所にあり、「こもれびの森」や記念の緑地があります。許可を得て一般の人でも入れます。

○くぬぎ山

川越の一番南に位置する雑木林で、所沢、狭山、三芳町の境界が入り組んでいて面積は合わせて152haほどです。1990年頃から産廃の野焼きでダイオキシン問題となった場所で、今は「くぬぎ山地区自然再生協議会」が自然再生を模索していますが、あまり進展していません。

近年は、生物多様性保全、身近な自然への関心の高まりで、雑木林が見直されてきています。三富で行われてきた「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が「日本農業遺産」として2017年に登録されたことも人々の関心呼びました。この20年で雑木林に関わる市民ボランティアは随分増えたといえるでしょう。雑木林を舞台にした観察会、調査、保全管理、落ち葉はきなどが川越、所沢、入間などで数多く展開されています。



親子連れで虫の観察会



市民参加の落ち葉はき

雑木林の植生

川越周辺の雑木林は江戸時代に秣場（まぐさば）と呼ばれた草原に樹木を植え、人々の手で作られた二次林です。では、草原の前は何だったのでしょうか。右図の日本列島の本来の植生分布からみますと関東平野は照葉樹林帯になっています。中国・四国・九州でよく目にする、カシ、ツバキなどの植生です。一方、雑木林に植えられたのはコナラ、クヌギなど薪炭や落ち葉堆肥として利用価値のある樹種で、これは本来東北・北海道の夏緑落葉樹帯に相当します。ですから、近年雑木林が放置され、シラカシ、ヒサカキなどが入り始めたのは本来の植生に戻りつつあるということになります。

また、雑木林には野鳥が運んできた種子から育った様々な樹木、周辺から入り込んだ動植物など多様な生物が見られます。近年は放置され荒れている印象の雑木林ですが、注意深く観察すると昔の自然が引き継がれています。

野鳥の好きな実



ウグイスカグラ



ウワミズザクラ



ニシキギ

温度と植生分布の関係

- ① 6℃以下 常緑針葉樹林帯 (トウヒ、シラビソなど)
- ② 6℃～13℃ 落葉広葉樹林帯 (ブナ、コナラ、ミズナラなど)
- ③ 13℃以上 常緑広葉樹林帯 (シイ、カシ、クスノキなど)

川越は年平均気温が15℃ですので③の地帯になります。現実的には日本の山は大部分がヒノキ、スギの植林で覆われており、実際の植生は下図とは異なります。

日本の潜在的な自然植生



【日本の植生図鑑】中西哲他 保育社より抜粋

コラム 陽樹と陰樹

雑木林にはコナラどんぐりから生えた芽が一面に広がるがよくあります。でもこの実生はほとんど育ちません。コナラは太陽がサンサンと降り注がないと育たない樹木で、この仲間を陽樹といいます。反対に日当たりが弱くても育つ樹種を陰樹といいます。シラカシ、ヒサカキがその仲間です。雑木林は冬には落葉して林床に日が当たりますが、夏は林の中は暗くなります。コナラは光合成ができなくなり育たないのです。現在の雑木林は次世代の若いコナラはほとんど無く、老齢化した木が目立ちます。



どんぐりの芽ばえ

群生した実生

1. 「(仮称)川越市森林公園」計画地

- 場所：大字砂新田・今福地内
- 交通：東武東上線「新河岸駅」徒歩30分
川越シャトルバス30系統
「南文化会館」下車
- 面積：約38ha



川越で「武蔵野の面影を残す雑木林」の筆頭にあげられる場所で、およそ38haほどあり、樹林帯と畑が混在しています。平成16年（2004年）に市から公園化基本計画が出され「雑木林の自然と文化をみんなで育み伝える公園」をテーマにしています。川越でも一番の生物多様性の豊かな場所で、基本調査では動物（昆虫など）が250種、植物が約300種記録されていますが、その後の市民団体の調査ではさらに新しく発見されています。

公有地化された面積は10haほど（2019年）で、それらと借地で「森のさんぽ道」が敷設され、森林浴を楽しむことができます。四季折々に風情があり、春は可憐な花々やヤマザクラ、夏は新緑と虫たち、秋は紅葉、冬は落葉樹の梢と飽きることはありません。



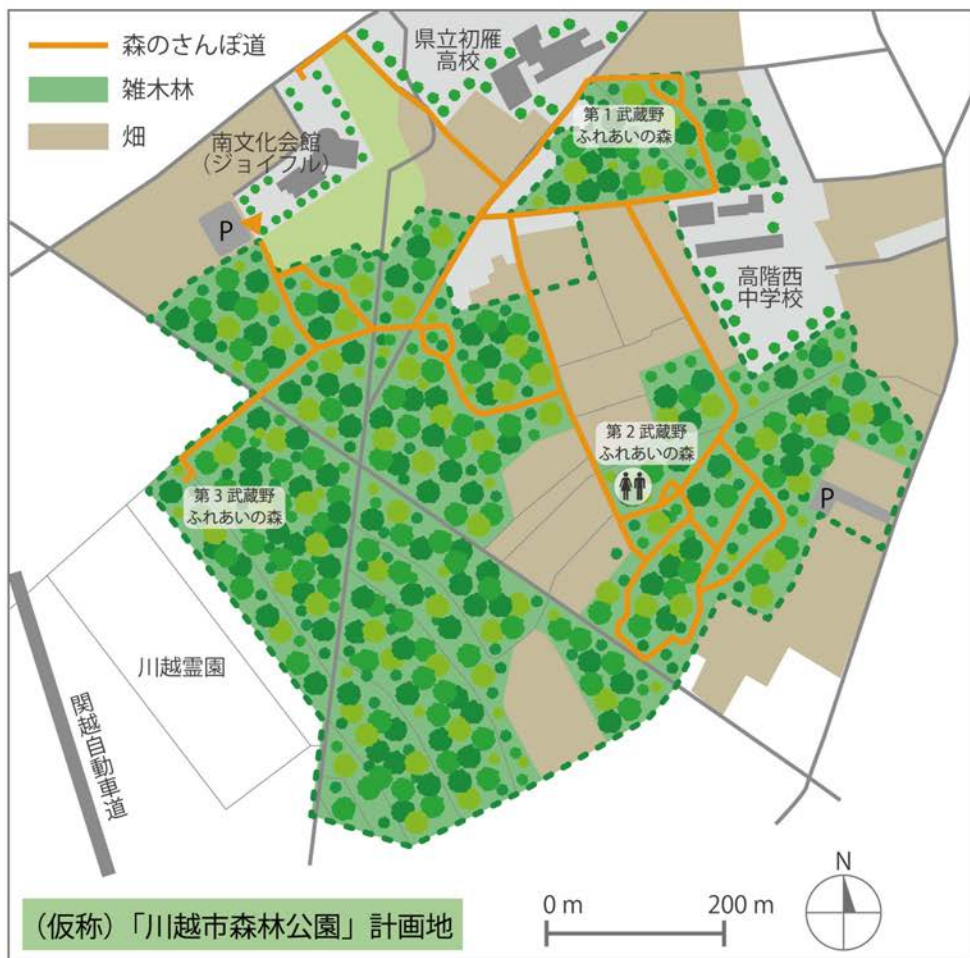
春
夏
秋
冬



「(仮称) 川越市森林公園」計画地概略図

園内は3.4km、2.0kmの散歩コースがあり、案内板やベンチも設置されています。中には市道があって車が通りますので注意してください。

樹林内は希少な動植物の生息地になっていますので、「森のさんぽ道」以外には入らないようにしてください。



「(仮称) 川越市森林公園」計画地の自然

ここは水場がなく、どちらかというと乾燥傾向にあるため、湿地性の生き物、例えばトンボなどは種類も個体数もとても少ないです。時たまアマガエルを見かけることはあります。これまで「かわごえ環境ネット」、「(公財) 埼玉県生態系保護協会 川越・坂戸・鶴ヶ島支部」などで調査したデータからお伝えします。個々の種については後半の図鑑・統計の部を参照してください。

なお、絶滅危惧種の表記はすべて、埼玉県版に依拠しています。

■植物

農用林として1600年代から人工的につくられたこの雑木林には、圧倒的にコナラが多い林です。ついでアカマツ、クヌギ、スギ、ヒノキなどが用材として植えられましたが、アカマツは松枯れや寿命で今はほとんど見る影もありません。また、長い年月の間に野鳥が運んだり、周辺から入ってきたりして今や樹種は90種を超え、林床を飾る草本は300種近くになります。

■野鳥

2010年頃までは50種ほどが観察されていますが、近年は種類、個体数もかなり減っています。この森の変化だけでなく周辺が開発され、生き物にとっての環境が厳しくなっていることが原因です。

■昆虫など

森の中に入ると「虫」はあちこちで出会います。チョウやハチがとび、地面を見ると掃除屋さんのゴミムシ、樹液のどる木にはカブトムシやクワガタ類。丁寧にさがしていくと多種多様な虫たちが生息しています。昆虫は300種ほど確認しています。

■哺乳類

平成10年頃の調査ではノウサギ、イタチが確認されていますが、最近ではこれらは見られません。小型のものではアカネズミ、アズマモグラが生息しています。アズマモグラはあちこちに土の盛り上がりがあり、かなりの個体数のようです。

■爬虫類・両生類

シマヘビ、アオダイショウは時折出会います。悲劇なのは木に掛けた巣箱にアオダイショウが巻き付いている姿です。「アー・・・」とため息がでます。カナヘビ、トカゲは個体数が多いです。アマガエルはたまに出会いますが、その他のカエルは報告がありません。

コラム 下松原地区のアカマツ林

「(仮称)川越市森林公園」計画地南西部の地名は「下松原」といいます。

この地区は、現在、コナラ中心の農用林ですが、昔、地名になるほどの松原(アカマツ林)があったのでしょうか? 地元の農家さんに話を伺ってみました。

- 昭和50年代までは、アカマツの大木が鬱蒼と茂る林があり、日中でも暗く一人で歩くのが怖かった。林内にはコナラの幼木もあった。
- 松の落ち葉は堆肥にした。松葉の一年物は苗床で使い、発酵が進んだ二年物を畑に入れた。
- 松は燃料(薪)や建築材(家の梁)に使った。
- 昭和60年代に「マツ材線虫病(松枯れ病)」が大流行し、多くのアカマツが感染し枯れた。
- その後、アカマツの下で、満を持していたコナラ等の広葉樹が成長し今の林の姿になった。

とのことで、かつてアカマツ林が存在し、農用林として使われてきました。そのアカマツ林が、松枯れ病という木の感染症のせいで、コナラ中心の林にがらりと変化したのには驚かされます。

第1武蔵野ふれあいの森に、40本近くのアカマツが密集する林があり、当時の名残が見られます。

是非、散歩の折に立ち寄ってみてください。

(注) マツ材線虫病は「マツノザイセンチュウ」という体長1mm足らずの線虫がマツの幹内にまん延し、幹内の水の流れを止め、マツを枯死させるものです。この線虫を「マツノマダラカミキリ」が松から松へと運び、病気の感染を広げます。



計画地内の地名



現在の下松原地区の
コナラを中心にした農用林



第1武蔵野ふれあいの森のアカマツ林

「(仮称) 川越市森林公園」計画地の四季

■春の雑木林

すっかり葉を落として梢だけになった冬の雑木林から、まず春の息吹を伝えるのがウグイスカグラです。ピンクの星のような花をパッと咲かせ「春が来た!」と感じさせる一瞬です。次いでコナラ、クヌギ、アカシデ、ヤマザクラと雑木林の主役たちの新芽が、林を緑にぬり変えていきます。

これまで茶色の落ち葉だった林床から次々と可憐な草花が姿を現します。



「花冷えの頃」画 千木良宣氏



ウグイスカグラ



クヌギの新芽と雄花



アカシデの新芽と雄花



ニオイタチツボスミレ



チゴユリ



シュンラン



キンラン
絶滅危惧種 I B(EN)



ギンラン
絶滅危惧種 II 類(VU)



ともにラン科で
ラン菌と共生しているの
場所を移すと育たない。
種子で増えるので
摘まないでください。



ウワミズザクラ



エゴノキ

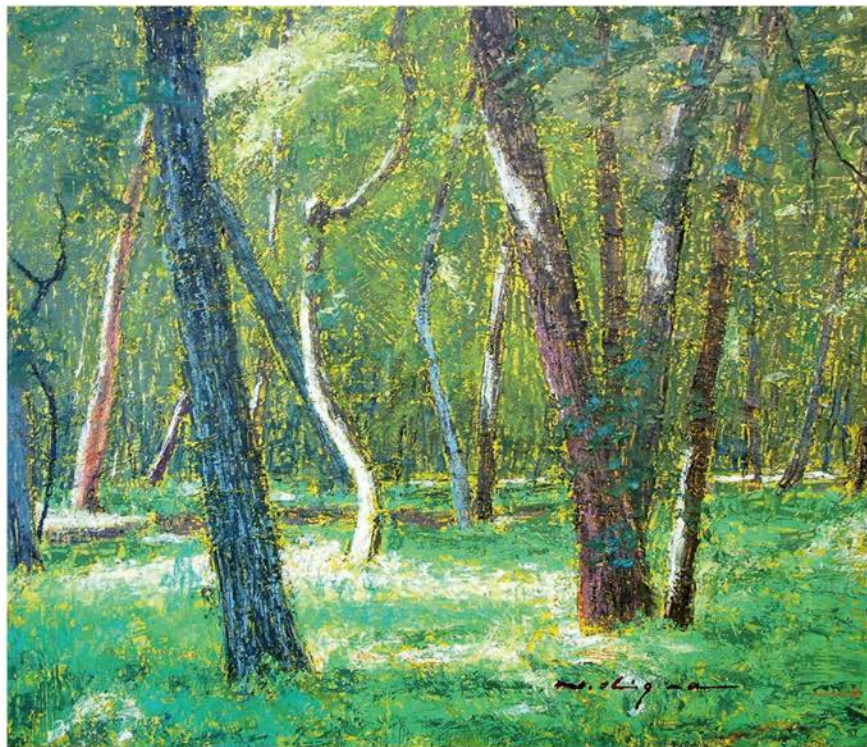


ウメモドキ

■夏の雑木林

夏は森が一番賑やかな季節。樹木は葉を茂らせ、林床も雑木林特有の草花が清々しい花を咲かせます。虫たちも命を繋いでいくために活発に活動します。湿度の高い梅雨の間にはキノコもニョキニョキと顔を出します。

真夏の暑い時でも雑木林のなかはいくらか涼しく、散策する人も結構多いのです。



「木洩れ陽」 画 千木良宣氏



森の人気者 カブトムシ



虹色 アカガネサルハムシ



アオマダラタマムシ
準絶滅危惧種



ムラサキシキブ



ネジキ



ヤマユリ



ウツギ



オトギリソウ



ヤマハギ



オカトラノオ

本来湿地を好むがこの森に小さな群生がある



コアジサイ

越生などの山には普通にあるが、ここでは数株のみ。薄紫の清楚な花（6月）



ツリガネニンジン

本来日当たりを好む。ここでは保護している



キビタキ

夏鳥として渡ってくる。最近では定住している個体もいるらしい。



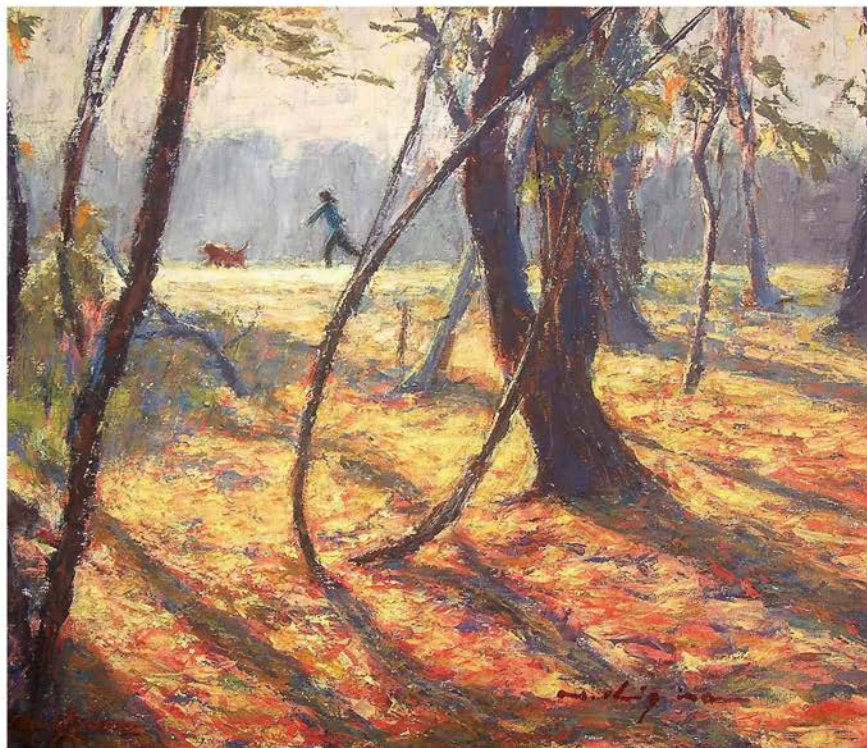
ヒグラシの羽化



キタキチョウの羽化

■秋の雑木林

秋は実りの季節。コナラやクヌギ、シラカシはドングリの実をたくさんつけます。林床がドングリのカーペットを敷きつめたようになる年もあります。低木の実には赤、紫、青と色彩豊富です。落ち葉がハラハラと舞う小道を歩くと、黄金色や真っ赤な葉が青空に美しく映えます。少し冷たくなった風を受けながらの散策は、至福のひとつです。



「朝の武蔵野」画 千木良宣行氏

秋の実り これらの実は野鳥の好物 種まきをしてくれる



ムラサキシキブ



ニシキギ



サワフタギ



ジョウビタキ



シジュウカラ(手前)とカワラヒワ(奥)



カシラダカ



この時期に目立つ
ジョロウグモ



誰が並べたか ドングリオブジェ



オケラ



今では珍しくなったセンブリ



リンドウ 日が射すと開く



サネカズラ (ピナンカズラ) の実



オオハナワラビの群落

■冬の雑木林

雑木林の冬は陽だまりです。風のある日でも中に入るとポカポカしてきます。葉を落とした梢に野鳥が飛び交うのが見られます。農家の方は昔から冬の間には落ち葉はき（「クズはき」と地元の方はいう）が仕事です。クズはきが終わったら、地面の虫をさがしにルリビタキやツグミもやってきます。



「北風の武蔵野」画 千木良宣行氏



キクイタダキ
体重5g。日本で見られる野鳥では一番小さい



コゲラ
スズメくらいの大きさ。キツツキ類の中では一番小さい



アカゲラ
全長24cmほど。中型のキツツキ



ルリビタキ
スズメくらいの大きさ。冬鳥、オスはるり色の羽



最近は市民も落ち葉はきに参加



シジュウカラの巣箱の掃除

巣箱を覗いてみると・・・
シジュウカラは体重20gほどですが、コケ、獣毛などを集めて体重を越える巣床を作り産卵する。



巣箱の中



巣床いろいろ



クロスジフユエダシャク♂



同 ♀

冬になると雑木林の中を白っぽい蛾が飛んでいる。クロスジフユエダシャクのみです。♀は羽がなく樹皮にとまって♂の来るのを待っている。両者とも口はなくただ交尾をして子孫を残すだけの究極の生命体。生存戦略として敵の少ない冬を選んだのでしよう。

春を待つ冬芽



コナラ



ヌルデ



ネジキ



オニグルミ



アカメガシワ



マルバアオダモ



ヤマコウバシ



エゴノキ



リョウブ

雑木林のキノコ

雑木林には色々な種類の樹木があります。樹木は葉から太陽エネルギーとCO₂を得て光合成をし、根から無機養分を得て成長し繁茂することは万人の知るところです。ただ、樹木とキノコが共生関係にあり地球上の緑の広がりにも役立っていることは余り知られていないようです。キノコは菌類に属し普通は姿が見えない菌糸の形で集団生活をしていますが、繁殖のため胞子をつくり、放出するためにキノコとして姿を現します。

キノコは自身の栄養の摂り方の違いで3つの型に分かれます。腐生菌、菌根菌、そして寄生菌です。腐生菌はものを腐らせて栄養を吸収する型で、植物体内中のリグニンやセルロースを分解し養分とします。菌根菌は上に述べた共生型のキノコで、樹木の根毛とキノコ菌糸が、樹木の根からの光合成産物である有機養分をもらう代わりに、樹木へは窒素やリン酸などの無機塩類を与えます。即ち樹木の根だけでは手の届かないところからも菌糸が運んでくれるわけです。寄生菌は生きた植物や動物、さらにはキノコから一方的に養分を奪い取る型です。

具体例として腐生菌はシイタケが有名ですが、スーパーのキノコ類はすべてこの腐生菌型です。川越の林ではナラタケモドキ、マツオウジ、キツネノハナガサ、イタチタケ、オチバタケの仲間などです。菌根菌は人工栽培は不可能とされており、代表はマツタケですが、川越の林ではベニタケ科の仲間、テングタケ科の仲間、イグチ科の仲間などです。寄生菌は少ないですが、ヤグラタケは他種のクロハツに寄生するキノコ、土の中で見つけにくい冬虫夏草ではセミタケやオサムシタンポタケなどが観察されています。

なお、キノコの詳細につきましては、当会発行の「川越の自然を訪ねて・きのこ編」をご参照ください。(問い合わせ：川越市環境政策課 P51参照)



オサムシタンポタケ（寄生）



アカヤマドリ



ムラサキヤマドリタケ



ヤマドリタケモドキ



チチタケ (白い乳液が出る)



アイタケ



キタマゴタケ



ケショウハツ



ルリハツタケ



タマゴタケ (菌輪)



テングタケ



ヤグラタケ



マツオウジ



マンネンタケ



キツネノハナガサ



ツチグリ



サンコタケ



ムラサキホウキタケ



ヒトクチタケ



ボタンイボタケ

2. 市民の森第1号

- 場所：小堤31番他
- 交通：東武東上線「鶴ヶ島駅」徒歩20分
- 面積：13,533㎡

名細中学校の南側にあり、東洋大学川越キャンパス「大越記念庭園」と道路を挟んで隣接する市民の森第1号は、川越市民の森指定要綱により1985年（昭和60年）に第1号として指定された、川越市が樹林所有者から借地して管理している樹林地です。面積は13,533㎡あり、入間台地と荒川低地の境界にある標高20mから26mの緩斜面林となっています。林内の西側には「鎌倉道」が残されています。



敷地の南側にある春日団地の一部は小畔川の旧流路で、南斜面の林縁部はスギ、ヒノキの針葉樹林、シラカシの常緑広葉樹林となっていて、一部クヌギが見られます。台地上はコナラ林で、アオハダやエゴノキも見られます。



西側は東洋大学「大越記念庭園」と隣接

なお、1881年（明治14年）発行の迅速測図では、川越キャンパスと同じ松林であったようですが、今ではアカマツは1本しかありません。

林床はよく管理されていて、市民団体の関わりがあったり、業者が枯損木の伐倒なども行ったりしているので散策にはよい空間です。ただし、駐車場がないのでご注意ください。



林内西側の鎌倉道



南側斜面の林縁部



林内のコナラ林

3. 市民の森第7号

- 場所：中台3丁目13番1他
- 交通：西武バス「今福中台」行
「つつじヶ丘住宅入口」徒歩6分
- 面積：6,458㎡

この森は久保川のそばにある6,458㎡の広さを持つ近所の憩いの場となっています。この森は南に農地、北は久保川をはさんで住宅地、西側は直接住宅に接しています。ここの植生はコナラが多く21種類の樹木、草本類も外来種を含めて66種類も生息しており、雑木林の面影を残しています。

この林は、散策にも利用されていますが、主にお年寄りのグラウンド・ゴルフに利用され、林の大部分は裸地化しています。住宅に接している場所には草地が緩衝地帯として存在し、久保川沿いは散策路とそばに草地が見られ、土手には外来の植物が多く見られますが、林内にはノカンゾウ、ヒメヤブラン、ミズヒキ、シロヤマギクなど雑木林によく見られる植物のほかにワレモコウ、マルバスマシ、ムラサキサギゴケなども見られます。この林には、甲虫のカブトムシやカナブンが見られ、チョウではヒカゲチョウやヒメウラナミジャノメ、コムスジなどが見られます。野鳥ではシジュウカラ、ヒヨドリなど種類は少なく静かな雑木林となっています。冬にはモズが渡ってきて、周辺の畑と農地ですごします。



久保川をはさんで左が市民の森



ジロポウエンゴサク



林の中

4. 市民の森第8号

- 場所：大袋452番1他
- 交通：西武新宿線「南大塚駅」徒歩20分
- 面積：14,408㎡

市民の森第8号は「埼玉川越総合地方卸売市場」に隣接する雑木林で、道路をはさんで東側と西側に分かれています。道路の入り口には人気のレストランがあり、地続きで雑木林の散策ができます。

どちらの雑木林もコナラ、クヌギを主体とする明るい雑木林で、小低木や、林床の草本など多様な植生が見られます。出色はキツネノカミソリ（準絶滅危惧種）で、川越でも最大級の群落を誇ります。市も保護に力を入れています。



道路を挟んで右が東側雑木林、左が西側雑木林、奥が卸売市場



新緑の頃の明るい林



林床のクサボケ(上)、ナルコユリ(下)

■キツネノカミソリ



ヒガンバナ科の植物ですが、ヒガンバナと違い種子ができて、このタネから球根を形成して増えていきます。球根が大きくなり花が咲くまでは数年要しますので、増え方は緩慢です。そのため生息している場所は限られています。

キツネノカミソリのライフサイクルはちょっと変わっていて下図のように葉が3月頃出て、一度姿を消し、7月末頃から花を咲かせます。

| 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|-----|-----|-----|
| 休眠期 | | 展葉期 | | 休眠期 | | 開花期 | | 休眠期 | | | |



この林には様々な樹種があり、高木層はクヌギ、コナラ、シラカシ、ムクノキ、ウワミズザクラ、エノキなど。小低木は、ウツギ、ウグイスカグラ、マユミ、ガマズミ、イボタノキなどが見られます。市の定期的な草刈りや、ボランティアの活動で散策しやすい森になっています。

5. 市民の森第6号

■場所：笠幡1674番他

■面積：3,224㎡

このあたりは40年前までは雑木林、畑の田園地帯でしたが、大規模な住宅団地が形成され緑は少なくなっています。この市民の森第6号も一部宅地化され、入口付近は狭く奥に広がっています。



6. 市民の森第9号

■場所：笠幡2646番1 他

■面積：10,547㎡

川越の西の端にあり、日高団地に隣接しています。入口に近いところはコナラ、クヌギ、ウワミズザクラなどの落葉樹、奥の方はヒノキ、スギなどが植わっています。林床はハエドクソウ、ヤブランなど雑木林によくある植生です。手入れはよくされており、ミズヒキの群落を残すなど配慮されています。すぐ前には幼稚園があり、住宅団地もありますので、近隣の住民によく利用されているようです。



7. ふるさとの緑の景観地

埼玉の緑を守る制度として1979年（昭和54年）に「ふるさと埼玉の緑を守る条例」を制定して、埼玉の緑を守る施策を推進してきました。2005年に「ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例」へと改正して、積極的に緑の保全と創出を行ってきました。2012年には一部改正し、県民の参加を求め「ゆとり」と「うるおい」のある埼玉県を目指しています。この制度の中で、川越市内に3カ所のふるさと緑の景観地を指定しました。



ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例 昭和54年3月15日制定 平成17年改正

| 景 観 地 名 | 指定地の面積 | 現地調査結果 | 計画の基本方針 | 施策方針 |
|---------------|--------|-----------------------|-------------------|-----------------------------------|
| 下赤坂ふるさとの緑の景観地 | 19.0ha | 動植物は樹林地の種や農耕地周辺に見られる種 | 武蔵野の面影を残す雑木林として保全 | 環境保全型農業とネットワークの形成。市民民間団体との協働による活用 |
| 上松原ふるさとの緑の景観地 | 10.5ha | | | |
| 中福ふるさとの緑の景観地 | 17.0ha | | | |

これらの景観地はいずれも川越市福原地区にあり、野菜生産地に隣接しています。過去には伝統的な「落ち葉たい肥」を作るために下草を刈り、落ち葉を集めた雑木林も、今はほとんど使われることもなく、放置されて荒れてきています。これらの林は5年ごとに見直しを行い、地権者の了解を得ながら現状まで続いています。しかし、相続などで開発や用途変更が少しずつ行われ、病院、資材置き場、産業廃棄物中間処理施設などに変化してきています。

1. 中福ふるさとの緑の景観地

30年以上前はアカマツが多く生育していましたが、松枯れ病が発生して多くのアカマツが枯れてしまい、現在はコナラ中心の雑木林となっています。その残りにヤマツツジが



春に花を咲かせます。その中で、今も1カ所だけ手入れがされて落葉掃きが行われており、ミヤマセセリやフデリンドウが見られます。近くにはキンランも咲いて丘陵的な要素が残されている景観地となっています。しかし、多くは手入れが放棄されたり、資材置き場になったりしています。

2. 下赤坂ふるさとの緑の景観地

下赤坂と上松原にまたがり、耕作地に挟まれた横長の景観地で、真ん中に車道で南北に分けられています。林内に足を踏み入れると手入れが放棄されている林が多く、倒木や落枝が林床に横たわって歩きにくい。境界のヒノキも太くなっています。落葉掃きをしている林は雑木林にニガナやヤブランなど特有の野草が生育しています。野鳥はシジュウカラ、エナガ、ヒヨドリと定番で春の渡りのキビタキや冬の鳥でカケスが見られます。雑木林のコナラを食草とし、この場所に生息するウラナミアカシジミ、雑木林を生息環境とするイチモンジチョウ、サトキマダラヒカゲ、ヒカゲチョウが見られました。また、樹液に絶滅危惧種のヒオドシチョウが数頭群れているのが見つかりました。



3. 上松原ふるさとの緑の景観地

農家の裏ヤマの性格を持つ一番小さな景観地です。アカシデが多く春には林が少し赤く見えるほどでした。雑木林は落ち葉供給と西風から農家を守る役割を持っていました。現在は、手入れがほとんどされずに、一部には資材置き場や工場から変わったサバイバルゲーム場になっています。2020年になって北端が伐採され、残土処理場へと変更されました。林を歩いてみると針葉樹の植林地もあるのですが、比較的歩きやすい。ここにはウラナミアカシジミとアカシジミが生息しており、コナラが多い雑木林となっています。また、野鳥では春の渡りにキビタキが来ています。



4. ふるさとの緑の景観地の再生へ

合わせて約46haの雑木林の面積を持ち市内有数の樹林地となっています。現在少なくなったとはいえ循環型農業への利用も続いていますし、市有地も存在しています。埼玉県は2014年に市民参加での緑の創出を目標にして、「市

民管理協定制度」を創設して緑地の管理・拡大に県民の協力を進めています。そのために、里の山守活動支援事業を立ち上げ、市民団体の緑地保全活動が計画的かつ継続的に実施されるよう、彩の国みどりの基金を活用して活動支援のための補助を行っています。私たちの身近に存在する自然環境を保全することは、環境保全機能、生物の多様性を守る、自然とのふれあい機能を維持するなど多面的な機能を保有しており、地域の景観を守り、日本農業遺産を維持する基本ともなる環境です。県や市の理念・制度を活用して、ふるさとの緑の景観地の再生を実現できる希望を持ち続けたいです。

コラム 雑木林のクヌギの樹液にやってきた昆虫

樹木に穴を開ける生き物は色々いますが、多いのはカミキリムシの仲間です。木に産み付けられた卵から孵った幼虫は木の内部を食べて育ちます。その時に開けた穴から樹液が出てきます。昆虫達はにおいをかぎつけてやってきます。森のレストランです。

チョウの仲間



ゴマダラチョウ



アカタテハ



ヒオドシチョウ



ヒカゲチョウ



サトキマダラヒカゲと
アカボシゴマダラ



サトキマダラヒカゲと
シロテンハナムグリ

甲虫の仲間



カブトムシの求愛



キマワリ



ヨツボシオオクスイ



オオスズメバチ

ハチの仲間

元の地権者は短冊状に区分されていて、現在でもヒノキの境界木が各所に残されており、その境界が植生の区分にもなっています。植生としてはヒノキ林とコナラ林、大越記念庭園ではこれらに加えてアカマツ林、また境界のあいまいな針広混交林に大別されます。約5.4haを有する「こもれびの森」では2016年度に毎木調査が実施されており、胸高直径3cm以上の樹木が株立ちや枝分かれも含めて3,815本確認されました。上位10種はヒノキ597本、コナラ593本、エゴノキ520本、アオハダ498本、ヒサカキ312本、シラカシ232本、ムクノキ187本、スギ99本、ウワミズザクラ98本、リョウブ82本となっており、クリ、ヤマザクラも多く見られます。

草本や低木では、春はシュンラン、タチツボスミレ、タチシオデ、ホウチャクソウ、ササバギンランなどが見られ、大越記念庭園にはキンランの群落もあります。夏はコアジサイ、フタリスズカ、シモツケ、ヤマユリ、ヤブミョウガなどの群落が見られます。「こもれびの森」を貫く「こもれびの道」沿いにおいて2018年と2019年に行われた植物相調査では、草本、木本、シダ植物を含めて325種の植物が確認されています。



コアジサイ



クツワムシ



ルリボシカミキリ



ニホンミツバチの巣穴



アカゲラ



大越記念庭園



里山林保全活動の様子



自然再生エリアのアカマツ実生

動物は経年調査が行われていませんが、埼玉県レッドリストで絶滅危惧IB類に指定されているクツムシが「こもれびの森」に多数生息しており、8月を中心にガチャガチャと大きな鳴き声が響き渡ります。また、ルリボシカミキリが発見されたり、ニホンミツバチの巣穴が複数発見されたりと、さまざまな昆虫の生息が確認できます。鳥類はアオゲラ、アカゲラ、コゲラなどのキツツキ類が確認されていますが、2013年冬期の調査結果によるとシジュウカラ、ハシブトカラス、ハシボソガラス、キジバト、メジロ、カワラヒワなどの留鳥が中心であり、渡り鳥が少ないとされています。

東洋大学では、2014年6月に「こもれびの森・里山支援隊」が結成され、これまで長年管理放棄されてきた「こもれびの森」の林内の保全活動が市民とともに進められてきました。以前は10m先が見えない状況であった林内の見通しがよくなり、林床の植生が豊かになりました。また、キャンパス開設当時にグラウンドとして開発された約0.9haの敷地が2015年3月に「自然再生エリア」として植樹され、生物多様性の回復が図られています。最近ではアカマツの実生が出現しています。

こもれびの森・里山支援隊の保全活動については、大学ホームページ (<https://www.toyo.ac.jp/>) の「こもれびの森・里山支援隊」に掲載されています。2020年3月には『東洋大学「こもれびの森」植物図鑑』が発行され、ホームページからダウンロードできます。



こもれびの森の林内 (2014年6月14日)



こもれびの森の林内 (2018年5月12日)



自然再生エリア (2015年3月31日)



自然再生エリア (2018年5月12日)

コラム 川越における「ナラ枯れ」の発生

2020年夏、「(仮称)川越市森林公園」計画地内で「ナラ枯れ」に感染したコナラを約60本確認しました。ナラ枯れとは「カシノナガキクイムシ(カシナガ)」という5mmにも満たない昆虫が木から木へ運ぶ「ナラ菌」が原因となり、コナラ等の木を枯死させる木の伝染病です。ナラ枯れは、1980年代末以降日本海側を中心に猛威を振るい、2000年代には太平洋側にも広がり、ついに川越にも侵入してきました。



カシナガの雄

カシナガは、夏から秋、木の幹に穿孔して潜り込み産卵します。生まれた幼虫は、翌年の春、数十匹以上に数を増やし、ナラ菌を背負って飛び立ち、周辺の木に穿孔し潜り込むことによりナラ枯れを拡散させます。

ナラ枯れを防ぐには、感染木を伐採し焼却するなどカシナガの発生を止めることが大切です。そのためには、ナラ枯れ感染木を早く見つけ、県や市の担当部署に連絡してください。感染木は以下のような特徴があります。



根元に白いフラス(木くず)



幹に2mm前後の丸い穴



茶褐色に枯れた葉

9. くぬぎ山

川越市、狭山市、所沢市、三芳町の3市1町にまたがる雑木林（約152ha）です。江戸時代から続く循環型農業が300年以上農家によって維持されてきました。しかし、燃料としてのマキ等の需要がなくなり、伐採更新が行われなくなり、手を入れていない場所が広がってきました。そのため、産業廃棄物処理施設などが増え、ダイオキシンの発生で問題となりました。

平成14年に「くぬぎ山自然再生計画検討委員会」が開催され、産廃焼却施設跡地に埼玉県と狭山市が樹林地再生事業を実施し、平成16年に「くぬぎ山地区自然再生協議会」が発足しました。この協議会は「文化的・環境的価値を継承することを目的として、自然再生推進法（平成14年法律第148号）に基づいて設置されたもの」です。しかし、平成30年6月を最後に協議会が開催されていません。首都圏から30kmに位置するこの雑木林は、非農家や近隣に居住していない土地所有者の増加や相続等を契機として改変しやすく、公的な資金の介入なしでは、保存が難しくなっています。こんな中、所沢市は独自で、平成24年から30年にかけて、特別緑地保全地区「くぬぎ山・駒ヶ原の森」として約8.2ha取得しています。



くぬぎ山 ドローン映像 上方が北

平成29年に行われた自然環境調査（平成29年5月12日～平成30年3月30日）の報告書から以下のものが確認されました。（委託先：株式会社 建設技術研究所）

注目すべき重要種

植物類（16種）

ウメガサソウ・シャクジョウソウ・レンゲツツジ・アイエナ・センブリ
クチナシグサ・ナンバンギセル・オミナエシ・コオニユリ・キンラン
ササバギンラン・サイハイラン・シュンラン・ミヤマウスラ
クモキリソウ・オオバノトンボソウ

昆虫類（22種）

チビハサミムシ・クツワムシ・カヤコオロギ・オオオカメコオロギ
クルマバッタ・ヒナバッタ・ショウリョウバッタモドキ・ヒメナガメ
ヤマトフキバッタ・ヤスマツトビナナフシ・アヤヘリハネナガウンカ
ヤマトシリアゲ・ミヤマセセリ・オオチャバネセセリ・コツバメ
オオミドリシジミ・ウラナミアカシジミ・ヒオドシチョウ・コシロシタバ
チョウセンゴモクムシ・シロスジカミキリ・モンズメバチ

鳥類（14種）

アオサギ・トビ・オオタカ・ノスリ・チョウゲンボウ・アオゲラ
ルリビタキ・ウグイス・キビタキ・コサメビタキ・エナガ・ヒガラ
ヤマガラ・ホオジロ

両生類・爬虫類・哺乳類（4種）

ニホンヤモリ・アオダイショウ・ホンドアカネズミ・ホンドタヌキ

もともと都市近郊の貴重な緑地空間であるくぬぎ山地区の緑地を保全し、未来の世代に引き継ぐため継続的な活動が望まれます。



駒ヶ原の森入口



ミヤマウスラ（準絶滅危惧種）



10. 大堀山館跡

- 場所：川越市下広谷332番1他
- 交通：川越駅より東武バス「若葉駅」行き
下広谷下車
駐車場なし



県指定史跡 平成16年3月23日

大堀山館跡は市の北西部、坂戸市との市境に残る中世の城館跡で、今から約500年前の戦国時代に築られました。一辺約180m、三重の堀と土塁で囲まれた方形を呈し、この種類の城跡としては埼玉県内で最大級の規模と良好な保存状態を誇ります。

関東の覇権をめぐり争われた戦国時代、交通の要衝を押さえることは軍事的・経済的にみて重要な戦略の一つでした。大堀山館跡の周辺をみると、すぐ東には、中世の南関東と北関東を結ぶ主要ルート^{いかつとじん}の鎌倉街道が通っていました。また、すぐ西を通る県道は、扇谷上杉氏の川越城と鉢形城、山内上杉氏の五十子陣（本庄市）を繋ぐ当時のルートと重なります。

つまり大堀山館跡は、戦国時代の関東における主要な二つのルートの交わる重要な拠点を押さえるという役割を担って築かれた城であったと推定されます。下広谷周辺にはこのほかにも宮前館跡など数か所ありましたが、今は住宅地などになっています。

発掘調査も何度か行われ、昭和58年（1983年）の調査では15～16世紀の



5月頃の鬱蒼とした樹林



しばらく行くと看板がある



土塁の上 2010年3月



ほぼ同じ場所 2019年11月

陶磁器が出土しています。その後の調査では臼、桶、板碑などが確認されています。

また太平洋戦争中航空機格納のため、東南隅の土塁が一部破壊されています。

500年の時を経て、今や「夏草や兵どもが夢の跡」です。この館跡は開発行為などはなく温存されています。発掘調査時は樹木がまばらでしたが、現在は鬱蒼としています。東側はモウソウチクに覆われ次第に密になりつつあります。大部分はコナラ、ウワミズザクラ、ケヤキ、ミズキなどの落葉樹ですが、シラカシ、ヒサカキ、アオキ、シュロなどの常緑樹がしだいに繁茂してきています。ここは文化財ですので現状保存で伐採などの手入れはない、ということです。この先、照葉樹林に移行することが予想されます。



モウソウチクが広がっている
窪んでいる所は堀で次第に
埋まってきている



諏訪神社

もとは大堀山館跡の西北奥にあったが平成26年にバス停近くの明るい道路沿いに移築された

11. 雑木林の遊びかた

雑木林は生き物のすみかです。街中にはいない虫や、自然の樹木や草花が生えています。虫の中にはスズメバチやアブなど攻撃的な昆虫がいます。植物の中にはトゲがあったり、かぶれたりする種類もありますので気を付けて入りましょう。

服装：スズメバチに襲われやすくなるので
黒っぽい服や帽子は避けてください。

帽子をかぶる



白っぽい
長そでの上着



長ズボン



歩きやすい靴と
長めの靴下



持ち物：

- リュックサック
- 水筒（飲み物）
- タオル
- 軍手
- 筆記用具一式
- 虫よけ
- 自分で必要と思うもの



虫の観察会



落ち葉はき

親子で参加できる観察会や体験活動

| 開催場所・団体名 | 活動内容・実施日 | 参加者募集方法検索先 |
|---|--|---|
| 〔(仮称)川越市森林公園]計画地 住所：砂新田・今福地内 集合：川越南文化会館 (ジョイフル) | 定例開催(調査・保全) 毎月第2・4月曜日 9:30-12:30 | ・月刊かわごえ環境ネット(毎月発行)：市役所(環境政策課窓口)、公民館などで配布 ・HP(ホームページ)は「かわごえ環境ネット」で検索 ・広報川越 |
| | 不定期開催(観察会) 「キノコの観察会」 6月末か7月初旬 | |
| | 「虫の観察会」 7月末か8月初旬 | |
| | 春の平地林散策と野菜収穫 秋の平地林散策と野菜収穫 | |
| 池辺公園 住所：八瀬大橋下流右岸 集合：現地 | 定例開催(調査・保全) 毎月第2火曜日 9:00-12:00 | 月刊かわごえ環境ネット |
| 東洋大学川越キャンパス 住所：鯨井2100 | 不定期開催(観察会) 夏休み・大学祭(11月) | HP「東洋大学こもれびの森」で検索 |
| NPOかわごえ里山イニシアチブ 住所：福田439 | 不定期開催 田植え、田んぼの生き物観察会など | ・月刊かわごえ環境ネット ・HP「かわごえ里山」で検索 |
| 福原ファームクラブ 住所：今福689 集合：現地(明見院) | 毎月第2土曜日 9:30-12:30 | 月刊かわごえ環境ネット |
| くぬぎ山・三富今昔村 住所：三芳町上富緑1598-2 | 年間計画 月曜日～土曜日 | ・石坂産業株式会社 ・HPで検索 |

その他、アウトドア・自然系の市民団体

| 団体名 | 活動内容 | 備考 |
|------------------|--------------------------|-------------------------|
| 小畔川の自然を考える会 | 定例の魚類調査 夏に「小畔川で魚とり遊び」 | 月刊かわごえ環境ネット |
| 埼玉県生態系保護協会 | 野鳥観察会など | HP「埼玉県生態系保護協会」で検索 |
| NPO 埼玉森林サポータークラブ | 森の保全再生 | HP「埼玉森林サポータークラブ」で検索 |
| NPO 荒川流域ネットワーク | 魚類の遡上調査、川遊び | HP「NPO 荒川流域ネットワーク」で検索 |
| 武蔵丘陵森林公園の自然を考える会 | 植物、昆虫、クモなどの観察会 | HP「武蔵丘陵森林公園の自然を考える会」で検索 |
| 川越緑のサポーター | 平地林の手入れ | 問い合わせ：市役所環境政策課 |
| 川越巨樹・古木の会 | 巨樹・古木の紹介 | 問い合わせ：市役所環境政策課 |
| 川越フォレストクラブ | 平地林の保全・再生 | 問い合わせ：市役所環境政策課 |

問い合わせ：かわごえ環境ネット事務局(川越市環境政策課)

Tel 049-224-5866 / Fax 049-225-9800

川マップ





概 略

埼玉県は「海なし県」ですが、利根川、荒川という大河をはじめ多くの川があり、川の流域面積は県土の3.9%で全国一、さらに水辺面積を含めると5%にもなり、まさに「川の国」なのです。県はこの川の魅力を生かすため、平成20年から23年まで「水辺再生100プラン」事業を行ってきました。川越では南小畔川、小畔川で実施されました。その後平成24年から「川のまるごと再生プロジェクト」にステップアップし、10の河川で、25年には7の河川を加えて川の上流から下流まで通しての事業が始まりました。入間川も対象になり、菅間堰や笹井堰に念願の魚道がつけました。このように水辺再生された地域で新たに市民が川の魅力を発信する活動が始まっています。

川越には荒川、入間川、小畔川、新河岸川、不老川などが流れていてそれらの支流もあり、さらに用水路も水田地帯に張り巡らされています。それでは水系ごとに成り立ちと自然の様子を見てみましょう。

1. 荒川流域

源流は甲武信ヶ岳ですが、起点は東京大学秩父演習林内の入川にあります。一級河川、流路延長173km、流域面積2,940km²、流域人口930万人。川幅は御成橋付近（鴻巣市）で2,537mになり日本一です。荒川はその名前のとおり、過去幾度となく荒れ、流域に被害を与えてきました。江戸時代には「利根川の東遷、荒川の西遷」の大工事が行われ、元々、利根川の支流であった荒川を入間川につなぎ、利根川は太平洋側に流路を変えました。古利根川、元荒川という川はその名残です。

現在も水害に対する対策は間断なく行われ、埼玉・東京の境には「彩湖」、岩淵水門など、昔は江戸を守るため、今は東京を守るため埼玉県内で水量調節をしています。一方、荒川の水は、広く農業用水や発電用水、水道用水として利用され、地域の人々に多くの恩恵を与えるとともに地域の発展を支えてきました。



秩父東大演習林入川 荒川起点標

川越で荒川は入間川と合流し東京湾へと向かいます。市内域は6.3kmしかなく、河畔はゴルフ場になっていてあまり深入りできない状況ですが、土手や川筋は雄大な景観が楽しめます。また三ツ又沼ビオトープは旧荒川の流路であったところで、ハンノキなど湿地性の自然が見られます。



荒川・入間川合流点 上方が北 左が入間川、橋は上江橋 ドローン撮影

2. 入間川流域

荒川水系の一級河川で、流路延長67.37km、流域面積689.39km²。上流部は名栗川とも呼ばれます。標高1,294 mの大持山の南東斜面に源を発し、飯能市、入間市、狭山市、川越市を流れ、その間に成木川、霞川、越辺川などの支流を合わせ、さいたま市と川越市の境界付近の川越市大字古谷本郷で荒川に合流します。

昔はもっと上流で合流していて水害が頻発していました。洪水の多かった合流点地域の人々は水塚（みずか）と呼ばれる一段高く土を盛り上げた上に避難小屋を建て、舟などを準備していたそうです。幾多の苦難を経て1954年（昭和29年）に現在の下流位置に付け替えの工事が完了しました。

上流から下流まで大きな川なので、自然も多彩です。魚類、昆虫、植物など調査されている種は多いですが、外来種も急速に増えてきて、在来種を圧迫しています。河原で遊んだり、釣りを楽しんだりする人も見られます。

入間川は昔から生活と深い関わりがあり、大正の頃には吾野方面から西川材が筏に組まれて東京方面に運ばれていました。また、農業用水としても流域の水田を潤してきて、川越では赤間川、伊佐沼などが入間川からの取水です。取水のための横断堰が、菅間堰、寺山堰、浅間堰とあり、魚類の遡上を阻んでいました。

近年、河川の水質がよくなり、荒川にもアユが東京湾から自然遡上するようになりました。荒川から入間川に入ったアユが菅間堰で立ち往生する現象が目立つようになり、2009年に市民団体が魚道の設置を各方面に働きかけ始めました。河川には様々な法令や古くからの水利権や漁業権があり、それらを調整しながら最終的には2017年「川のまるごと再生プロジェクト」で魚道設置がなされました。その間、10年間にわたり市民団体は入間川水系のアユの自然遡上の調査を続けてきました。



現在の菅間堰 右のカーブしたところが魚道



魚道近影

右上の写真は2009年当時の菅間堰です。長年にわたり河床が洗掘され、落差が2 m以上になっており、とても魚類が遡上できる状態ではありませんでした。今はアユなどが自然遡上する姿が目視できます。



寺山堰 魚道設置前 (2013年)



寺山堰 階段式魚道ができた

市民団体の取り組み

魚道ができるとアユがどこまで上れるか調査のため、毎年上流に移行しながら実験放流し、2017年には上流の名栗川まで確認できました。



アユ稚魚の脂びれを注意深くカットする これを標識アユとする



参加者で10000匹位の標識アユをつくる



調査目的の堰上に標識アユを放流し、成長したアユを採捕する



遡上の確認と流域市民の、魚とり遊び・体験のため、毎年「地曳網イベント」を行い市民の川への関心を高めました。(NPO法人荒川流域ネットワーク)



雄大な入間川

入間川流域には自然スポットが点在し、市民の憩いの場となっています。

狭山に近い上流から「安比奈親水公園」、「増形緑地」、八瀬大橋の近くでは「池辺公園」、関越道を越えて「水上公園」、上戸緑地、寺山緑地と続きます。個別の紹介は後のページをご覧ください。



サイクリングロードが整備されていて快走できる



八瀬大橋下の河原

3. 小畔川流域

小畔川は総延長20.0km、流域面積66.7km²の荒川水系の一級河川です。水源は、高麗丘陵の中にある宮沢湖（飯能市）で、主な支川である神流川と南小畔川を合流しながら、日高市、川越市を東流し、川島町角泉で越辺川に合流します。越辺川はさらに約1km下流で入間川に合流します。

上流域（宮沢湖から日高市武蔵高萩上流）

宮沢湖は小畔川が侵食してできた谷を利用し、1941年（昭和16年）に造られた灌漑用の貯水池です。その主水源は入間川（小瀬戸地区）で、昭和16年に完工した延長5.4kmの導水路を通して湖に流入しています。宮沢湖の堤防下から続く源流部は、灌木などが生い茂り水際へのアクセスは良くありませんが、良好な自然環境が保たれており、これまでの水生生物調査でも、ヘビトンボ（幼虫）、サワガニなど、きれいな水の指標となる生物が採捕されています。

県道30号を横切り、日高市の市街地に入ると、川は宅地と耕作地の間を縫うように流れていきます。



宮沢湖



源流調査風景

中流域（日高市武蔵高萩から川越市内）

国道407号を過ぎる辺りから左岸は水田地帯となり、右岸は宅地、河畔林、耕作地が混在するようになります。笠幡地区の手前で神流川が合流し、淵にコイなどが泳ぐ姿を見ることが出来ますが、流域にはいくつもの可動堰（ラバー堰）が設置され魚の遡上が制限されています。関越道を過ぎると南小畔川が合流し、川の水幅は13mに広がり、川底は平瀬で水深は約20～30cmとなります。



田谷橋のラバー堰

■スポット

川越市笠幡地区左岸の台地には「尾崎神社」が鎮座しています。御伊勢橋の麓左岸に「小畔水鳥の郷公園」が、右岸には「御伊勢塚公園」があり、両公園を結ぶ「おいせ橋通り」には見事な桜並木やケヤキ並木があります。「御伊勢塚公園」に隣接する「かほく運動公園」前の川べりは「川の国埼玉水辺再生100プラン」により親水公園が整備されています。また、八幡橋下流には「八幡神社」があり、鳥居の麓には豊富な清水が湧き出る池があります。さらに下流の精進場橋の手前には「なぐわし公園」があります。この流域には、この他にも散策・川遊びに適したところが随所であり、多くの市民の憩いの場となっています。



おいせ橋通り



御伊勢橋から下流方面



花見の頃



カワセミ



タニガワカゲロウ

■川辺でよく見かける生物

(植物) 水際の湿地を好むものや、河原の砂礫地に生息するものなど。

アシ、イヌタデ、フトイ、カワヂシャ、タネツケバナ、カラスノエンドウ、アカツメグサ、コヒルガオ、チガヤ、メマツヨイグサ、カヤツリグサ等

(鳥類) 水辺で見られる野鳥の外、普段平地にいる野鳥も河原で見かけます。

カワセミ、コサギ、カルガモ、カワウ、セキレイ類、ツグミ、スズメ等

(魚類) 川の中・下流域に分布する魚種が多く、外来種も増加しています。

オイカワ、カマツカ、モツゴ、ニゴイ、アブラハヤ、ギンブナ、ドジョウ、ヨシノボリ、カワムツ、ウグイ、ブラックバス、ブルーギル等

■ 「親子で魚とり」



ガサガサで採れた
20cm超の大きな
スッポン
最後は川へ
帰します



採った魚を真剣な表情で見る子ども達

かほく運動公園前川べりで、普段川に入る機会のない子ども達が魚網を使い、一生懸命魚やエビを採り、親子で楽しいひと時を過ごします。(小畔川の自然を考える会・かわごえ環境ネット共催イベント)

下流域 (精進場橋から越辺川合流点)

「棘橋」を過ぎると右岸は平塚地区の田園地帯が一面に広がります。さらに下流の小畔川最後の橋である「鎌取橋」の土手からは、落合橋を目指し小畔川と並走するように流れる入間川の土手が遠望され、いかにも堤内らしい景色に出会えます。また、この地域の左岸流域は、2019年10月に発生した台風19号による越辺川の堤防決壊で、住宅、ケア施設、霊園などの施設に多大な被害が及んだ地域です。この下流域になると、川はゆるく蛇行し、瀬や淵も適度にあり自然河川らしい状況になります。川べりはアシ、アレチウリ、セイバンモロコシなどの野草が生い茂り、散歩する人は土手の上を歩きます。「鎌取橋」からおよそ1kmで落合橋に達し、その下流で越辺川の右岸に合流します。

■「小畔川の自然を考える会」による水生生物の調査結果（2010年～2019年）

| 【魚 類】 | | | | 【魚類以外】 | | | |
|----------|---------|-----|-------|----------|----------------|-----|-------|
| 科 | 種 名 | 源流部 | 八幡橋下流 | 分類 | 種 名 | 源流部 | 八幡橋下流 |
| コイ | オイカワ | ● | ● | トンボ目 | サナエトンボ(ヤゴ) | | ● |
| | カマツカ | | ● | | コオニヤンマ(ヤゴ) | | ● |
| | モツゴ | ● | ● | | ハグロトンボ(ヤゴ) | | ● |
| | タモロコ | ● | ● | | ミヤマカワトンボ(ヤゴ) | | ● |
| | アブラハヤ | ● | ● | | イトトンボsp(ヤゴ) | | ● |
| | コイ | | ● | ヘビトンボ目 | ヘビトンボ(幼虫) | ● | |
| | ギンブナ | | ● | トビケラ目 | ウルマーシマトビケラ(幼虫) | | ● |
| | ゲンゴロウブナ | | ● | カゲロウ目 | タニガワカゲロウ(幼虫) | | ● |
| | カワムツ | ● | ● | ハエ目 | ガガンボ(幼虫) | | ● |
| | ニゴイ | | ● | コウチュウ目 | ヒラタドROMシ(幼虫) | | ● |
| ドジョウ | ウグイ | ● | ● | エビ目 | ヌカエビ | ● | ● |
| | タナゴ | ● | ● | | ヌマエビ | | ● |
| | ドジョウ | ● | ● | | テナガエビ | | ● |
| | シマドジョウ | ● | ● | | スジエビ | ● | ● |
| ナマズ | ナマズ | | ● | | モクズガニ | | ● |
| ギギ | ギバチ | ● | ● | サワガニ | ● | | |
| キュウリウオ | アユ | | ● | アメリカザリガニ | ● | ● | |
| メダカ | メダカ | | ● | 貝類 | マシジミ | ● | ● |
| ハゼ | トウヨシノボリ | ● | ● | | マルタニシ | ● | ● |
| | ヌマチチブ | | ● | | カワニナ | ● | |
| サンフィッシュ | オオクチバス | | ● | カエル目 | トウキョウダルマガエル | ● | ● |
| | | | | ウシガエル | ● | ● | |
| 採捕された魚種数 | | 11 | 21 | 採 捕 種 数 | | 10 | 19 |
| 調 査 回 数 | | 3 | 15 | 調 査 回 数 | | 3 | 15 |

落合橋付近 上が上流。左側が川越市、右が川島町。川は左から入間川、小畔川、一番右が越辺川です。500mほど下流で小畔川は越辺川に合流、さらに1km下流で越辺川は入間川に合流。



4. 新河岸川流域



新河岸川 旭橋を望む

概要

新河岸川は全長34.6kmの一級河川、流域面積389.9km²です。地図上の起点は上野田町JR川越線の近く、八幡橋すぐ上流にあり、石標が立っています。起点標から上流は赤間川とよばれ、水は入間川からの取水で入間市笹井堰などから引かれ、農業用水として利用されてきました。市街地北側を包み込むように流れ、不老川、九十川と合流します。川越を越えると、柳瀬川、野火止用水、黒目川、白子川などと合流しながら東京都北区の岩淵水門付近で隅田川に合流します。川越市内の流路距離は11.7kmです。



新河岸川起点標



岩淵水門付近
(出典：関東地方整備局ホームページ)

新河岸川の昔の名称は、上流を赤間川、市街地付近を伊佐川、渋井付近を渋川、その下流を荒川の外川に対して内川と呼ばれていました。江戸時代、寛永15年（1638年）の川越大火で喜多院・東照宮が類焼し、仙波東照宮の再建資材が、新河岸川を利用し寺尾村の五反田で陸揚げされました。この直後に川越藩主になった松平信綱は、川に「九十九曲り」と言われる多数の屈曲を持たせることによって流量を安定化させる改修工事を実施し、江戸と川越を結ぶ舟運ルートとしました。これ以降、本川沿岸には新たに川越五河岸（扇河岸、上・下新河岸、牛子河岸、寺尾河岸）をはじめとした多くの河岸場が作られ、川の名も「新河岸川」と呼ばれるようになりました。

舟運は特に江戸時代末期から明治時代初めにかけて盛んになり、様々な物資が江戸と川越を行き交い、物流の大動脈であったようです。明治12年（1879年）には最上流の仙波河岸が誕生しましたが、これ以後舟運は鉄道に取って代われ、昭和の初めに幕を閉じました。

現在、新河岸川は首都圏に位置しており、流域人口は250万人にもなります。かつて不法投棄ゴミ、農薬や都市化の影響で水質の悪化もありましたが、関係者の努力によりかなり回復しました。流域には多くの市民団体が活動しており、「新河岸川流域川づくり連絡会」には19の団体が加入し、自然環境の回復・保全のため活動しています。



赤間川公園



濯紫公園

上流域

新河岸川起点標からしばらくは田畑、住宅の間を流れ、旧市街地に近づく「赤間川公園」（通称パンダ公園）、「濯紫（たくし）公園」などが右岸にあります。さらに進むと田谷堰があり、レトロな雰囲気に興味をそそられます。昭和13年に建立とあります。田谷堰前で代々農業を営む方から、新河岸川の昔の話を聞きました。

田谷堰からは当時3本の水路が引かれていて、いずれも農業用水で、赤間川と呼ばれ最後は伊佐沼に流れていました。今では取水口は塞がれていますが、新興住宅地の間の窪地、254号バイパスには旧赤間川欄干など、今でもその川筋の痕跡は残っていました。田谷堰付近には丸馬場（まるばば）、太田道灌居住地跡、どうかんばし、妙義神社などの旧跡があります。



田谷堰



旧赤間川欄干

中流域

田谷堰から下流は直線状で単調な流れになっています。その訳は、昭和9年（1934年）に仙波河岸跡から旧市内に向かって開削され、市街地の北側で伊佐沼に流れていた赤間川とつなぐれ、現在の新河岸川となったからです。仙波河岸跡は現在「仙波河岸史跡公園」として整備され市民の憩いの場となっています。この少し下流の置橋の先で不老川と合流します。

ここから下流は平成10年（1998年）の大雨による洪水で激甚災害の指定を受け大規模な防災工事が行われました。そのようにして「寺尾調節池」も生まれました。



太田道灌にちなむ道灌橋



田谷堰下流桜並木

5. 寺尾調節池周辺

- 場所：寺尾地区
- 交通：東武東上線 新河岸駅下車 または JR川越線 南古谷駅下車 徒歩25分
- 面積：13ha

この調節池は新河岸川の洪水対策の一環として造成され、貯水量は36万 m^3 と言われています。市民のオアシスとして利用できる施設として平成13年に完成しました。昔、近くには寺尾貝塚や室町時代に築城されたといわれる「寺尾城」がありました。寺尾調節池周辺は湿地帯で、江戸時代にはカモの集まるところでした。川越城からも近く手頃な御鷹場であり、鷹匠が住み鷹匠橋も存在しました。新鷹匠橋として名前は残っています。

調節池の堤防の周囲は、1,800mほどあり、朝夕に限らずウォーキングする近隣の市民に出会えます。また、調節池内に平成27年（2015年）木道の遊歩道が設けられ、虫網をかかえた家族連れが楽しそうに訪れます。



寺尾調節池付近から見える富士山



寺尾調節池の中



調節池内部の湧水の流れる小川と木道「ニコニコ橋」



新河岸川より武甲山を望む

新河岸川からの景色

土手からは、春先の菜の花、からし菜のお花畑の景色がみられます。冬にはヨシの紅葉も絵になります。新河岸川からの秩父の山々は季節、天候、時間によって変化が楽しめます。富士山はもとより武甲山、笠山を見ることができます。

■ 樹 木

右岸には河畔林が点在し、オナガ、ヒヨドリ、キジバトなど野鳥の棲みかになっています。樹種は、ケヤキ、エノキ、クスノキなど高木です。調節池内側の樹木は、治水上定期的に伐採されています。

■ 野 草

夏に近づくと土手は、ギシギシ、セイバンモロコシやオオブタクサが人の背と同じぐらいになり、川面が見えなくなるほどです。他に、湧水池特有の湿地植物ミゾソバ、クレソン、ウォーターマッシュルームなど年間70種ほど見られます。

■ チョウ

川辺特有のヒメウラナミジャノメのほか、調節池内の湧水の小川近くで、珍しいコムラサキ、アサマイチモンジやギンイチモンジセセリに遭遇することができます。他に、アオスジアゲハ、クロアゲハ、コムスジなど、年間20種ほど見られます。



アサマイチモンジ



コムラサキ



ヒメウラナミジャノメ

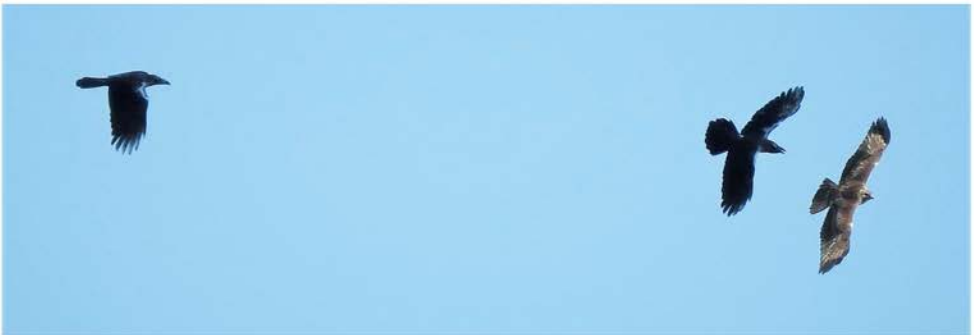
■ 野 鳥

新河岸川には、水辺の野鳥が多く、いくつかある湧水の沼地にも集まっています。時には、カワセミが小魚をくちばしでくわえたところに出会えます。カルガモは、ほぼ一年中見かけますが、5月には、川面からは姿がなくなり田んぼに移動します。5月下旬のころ、キジは土手脇の田んぼの畔で餌を探していました。時折、ケーンと鳴きながら羽ばたく姿を見ることができます。これは自分の縄張りを主張しているそうです。

10月～翌3月の川面はにぎやかです。カモ類、サギ類が飛んだり、もぐったり、羽の手入れと見ていて楽しいです。これらの獲物を狙って猛禽類のノスリ、オオタカ、トビもやってきます。川の上空をカラス達がトビを、モビング※する様子に出会うこともあります。なお、兩岸のヨシ原では、カワラビワ、ホオジロ、モズ、ツグミ、などの野鳥に出会うことができ充実した観察ができます。(年間40種ほど)



川岸から見てみるとアオサギとダイサギの漁場争いのよう ホシハジロのメス(上)とオス(下)



カラスにモビング※されるトビ

※モビング (mobbing) 擬攻撃：弱い立場の鳥がワシ・タカなど強い鳥に集団で向かい追い払うこと



カワセミ ハイ、ポーズ
新鷹匠橋にて



空を見上げる
アメリカヒドリ



ナポレオンハットのカモと
呼ばれるヨシガモ (絵)

■川の生き物

魚では、コイのほかギンブナ、ドジョウ、ナマズなどが確認できます。ほかには、ハグロトンボ、ツチガエルなどを見ることができます。また、寺尾調節池の湧水によってできた小川にはメダカ、スジエビやマシジミなどが生息しています。

■水生植物

新河岸川には、イトヤナギモ、オオカナダモ、ササバモなどがあります。スイレン科のコウホネは、上流の畳橋近くに小群落があります。



畳橋付近のコウホネ (準絶滅危惧種)



■湧水

寺尾調節池の内部に数箇所確認されています。また、新河岸川の右岸では、旭橋に近い日枝神社脇ほか数箇所あります。これらの湧水は、シーズンによっては涸れて確認できないことがあります。(湧水については、第5章を参照してください)

6. 不老川

昭和56年から60年まで不老川は公共用水域の水質調査でワースト1となつて一躍脚光を浴びました。それまでは農作地帯をのんびり流れ、冬には流れが途絶え正月を越さないという伝説の川（トシトラズ）としてふるさとの見慣れたのどかな景観の一部となっていました。水質は悪くなくても周囲の景観は自然の土手で平地を流れる排水路としての役割は持ち続けてきました。

この河川は新河岸川の支流として1級河川に位置づけられ、河川管理は埼玉県に移管され、南部漁協が漁業権を持っています。不老川の水源は東京都瑞穂町の耕作地の台地から浸透水が流れ出し今福川、久保川などの支流を合わせて、新扇橋（砂・岸町）で新河岸川に合流しています。

汚れた不老川の水質を改善するために、1998年に清流ルネッサンス（水環境改善緊急行動計画）と生活排水対策推進計画が策定されて水質改善の取り組みが進められました。水質測定の基準点は不老橋です。浄化施設の設置、還流水の導入が行われましたが、主に下水道の整備で水質の改善は目を見張るものがありました。この結果、水質は著しく改善され、臭いはなく

不老川の生物調査（むさし橋付近：川越市）

| 目 | 科 | 種名 | 2010年 | 2013年 | 2015年 | 2018年 |
|-----|------|---------|-------|-------|-------|-------|
| コイ | コイ | コイ | ● | | | |
| | | ギンブナ | ● | ● | ● | |
| | | オイカワ | ● | ● | ● | ● |
| | | カワムツ | ● | | | |
| | | モツゴ | ● | | | ● |
| | | タモロコ | ● | | | |
| | | カマツカ | ● | | | |
| ナマズ | ドジョウ | ドジョウ | ● | ● | ● | ● |
| | ナマズ | ナマズ | ● | | | |
| サケ | ギギ | ギギ | | | ● | |
| | アユ | アユ | ● | | | |
| ダツ | メダカ | メダカ | ● | ● | | |
| | ボラ | ボラ | ● | | | |
| スズキ | ハゼ | スミウキゴリ | ● | | | |
| | | ウキゴリ | ● | | ● | |
| | | ジュスカケハゼ | | | ● | |
| 合計 | | | 14 | 4 | 6 | 3 |

なり生きものも戻ってくるようになりました。川越市の生きもの調査ではアユやウキゴリの遡上やギバチやジュズカケハゼも見つかっています。附着珪藻や溶存酸素の増加で、水生生物が確実に生きられる水質に戻ってきました。水質が改善されてから、不老川は「生きものの棲める川」をめざして“瀬切れを克服する水量の確保や水生生物の生息環境の整備、温暖化による降雨の洪水対策”が水環境の改善を進めるための今後の中心的課題となりました。

この新たな課題に対応する組織として、県土木整備事務所、市による水環境改善委員会が結成され、不老川のモニタリングが行われています。狭山市での遮水工事に粘土を用いる工法が試行される予定です。

不老川の水環境を改善するには行政と住民団体の協力が欠かせません。「不老川を守る会」や「不老川流域川づくり市民の会」などが不老川のクリーン活動を実施し、流域のあり方を考えて積極的な活動を展開して大切な役割を果たしてきました。守る会等の活動の中心は狭山市の住民で、残念ながら川越市での取り組みはわずかというのが現状です。

熱気や関心が薄れ、イヌの散歩や野鳥観察など静かな川べりに戻りました。しかし、不老川は福原地域の自然景観で地域の環境を支え続けてきた貴重な川という視点から、きれいになった不老川を見つめ続けたのは“こどもエコクラブのこどもたち”でした。不老川を背中にしよって、行き帰りに眺めていた不老川に入り、水に直接触れ、川の生きものを探しました。2013年から16年まで4年間、川に入って水の感触を確かめたり、生きものを探したり、水量が多いときはライフジャケットで川流れを体験したり、地元の農家の人に驚かれました。その後、瀬切れが発生し夏の不老川観察は中止しましたが、当会が跡を継いで水生生物調査を続けました。

子どもたちが見つけたのは、アユ、アカミミガメ（大きかった）、そして投網や^{やな}築で魚を趣味で獲る人など少なくない人たちが不老川と関わりを持っていることでした。2019年の洪



水で遊ぶ子どもたち

水で中福（狭山市との境付近）の護岸が崩れ、橋の改修を護岸工事が並行して行われ、2020年の6月に修復が完了した後に不老川に行きました。そこで見た不老川は子どもたちが遊んだ時と変わって平瀬になっていました。1m



中福付近の改修工事

ほどもあった大きい石で作られた落差工は頭が見えるだけでほとんど砂利に埋まっていました。深みもなくなり平坦な川では水生生物が留まれる場所がなくなっており、探しましたが、稚魚とエビをわずかに見つけたただけでした。雨が降れば急流となり、なければ瀬切れとなる都市河川では

生きものが生き残るのは難しく試行錯誤は続くとは思いますが、工事の影響から抜け出てちょっとは、ましなふるさとの川になってほしいと思います。不老川について活動しなければならない課題は、1 県の河川整備計画の学習、2 不老川の生きもの調査や現地観察会、3 市民の会との連携、4 第3次水環境改善推進計画に基づいた川越市との意見交換、5 不老川の歴史を掘りおこし後世に伝えていく（風化しないように）、6 地域の総合治水を考える、7 多自然型川づくりをめざす提言など、一時の情熱だけでなく継続的かつ系統的な活動が求められていることでしょう。自然との付き合いは人の一生では計りきれない時間との付き合いとなるでしょう。

今、不老川は護岸の両側がフェンスで囲われており、親水護岸は4カ所程度で市民が川と触れる機会が少なくなっています。散歩や野鳥観察で通る人はいますが、関心を寄せる市民や関わる団体が少ないのが致命的な欠陥となっています。地域の環境を多面的にとらえる総合治水で、市民や団体をつなぐ仕掛けが求められているのかもしれませんが。

コラム 不老川 ちょっと昔のアルバム



2001年 改修前は小さな橋が
あちこち掛かっていた
遠くに富士山



2004年 エースコックあたり
護岸は自然に近い



2002年 砂久保橋
たもとのエノキ



2004年 岸町東上線鉄橋
もうすぐ合流点



2007年 合流点 右が新河岸川、
左が不老川 今は深く浚渫されている

7. 伊佐沼

■場所：伊佐沼584

■交通：JR「川越駅」東口より西武バス「川越グリーンパーク行」乗車「伊佐沼冒険の森」バス停 下車 徒歩5分
その他にもバス便あり

関東では千葉県の印旛沼に次ぐ面積をもち、南北800m、東西200m、周囲約2,500mの自然の沼で、灌漑用ため池として利用されています。江戸時代にはこの倍以上の広さがあったようです。

4月には桜、7、8月は古代蓮の花が楽しめ、子供に人気のある冒険の森（フィールドアスレチック）、広場、野外ステージ、徒渉池などがあります。年間を通じて釣人が訪れ、水と緑の拠点として、公園と沼が一体となって家族全員が楽しめる「ふれあいの公園」です。

ここの自然の特徴は沼に来る水鳥の種類、数の多さでしょう。（公財）埼玉



伊佐沼全景 上方左に冒険の森
内田泰永氏空撮

県生態系保護協会川越坂戸鶴ヶ島支部の30年間程の探鳥会記録では100種を超える野鳥が観察されています。また、時折迷鳥が飛来し、クロツラヘラサギ、レンカクなどの場合は遠方からバードウォッチャーが大挙して訪れ、大きなカメラの放列になりました。ここは関東でも有数のバードサンクチュアリと言えますでしょう。



セイタカシギとカルガモ



カイツブリの親子



古代蓮 2000年以上前の古代の蓮の実を発芽させ開花した大賀蓮です
ボランティアの方々が手入れしています

■キタミソウ（ゴマノハグサ科）

伊佐沼でキタミソウが「発見」されたことはちょっと奇跡に近いことでした。前掲の探鳥会で、ある会員が見慣れない植物に注目し、たまたまその時参加していた越谷からの会員が、キタミソウの保護活動をしていた関係で判明しました。これが2018年11月11日で、数日後には埼玉新聞の一面記事になりました。キタミソウは「**埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例**」に含まれる種で、強い保護を要請されています。〈環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）〉

見た目は地味な草なので誰も注目しなかったのでしょうか。氷河期の生き残りとされ、暑いのは苦手ですが、ここ伊佐沼は4月から9月までは水に浸かっています。秋になり、水が抜かれると周辺の地面に姿を現し11月、3月頃にまことに小さな3mmほどの白い花を付けます。キタミソウは北見市で発見されたことでこの名が付いています。他の生息地は埼玉に数か所、茨城、北海道、熊本等で確認されていますが非常に限られています。このような分布は、野鳥が種子を運んだからではないかと言われています。



へら状の細い葉が特徴



観察会の様子

8. ミツ又沼ビオトープ

- 場所：上老袋北方向、川島町、上尾市
- 交通：東武バス 川越駅より「上尾駅西口」行き「入間川大橋」下車 県道339号線の右下の道路を北上1.3km 駐車場あり
- 面積：約13ha



ミツ又沼ビオトープは川越市、上尾市、川島町の境界にあるので見落とされそうな場所です。西には入間川、東には荒川という大河が流れています。その昔、荒川は上尾市浅間山南付近で流路を西に変え、入間川と合流し、まさに「ミツ又」になっていました。そのため周辺住民は常に氾濫、洪水に悩まされていました。昭和7年頃から入間川と荒川の合流点を付け替える工事が始まり、昭和29年頃までに合流点が現在のずっと南の上江橋付近に付け替えられました。昔の合流点にポツンと残ったのがミツ又沼なのです。



ミツ又沼の周辺は河川敷、田んぼなどで豊かな自然に恵まれています。この自然を守ってほしいという環境NGOや地域住民の要望で、河川敷内の一部を公有化して国（国土交通省 荒川上流河川事務所）が整備して2001年4月、ミツ又沼ビオトープがオープンしました（総面積：約13ha）。ここは水に恵まれていることから湿地性の生き物が多くみられます。2010年の調査では植物528種、鳥類81種、昆虫類807種、両生類・は虫類13種、哺乳類8種、水生動物類69種との記録があります。

特徴的なのはハンノキです。湿原や沼沢地に生息する高木で、過湿地において森林を形成する数少ない樹木です。ミドリシジミの食草でもありますので、ボランティア活動で植樹もされています。樹木層はヤナギ類、コナラ、

クヌギ、ゴマギなど。ゴマギは河川敷などに生息しますが、近年は減少傾向で準絶滅危惧種になっています。草本はノウルシ、ハンゲショウ、タコノアシ、ミクリなど。鳥類は広大な河川域を舞うタカ類、オオタカ、ノスリ、チョウゲンボウなど。水辺のカモ類、カイツブリ、カワセミ、セッカなど。哺乳類では希少なカヤネズミ、イタチなど。

開園から20年ほどになり、変化も現れています。川の流路からは分断されているので、次第に乾燥化してきて、植生が変化してきています。外来種もオオブタクサ、セイタカアワダチソウなどがふえています。2019年の台風で全域が浸水し、木道が一部流失したなどの被害、沼の対岸にあるハチクが花を付け、全枯れしたなど。このビオトープの保全・管理はパートナーシップ型のボランティア活動で支えられています。荒川上流河川事務所が事務局となり、市民団体、環境NGO、専門家、地元自治会などで協議しながら進めているそうです。個人でも参加できますのでお問い合わせください。(荒川上流河川事務所 河川環境課 049-220-0145)



三ツ又沼 *



木道 *



ハンゲショウの群落 *



ミドリシジミ *



コムラサキ



大学と連携した保全管理 *



観察会 (環境ネット)

*印の写真は
あらかわ市民
環境サポ-
ーター事務局か
らの提供

9. 川の遊びかた

川は魚や虫などの生き物のすみかです
こんには!の気持ちで

川へは1人で行かない
必ず大人といっしょに

川は流れが速かったり深みがあったり危険がひそんでいます 油断禁物

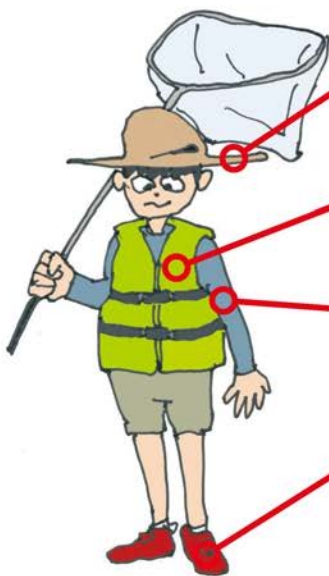
川越には川は結構ありますが、遊べる川は少ないようです。入間川は大きすぎ、不老川、新河岸川は適した岸边少ないです。そういう意味では小畔川がおすすめです。県事業の「水辺再生100プラン」により南小畔川の河南橋たもと、小畔川の御伊勢橋近くに親水ゾーンが設置され、川遊びを楽しむことができます。それでも川は流速が速く、川底は常に変化しているので、上記の注意は守ってください。また、中に入る時はイラストのように安全ななりが大切です。



南小畔川 河南橋たもと



小畔川 お伊勢橋下流



帽子は
ツバの広いものを

必ず
ライフジャケットを

衣類は
ラッシュガードなど
速乾のものがよい

履物は
脱げにくい
マリンシューズや
運動靴がよい



何が捕れたかな? 魚がはねてる



浮袋にもなるよ

■概略

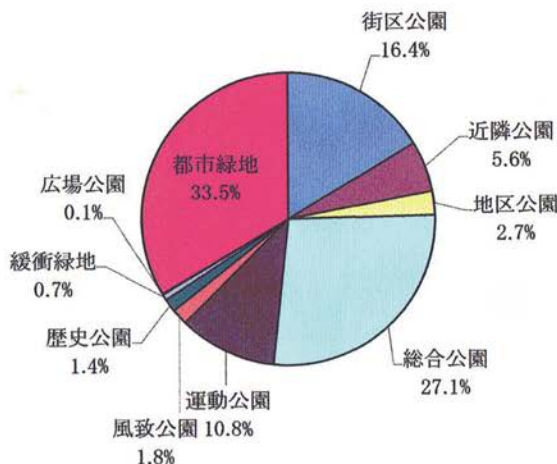
川越市の公園面積は1,661,113㎡でおよそ166haになります。市域が約109km²、10,900haですから市域の1.5%です。一人当たりの公園面積は4.7㎡/人。これは全国的にも低い水準ですが、川越は田畑や河川域など緑地率が50%あるので、それほど圧迫感がないのかもしれませんが。

公園の種類は右の円グラフのとおりですが、「街区公園」とは近くに住む人が容易に利用できる範囲で面積は0.25ha程度の街中の公園、市内に278箇所あります。一番身近な「公園デビュー」の公園ですね。

総合公園は川越水上公園、なぐわし公園が該当します。運動公園は初雁公園と古谷地区の川越運動公園、風致公園は伊佐沼公園、歴史公園は仙波河岸史跡公園河岸になります。

面積の割合が一番多いのが「都市緑地」です。上戸緑地、平塚緑地、入間川大橋緑地、安比奈親水公園、寺山緑地、菅間緑地、池辺公園など27箇所あります。

(以上のデータは公園整備課からの提供 令和2年4月1日現在)



増形緑地
よく整備されているが周辺に住民が少ない



寺山緑地 入間川右岸
サイクリングロードが整備されている

1. 川越水上公園

- 場所：大字池辺880
- 交通：JR川越線「西川越駅」
徒歩15分 駐車場あり
- 面積：396,000㎡

川越水上公園は、川越市の市街地から西へ約2km、入間川右岸の初雁橋から関越自動車道との間に位置し、よく整備された公園です。入間川河川敷がとわり合わせにつながり、川越市内では有数の自然観察ポイントになっています。

昭和63年（1988年）に県立の公園として開園し、プールをめざして、夏休みには多くの人達でにぎわいます。またテニスコートやサッカーコート、フットサルコートなどのスポーツ施設も充実しています。ボート池やバーベキュー広場、ドッグラン、芝生広場と気軽に体を鍛えられる屋外健康器具や子ども達に人気の遊具広場があり、親子で楽しむことができます。また、フリーマーケットやイベントなどが開催されています。



公園内には、サクラを始めユリノキ、メタセコイヤ、ケヤキ、イチヨウ、クヌギ、シラカシなどの樹木が植栽され、樹木名とわかりやすい説明つきの名札が、ところどころに付けられています。ボート池にはたくさんの水鳥が飛来します。野鳥図鑑を片手に水鳥を間近で観察することができます。

土手を越えた入間川の河川敷には河畔林と草原が広がっています。その中の遊歩道を散策しながら、四季折々の風景や草花を楽しむことができます。

この公園内ではボランティアの方々も活躍されており、植生保護や保全活動が展開されています。



土手の上 右側に河畔林、入間川がある 遠く富士山を望む

■植物・木本

広い河畔林は、大水の時冠水することもあるので、水を好む樹種が生育しています。高木ではエノキ、アカメヤナギ、ハリエンジュ、クワが多く、雑木林の名残のクヌギ、コナラもみられます。低木ではイボタノキ、ニワトコ、ミツバウツギ、マユミなどで構成され、特にイボタノキは個体数が多く、水を好む樹種と考えられます。また、ここで珍しいのは「ジャヤナギ」で、1本だけ草地の河畔に大きく立っています。



イボタノキ



ハリエンジュ



エノキ

■植物・草本

河畔林の林床や草地には、ヤマエンゴサク、カキドオシ、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウなど丈の低い植物が群生します。また夏から秋にかけて、キツネノカミソリ、ツルボ、ヒガンバナなどが見られます。一部保護区が設定され、ヤマエンゴサクやハグロソウ、ヤブミョウガ、コバギボウシ、ヤブカンゾウなどが保護されています。



ヤマエンゴサク（4月）



ツルボ（10月）



ハグロソウ（8月）

■昆虫

公園には多くの昆虫が生息しています。チョウやトンボの種類も多く、夏を代表する昆虫カブトムシやクワガタ類はクヌギやコナラの樹液を求めて集まってきます。また、キリギリスの仲間のヤブキリは、サクラやクヌギなどの木の上に多数生息し、セミではニイニイゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシが、サクラやクヌギ、ケヤキなどで大合唱となります。

さらに園内では、ウマノスズクサを保護し、ジャコウアゲハの生育場所を確保することで繁殖を助けています。優雅に舞うジャコウアゲハの姿には、なぜか心が癒されます。



ウマノスズクサ



ジャコウアゲハ



保護区域の看板

鳥類

ボート池では、通年カルガモやカワセミが見られます。

冬季には、マガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ユリカモメなどが群れをなして飛来します。河畔林には、通年コゲラ、シジュウカラなどが見られ、冬になるとシメの群れやホオジロ、モズ、ツグミなどが見られます。



2. 安比奈親水公園 (あいなしんすいこうえん)

- 場所：大字安比奈新田字下屋舗附140-1地先
- 交通：西武バス 川越駅より「かすみ野」行き「水久保」下車南東約900m
駐車場あり
- 面積：184,979㎡

安比奈親水公園は、川越の市街地から南西に約4km、入間川の左岸に広がる水と緑に囲まれた都市緑地です。広大な芝生広場、野草園、野球グラウンド、テニスコートやサッカーコートなどがあり、四季を通じて散策、スポーツ、自然観察などを楽しめます。

公園の中には入間川の恵まれた水源を利用した水路や池があり、釣りを楽しむ人もいます。サイクリングロードも整備されていて下流域まで快走できます。



芝生広場



秋の野草園



入間川からの水路



水路の先 両側に河畔林

■植物

多くの樹木が植栽されていて、ソメイヨシノ、ケヤキ、シナサウグルミ、エンジュなど。水路際の河畔林にはエノキ、ムクノキ、オニグルミ、アカメヤナギ、イボタノキなど水を好む樹種が見られます。林床はかなり藪状ですがキツネノカミソリ、ジロボウエンゴサクなどがひっそりと生きています。

芝生広場からこんもり見える林縁はほとんどをシンジュ（ニワウルシ）が占めています。パイオニアプラントなので成長が早くどんどん増えています。



シンジュの群落



シンジュの幹は黒っぽい



ジロボウエンゴサク

■昆虫など

ここは多様な環境があるので、生き物のサンクチュアリとなっていて、チョウ、トンボ、甲虫などが数多く生息しています。また、魚類、両生類なども豊富です。



ミヤマアカネ



ヤマトタマムシ



ツバメシジミ



環境ネットによるチョウ、トンボ、水生動物の調査



モンキマメゲンゴロウ

3. 池辺公園

- 場所：池辺1302
- 交通：JR川越線「西川越駅」徒歩30分
駐車場あり
- 面積：13,581㎡

池辺公園は、入間川にかかる八瀬大橋下流の右岸河川敷に広がる、エノキ、クヌギ、ムクノキを主体にした河畔林です。当地は長年にわたる砂利採掘や産廃不法投棄で、自然喪失が進んでいたため、川越市が平成20年4月に公園化しました。

近くには、川越水上公園や市民の森第8号、川越総合地方卸売市場があります。園内には、テーブルやベンチ、屋外健康器具が設置されています。散策の折には活用されてみてはいかがでしょうか。時折近くの保育園児達も散歩に訪れます。



公園入口より園内を望む



屋外健康器具



アズマイチゲ
エノキの周辺に



アズマイチゲ
準絶滅危惧 (NT)

林床には、絶滅危惧種に指定されている植物が多数見られます。3月アズマイチゲ、4月アマナ、8月キツネノカミソリ、ハグロソウが群生します。また川越では、珍しいウバユリや吉事があると開花するという伝説の植物キチジョウソウ（吉祥草）が見られます。植物の数としては200種以上が確認されています。



アマナ



ハグロソウ 準絶滅危惧(NT)



キツネノカミソリ 準絶滅危惧(NT)



ミツバウツギ花 果実



ウワミズザクラ



イボタノキ

また4月頃より白や黄緑色、紫褐色などの花を咲かせる樹木が多数あります。ミツバウツギの白い花（果実の形がとてもユニークです）、ウワミズザクラの白いブラシ状の花、ハリエンジュの白い花房、水辺に多いといわれるイボタノキの花や、ガマズミ、カマツカの白い花、黄緑色のポンポンのようなヤマウコギの花、黄緑色のコマユミの花、紫褐色のアオキの花などです。それぞれの花には特徴がありますので観察の楽しみも広がります。

春も終わりに近くなる頃から秋にかけては、キノコがほぼ全域に発生します。キノコは様々な色や形をしていますので必見の価値があるかと思われます。夏には、クヌギが多くあることでカブトムシやクワガタムシなどの甲虫が見られます。草地には、バッタやチョウが生息し網や虫籠を手にした親子連れが訪れます。入間川が近くを流れているので野鳥も沢山見られます。時折キジの鳴声を耳にすることもあります。9月には真っ赤なヒガンバナが咲き誇り、四季を通して楽しむことのできる公園です。



ウバユリ 8月頃開花 川越では希少



ハナオチバタケ（茶色型）

4. 川越運動公園

- 場所：大字下老袋388-1
- 交通：川越駅東口 川越運動公園行き
川越運動公園下車
駐車場あり
- 面積：135,000㎡

川越市市制施行60周年記念事業として1982年（昭和57年）から整備に着手し、2000年（平成12年）に完成しました。陸上競技場、総合体育館、テニスコートなどの施設があり、市民スポーツの拠点となっています。また、広い芝生広場、子ども向けの遊具、ランニングコースなど家族連れでも楽しめるところです。



遊具



広い芝生広場 思い切り走り回れる



記念樹として植えられたハンカチノキ
最近は少し元気がない



ケヤキ、シラカシなど豊富な植栽

おすすは周回コースで、シラカシ、コナラ、アカシデ、イヌシデ、スダジイ、ヤマザクラ、クスノキ、コブシ、シモツケ、クヌギ、シャリンバイ、サンシュユ、エゴノキ、ナンキンハゼ、タイサンボク、ナツツバキ、マテバシイ、トウカエデ、モミジバフウ、ヤマモモなど多種の樹木が植栽され、名札も付いていますので参考になります。



スダジイ
川越市内には少ない

スダジイの葉裏は日が
当たると金茶色に輝く



4号ゲート付近の並木はモミジバフウ
モミジに似ているがフウ科 右は実

この4号ゲート付近の道路を隔てた向かいの林には秋になると多種類のキノコが顔を出します。テングタケの仲間が多く、毒見はしないで見るだけにしてください。



タマゴテングタケモドキ



ノウタケの菌輪

5. なぐわし公園

■場所：川越市鯨井1216

■交通：「霞ヶ関駅北口」より無料シャトルバス 8分
東武バスウエスト「川越駅」より「若葉駅」行き 平塚下車
駐車場あり

「なぐわし公園」は「緑と水と健康をばぐくむ、さわやか空間の創出」をテーマとして、2007年に策定された「なぐわし公園基本計画」に基づき建設が始まりました。面積約8.3haの広い敷地に、隣接する「資源化センター」から発生する熱エネルギーを利用した温水利用型健康運動施設（以下「ピコア」という）を中心として、屋外には芝生広場、水辺ゾーン、多目的広場（グラウンド）、修景池などを建設し、市民がスポーツやレクリエーションに利用できる総合的な公園として整備を進めています。また、災害時における避難場所や物資の集積場としての機能も併せて持たせています。

主要施設である「ピコア」は、温水プール、温浴施設、トレーニングルーム、多目的ホールなどを備え、市民が運動、休息、交流など、安心して健康的に利用できる施設として2012年に完成し、現在では多くの利用者で賑わっています。施設内にはレストラン、休憩スペース、キッズルームなどが併設され、屋外施設での遊びに疲れた場合でも自由に利用することができます。

芝生広場は大規模なイベントや多くの人々のレクリエーション活動に対応できる広々とした広場です。子ども向けのカラフルな遊具なども設置され、水辺ゾーンには人口の小川が流れ、東屋も整備されています。休日ともなれば多くの家族連れが訪れ、子ども達の歓声が広場に響きます。また、公園内には遊歩道が整備されているので、澄んだ空気に包まれながら散歩やジョギングをするのも良いかもしれません。

芝生広場は大規模なイベントや多くの人々のレクリエーション活動に対応できる広々とした広場です。子ども向けのカラフルな遊具なども設置され、水辺ゾーンには人口の小川が流れ、東屋も整備されています。休日ともなれば多くの家族連れが訪れ、子ども達の歓声が広場に響きます。また、公園内には遊歩道が整備されているので、澄んだ空気に包まれながら散歩やジョギングをするのも良いかもしれません。

芝生広場は大規模なイベントや多くの人々のレクリエーション活動に対応できる広々とした広場です。子ども向けのカラフルな遊具なども設置され、水辺ゾーンには人口の小川が流れ、東屋も整備されています。休日ともなれば多くの家族連れが訪れ、子ども達の歓声が広場に響きます。また、公園内には遊歩道が整備されているので、澄んだ空気に包まれながら散歩やジョギングをするのも良いかもしれません。



ピコア全景



水辺ゾーンと、先に広がる芝生広場

隣接する小畔川の土手は春になると一面にセイヨウアブラナなどで黄色く染まり、土手の桜つつみは、お花見等に最適な場所となります。

年間を通じて野鳥もセキレイ類、シジウカラなどが見られ、チョウやトンボなどの種類も多いです。

この地域は昔から湧水の多い所で、今でも農家の庭先で湧水が出るお宅もあります。なぐわし公園の敷地にも着工前、多くの湧水路がありましたが、これらを整備し小畔川沿いの湿地帯に誘導しています。

ここに修景池として自然豊かな湿地を創出し、水生植物やそこに訪れる虫や鳥などの観察ができるデッキ、木道等を整備する計画があります。更に、少年野球や少年サッカー場など、屋外スポーツ専用の多目的広場（グラウンド）を建設する計画もあり、全ての施設が完成すると、大規模な総合公園として、多くの市民の憩いの場となることが期待されています。



隣接する小畔川



桜つつみ



広場より見た修景池計画地

6. 小畔水鳥の郷公園

- 場所：吉田新町1-1
- 交通：東武バスー東武東上線「鶴ヶ島駅」より「いせはら団地」「サイボク」行「吉田新町」下車
JR川越線「的場駅」徒歩20分
- 施設：調整池、親水広場、トイレ、駐車場
- 面積：36,286㎡

■概要

ここは、周辺の住宅地開発に伴い造成された雨水調整池を中心に、その周囲を回遊する遊歩道や親水広場などを整備した公園です。広場の端から池に突き出た細長い出島は立入禁止区域で、野鳥の休息場所になっています。

水鳥を低い目線で近くから観察できる親しみやすい公園です。また、池の土手沿いの高台には所々にベンチが設置されており、公園を見渡しながらゆっくり休息できます。

小畔川を挟んで南側に御伊勢塚公園があり、おいせ橋を渡るほか、川の飛び石伝いに両公園を行き来できるなど水辺の環境が豊かです。



調整池出島方面



小畔川飛び石を渡る

■四季

カルガモ、コサギ、ダイサギ、ゴイサギ、アオサギ、カイツブリ、オオバン、カワウなどの水鳥やシジュウカラ、メジロ、ヒヨドリなどの小鳥は、通年見ることができます。カワセミ、ハクセキレイなども池や川でおなじみの鳥で、イソシギ、キセキレイなどの姿を見ることもあります。

春は桜の季節、池の周囲や川の土手沿いにソメイヨシノやシダレザクラなどが華麗な花を咲かせます。御伊勢塚公園やおいせ橋通りの桜と合わさって、この一帯は一大桜園地として賑わいます。



桜の季節の公園全景

初夏は、水面をハスのピンクの花が次々と埋めていき、また、ヤマブキが鮮やかな黄色の花をつけます。夏鳥のツバメが池や川の水面、周辺の田畑をかすめて低く早く飛び回ります。「鳥と花」を目当ての野鳥カメラマンが増える季節でもあります。



水面を埋めるハス

秋から冬にかけて、冬鳥がやってきます。池には、コガモ、マガモ、ヒドリガモ、カルガモなどが群れて泳いでいます。草地では、ツグミが足早に動き回ります。コゲラがせわしく木の枝をつついています。小畔川の周辺では、スズメやムクドリが群れをつくって移動します。



ヒドリガモの群れ（黄土色のひたいがみ）



見つめ合うゴイサギ

7. 御伊勢塚公園

■場所：伊勢原町3-3

■交通：東武バスー東武東上線「鶴ヶ島駅」より「いせはら団地」「サイボク」行「おいせ橋」下車
JR川越線「的場駅」徒歩17分。

■施設：芝生広場、修景池、フィールドアスレチック、健康遊具、テニスコート、ゲートボール場、トイレ、駐車場

■面積：44,220㎡

■概要

ここは、伊勢原地区の住宅地開発と合わせて整備された公園で、伊勢信仰に由来する塚があったことから名付けられました。

中央に広くて眺めのよい芝生広場があり、四季を通じて遊びや運動、休息場所として利用されています。広場の東側には健康遊具の備え付けがあります。北側にある池の水辺には、公園のシンボリックな休憩所が設置されています。池の奥にクヌギとコナラからなる雑木林が保存され、その一角にはフィールドアスレチックがあります。このほか、テニスコート2面とゲートボール場があり、子どもから大人まで幅広い年齢層が楽しめる公園です。また、公園全体にサクラが多く、おいせ橋通り沿いには長い桜並木もあります。周辺にはカフェが数軒あり、憩いの場になっています。



御伊勢塚



芝生広場



フィールドアスレチック

■四季

園内には落葉樹と常緑樹がバランスよく植えられ、また雑木林が残されています。樹種は約60種と多岐にわたり、四季を通じて自然を感じながら気持ち良くすごせます。

池では、特に冬季にカルガモ、コガモ、ヒドリガモなどの水鳥が増え、小畔水鳥の郷公園の池と行き来をするようです。林には、シジュウカラ、エナガ、メジロ、芝生ではハクセキレイ、ムクドリなどをよく見ます。



雪の日のカルガモ

春は、桜の頃、公園の芝生広場や周辺の小畔川土手には多くの花見客が集まり、おいせ橋通りも桜のトンネルをそぞろ歩きする人で賑わいます。やがて、ミズキやエゴノキが白い花をつけ、雑木林のクヌギやコナラも芽吹きとともに穂状の花を咲かせます。林の中からオナガの濁った鳴き声、藪の中からウグイスのさえずりが聞こえてくることもあります。

初夏に、ツツジ・サツキが咲き揃うとともに公園の緑がひととき鮮やかになります。大木が多く、ベンチも点在しているので木陰で涼むのも良いでしょう。芝生の上をツバメが繰り返し低空飛行します。

秋は紅葉の季節、池の周囲にあるメタセコイヤとラクウショウが赤褐色に紅葉し趣のある風景をつくります。ケヤキ、イチョウ、プラタナスなども美しく紅葉し、目を楽しませてくれます。クヌギ、コナラなどのドングリ拾いに興じる子どもたちがいます。

冬は、サザンカ・ツバキが美しい花をつけます。コゲラが「ギー」と鳴きながら林の中をあちこち動き回ります。シジュウカラやエナガ、メジロも木々の間ですばやい動きを見せ、ツグミは地面を胸張って歩き回ります。芝生広場の周辺でジョウビタキが姿を見せることもあります。



修景池晩秋

8. 古谷湿地（江遠島緑地）

- 場所：川越市古谷上（グリーンパーク横）
- 交通：川越駅東口より西武バス 川越グリーンパーク行 約20分
JR川越線 南古谷駅下車 シャトルバス グリーンパーク行 約10分

国道16号線をさいたま市方面に向かうと、上江橋（かみごうばし）の手前左手にマンション群が目に入ります。これがグリーンパークで1983年（昭和58年）に完成しました。古谷湿地は、グリーンパーク西側の地形に沿って大きく湾曲しながら広がる旧荒川廃川敷で、面積は約9万㎡、川越市唯一湿地と名のついた貴重な緑地帯です。古谷湿地は平成24年4月30日に埼玉県より川越市に譲与されました。この湿地帯は水路敷としての用途の他、大雨時などの洪水調節機能も担っています。この湿地帯は、生き物にとっても良好な生息の場としての水辺環境を形成しており、川越市でもこの湿地帯の環境の保全に努めてきました。湿地帯の中央を流れる麦生川は荒川の旧河川で、上流は入間川の旧流路である古川排水路と繋がっています。麦生川を流れる水は最終的に上江橋基部の土手に建設された古谷樋管（暗渠）を通り、すぐに荒川と入間川の合流部近くの入間川に合流します。湿地帯の周囲は高いフェンスで囲まれ、普段は一般市民がこの地域に立ち入ることはできません。立ち入りが可能となるのは、市主催で毎年秋に一般家族を対象に開催される「古谷湿地さかな観察会」のイベントが行われる時に限られます。このイベントにはかわごえ環境ネットが毎回協力し、参加者の麦生川での魚取りの手助けや、この



早春の古谷湿地（川下から望む）



古谷湿地さかな観察会

湿地帯における生物、植生について説明を行っています。

周囲を取り囲む高いフェンスにより、人やペットなどの侵入が拒まれ、手付かずの自然環境が保持されているこの湿地帯は貴重なサンクチュアリ（鳥獣保護区）となっています。

湿地内の河川敷には、夏はアレチウリ、アシ、ヤブガラシ、秋にはオギ、



ゲンゴロウブナ



アオサギとコサギ



カワウとカメのツーショット

ミゾソバ、ススキ、カラスウリ等が繁茂し、マルバヤナギが木立のように生えています。グリーンパークに面した道路沿いにはエノキ、ムクノキの高木が聳えています。

野鳥では、アオジ、カシラダカ、ホオジロ、カワラヒワ、シジュウカラ、ウグイス、カワセミ、ヒヨドリ、アオサギ、カワウ、コサギなどが観察できます。魚類等水生生物については、カマツカ、モツゴ、オイカワ、カムルチー、タイリクバラタナゴ、ヌカエビ、ヌマエビ、などが生息しています。

50年程前の少年時代に一度だけこの湿地帯に足を踏み入れたことがありますが、滞留した水の中にアシが繁茂して先の視界は効かず、元々人気のない場所でもあり、全体が静寂に包まれた寂しい雰囲気のある場所でした。植生については、水辺を好む限られた種類の植物が画一的に生えていたような状況だったと思います。

現在の河川敷には多様な野草灌木が生い茂り、土手に沿って樹林帯が形成されつつあるなど、乾燥化、樹林化が進んでいます。

将来、この地域の公園化などを計画する場合は、貴重な水辺環境保持のため、湿地帯へ直接人が踏み込むことを制限し、代わりに木道の設置や野鳥観察デッキを設けることなどが考えられると思います。



古谷樋管（水門）

9. 山王塚古墳 (川越市指定史跡)

■場所：大塚1-21-12

■交通：西武新宿線「南大塚駅」
徒歩20分
駐車場なし

山王塚古墳は南大塚の国道16号から数百m入ったところにあり、周囲はすべて建物に囲まれ、浮島のように緑をたたえています。川越市教育委員会の調査によれば、山王塚古墳は、上円下方墳で、この墳形は全国で6基だけ残っていますが、その中でも最大規模とのこと。平成24年から4回の発掘調査と、地形測量、地中レーダー探査を行い多くの成果がありました。

上円部の直径37m、下方部の一辺69m、高さは現況で約5mです。方形部の外側には一部ではあるが幅約5mの周溝が現存しており、おそらく全体に巡っていたと考えられます。

5世紀初めから7世紀にかけて営まれた南大塚古墳群は、武蔵野台地の北西林縁部に分布しています。27基の古墳が知られていましたが、その多くは開発などで姿を消しました。その中でも山王塚古墳は現在まで残っている貴重な古墳です。

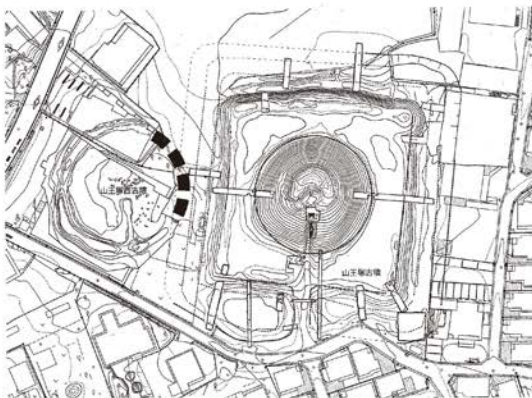
発掘調査では石室の構造や石材、工法などが明らかになり、出土遺物も須恵器、鉄くぎ、ガラス玉などが確認されました。

これらを総合すると、築造は西暦651年～675年であろうということです。残念ながら石室内は盗掘により多くが失われています。

(川越市教育委員会 文化財保護課の資料による)



離れて見ると真ん中が盛り上がっていて
上円下方墳のイメージ



山王塚古墳 発掘調査トレンチ配置図 (S=1/1,000)



参道入口



山王社の祠

参道入口付近には、シラカシを始めアカシデ、エゴノキ、スギ、ケヤキ、ヒノキ、エノキ、イヌザクラなどがあり、参道の中ほどにある鳥居付近では、アオキやシュロ、シラカシなどが見られます。鳥居に向かって左側にはヒノキが規則正しく、ぐるりと一周植えられています。幹周りは1mほどの物がほとんどです。その少し上に行くとスギが墳頂まで幾重にも植えられています。このスギの幹周りは75cmから1m10cmほどです。墳頂付近では幹周り3mほどのソメイヨシノの大木があり、春にはみごとな花を咲かせます。この桜の木の下には、山王社の祠がまつられており猿の石像が一对あります。また左脇にも三猿を刻んだ庚申塔があります。



庚申塔（こうしんとう）

山王塚古墳では、多くの植物が見られます。専門家の調査によりますと2016年に157種が確認されております。

また四季を通して数々の植物の花に出会えます。春になるとタチツボスミレが薄紫色の可憐な花を咲かせ、初夏にはエゴノキの白い花が下を向いて開花します。また秋には、シラヤマギクの白い花が咲き風にゆれている姿は、とてもさわやかです。古代の人達が暮らしていた時代に思いを馳せて山王塚古墳に足を運んでみられてはいかがでしょうか。



タチツボスミレ

川越の湧水

川越市は入間川をはじめ、多くの河川が流れ、そして今でも30を超える湧き水のまちです。右図は、川越市内にある湧水の分布図を、川越市の地形図に重ね合わせたものです。

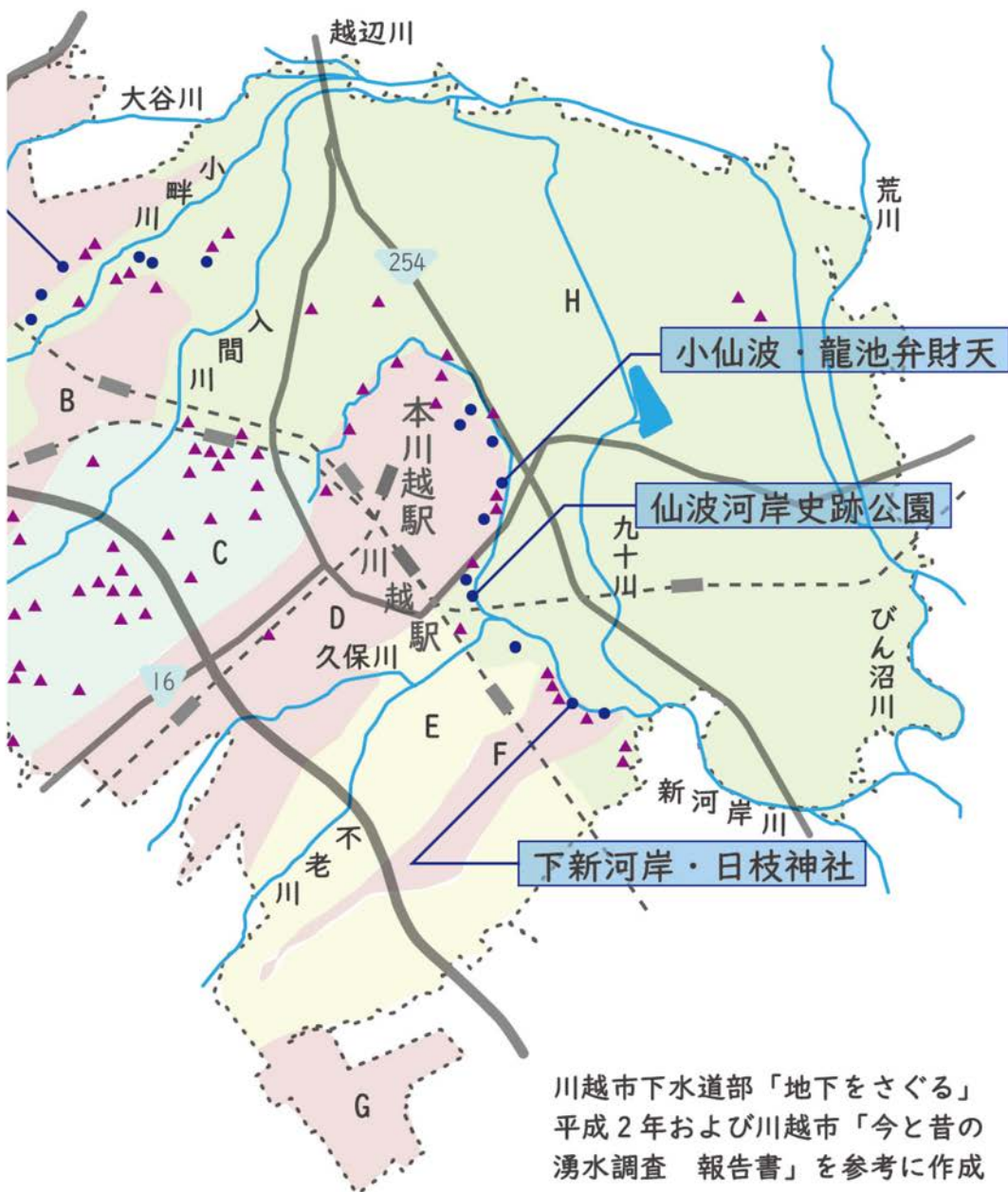
右図でわかるように、湧水の多くが新河岸川沿いの川越台地（D）から荒川低地（H）に至る段丘崖と、小畔川沿いの坂戸台地（A）から荒川低地に至る段丘崖に湧き出しています。湧出形態は崖線型の湧水です。

現在でも渇水期になると、枯渇してしまうところが多いのですが、比較的湧水量が多く、年間を通じて安定している5か所の湧水を以下に紹介します。

注：このデータは平成2年当時のもので、その後様々な開発により枯渇した地点があります。詳しい調査はその後されておりません。



- 今、湧いている湧水
- ▲ 昔、湧いていた湧水
- A 武蔵野面（坂戸台地）
- B 武蔵野面（飯能台地）
- C 入間川低地
- D 武蔵野面（川越台）
- E 立川面（不老川面）
- F 武蔵野面（寺尾台）
- G 武蔵野面
- H 荒川低地



1. 小堤・八幡神社の湧水

この地は坂戸台地の斜面帯と小畔川に囲まれているため、昔から洪水に悩まされ、大規模な土地改良事業が行われてきた所です。神社鳥居の左側には、その記念碑が建立されています。

社記によると八幡神社は、正治元年(1199年)、現在の奈良県山辺郡より勧請したものと伝え、社殿は寛永12年(1636年)に再建されています。また、当社のすぐ下には古くから涸れることのない湧



神社の鳥居 右に湧水池



石段を上がった上にある社殿

崖下の湧水池
柵の奥の方の池に湧水が出ている
手前から道路下を通り水路に
つながる

神社の崖下には池があり、坂戸台地からの崖線型湧水が湧きだしています。ここは川越市内でも水量が多く、涸れたことのない安定した湧水です。市の環境対策課の調査では240m³/日の湧水量です（2020年11月）。この地は昔から湧水が水田に利用されてきました。今でも水路が縦横につながり周辺の田んぼを潤しています。

池から出た湧水は、細い水路となって小畔川に流れ込みます。



神社から下を俯瞰すると田園風景が広がっている



神社から小畔川までは水田が広がる



水路にはきれいな水が流れる

水路はコンクリートの3面護岸ですが、長年の土砂が堆積してクレソンやカナダモなどが根付いているためか、クロメダカをはじめ、モツゴ、カワムツ、ドジョウ、ギンブナ、タモロコ、ウグイ、カワニナ、マルタニシなどが生息しています。



ジャコウアゲハも飛来

2. 小仙波・龍池弁財天の湧水

喜多院の東南にあつて、弁天様が祀られていた祠がある高台の斜面下に、今でも市内としては豊富な水量の湧水池があります。池から流れ出た湧水は、コンクリートの三面護岸の水路となつて、すぐ近くの新河岸川に流れ込んでいます。この湧水は、川越台地から荒川低地に至る急激に標高が変化する段丘崖に湧く湧水です。

現在の湧水池の姿は、平成14年の当初に地元の要請を受けて、川越市が石とコンクリートで固めた護岸工事を実施した後のものです。改修前は自然護岸で、水際にはセリなどの植物が生え、小さな滝になっている流れには昭和30年代まで、熊谷の久下だけに生き残っている絶滅危惧魚類の「ムサシトミヨ」が生息していたのです。また、池にはカワモズク（絶滅危惧Ⅰ類（CE））が2010年頃まではわずかに生息していましたが、2020年には確認できていません。池には鯉が放たれていて、餌になってしまったようです。



湧水池地全景 奥の馬蹄形のところから湧出している
手前が右写真に続く



湧出口 豊富な湧水が水路を経て
新河岸川に注ぐ

気温が6℃の冬でも、湧水池の温度は17℃、CODは2mg/Lでした（2019年12月17日：かわごえ環境ネット計測）。池の方が暖かいので、湯気のように水蒸気が上がっているのが見られます。湧出量は、季節によってかなり変化しますが、市の環境対策課の調査では、340㎡/日となっています（2020年11月）。

ここは武蔵野台地の崖線にあたり、地形的に湧水が出やすいのですが、周辺はすっかり住宅に囲まれていますので、今後はどうなるのでしょうか。

池を見下ろす高台に目を移すと、1本だけ残ったケヤキの大木の下に、小さな弁財天の祠が置かれ、その手前の鳥居は破損して半分ほど埋め立てられたままになっています。昭和40年代のものとされる風景写真を見ると、この辺りは樹木も多く鎮守の森の風情がありました。尚、弁財天のご本尊は中院に保管されているそうです。

喜多院の伝説によれば、この池は仙芳仙人が龍神に与えた小池であると言われていています。また、喜多院内の井戸や東隣の日枝神社に現存する底なしの穴に物を落とすと、翌日には龍池弁財天の池に浮かび上がるという伝説や民話が残る池でもあります。



龍池弁財天の祠



小仙波貝塚跡の碑

その昔、縄文期にはこのあたり一帯に海が広がっており、小仙波は水際でしたのでこのような伝説が生まれたのでしょうか。弁財天から高台に上がり、道路沿いに5分ほど歩くと左側に小仙波貝塚跡の碑が建っています。古くからの人々の暮らしが偲べれます。

3. 仙波河岸史跡公園

仙波町4丁目の国道16号バイパス沿いに鎮座する愛宕神社の南側崖下にあり、川越台地から荒川低地に至る標高10mを超える地形変形点に湧く崖線型の湧水です。この湧水は昔、仙波の滝と呼ばれ、2カ所から豊富な水が湧き、新河岸川舟運の水源となり、この地が仙波河岸となった最大の理由のようです。

湧水は愛宕神社崖下を流れ、竜頭の口から滝となって小さな池に流れ落ち河岸



に注いでいましたが、周辺の開発により湧水が激減してしまいました。

その後、河岸跡地は民有地の屋敷跡地として放置されていましたが、舟運跡地保存を望む声などが反映され、平成12年に川越市が買収して、史跡と自然を大切にしたい仙波河岸史跡公園が平成16年3月に誕生しました。



仙波の滝の再現 後方に龍神の石像がある (河岸跡池の水をポンプで循環している)

この公園内木道を進むと岸町調整池があり、池には豊富な湧水があります。ここから流れ出た湧水は公園内を流れ、湿地帯と河岸跡からの流れと合流して新河岸川に注いでいます。

園内の樹木には、ハンノキ、ムクノキ、エノキ、イヌシデ、エゴノキなど湿地を好む樹木が多く見られます。この河岸跡では川底の^{しゅんげつ}浚渫を行った時に、20cmもある大きなドブガイの死骸が多数発見されています。底生動物が多く生息し、今や絶滅危惧種になってしまった二枚貝に産卵するタナゴ類も生息していたことでしょう。また、希少種のムサシトミヨの生息も記録に残されています。

なお、真夏や冬場の渇水期には湧水量が毎年減少し、水質の悪化のため、魚類の酸欠や景観の低下が問題となりました。その解決策として、平成20年3月に川越市による地下水汲み上げ施設が完成し、以後は年間を通じて安定した水量が確保されています。



湿性植物が見られる湿地帯

ので、在来のヤブラン、アオイスミレ、その他50種以上確認されています。残念ながら公園入り口に紹介されている、ミクリ、タコノアシ、カワヂシャは見るができなくなりました。

湿地帯の水源は、仙波の滝の池からオーバーフローした水と愛宕神社斜面下の岸辺からの湧水です。湿地帯ではセキショウ、アシ、ヒメガマ、ショウブ、クサソテツなどが見られます。中に数本立っている木はハンノキで、かつてはミドリシジミの生息もあったようです。草本類は特に植え込みはない



仙波の滝の池から
愛宕神社へ

公園内から愛宕神社へ道が整備され、直接お参りすることができます。愛宕神社は大仙波古墳群の一つです。

4. 下新河岸・日枝神社の湧水

東武東上線新河岸駅から徒歩約20分、新河岸川にかかる旭橋のそばの河岸跡に近い日枝神社の社殿裏側斜面にあり、寺尾台地から荒川低地に至る地形変形点に湧く崖線型の湧水です。

ムクノキの根元から湧きだした湧水は新河岸川に流れ落ちていきます。河川敷にはいく筋かの湧水が流れ、ところどころに池を作っています。水辺にはオランダガラシやショウブが生え、斜面にはヤブカンゾウの自生地があります。



ムクノキの根元から湧き出る湧水



湧水の作った小池

湧水について

- 気温 8℃
- 水温 17℃
- COD 3.0mg/ℓ
- 測定日 2019年12月17日
- 測定者 かわごえ環境ネット



河畔林を臨む



近隣の方々が憩う湧水のある河川敷

このあたりから見た新河岸川下流の風景は右岸に河畔林を臨み、昔の面影を最も濃く残しているところだと言えます。河川敷には崖線からの湧水があちこちに出ていて、湿地のような場所が結構あります。

河川敷は、近隣の方々が湧水の流路周りの雑草を除いたり、流れを竹で保護したり、環境整備をしています。年間を通して野鳥の姿も見られます。カルガモ、オオバン、カイツブリ、ヒドリガモなどの水鳥、セキレイや、ヒバリなど生き物の多い場所です。それだけに、ウォーキングや野鳥観察、野草摘み、写生などに訪れる人々も多く、癒しの場となっています。

日枝神社の境内は、後北条氏に仕えた諏訪右馬亮が住んでいた寺尾城の跡地と伝えられています。古くからの社殿は明治3年の下新河岸大火で消失し、現在の社殿は昭和13年に高階小学校の奉安殿として、昭和の初めまで新河岸で船問屋を営んでいた齋藤家が寄付したものを移築したとのこと。



日枝神社

5. 霞ビオトープ

このビオトープは、隣接するゴルフ場の湧水を水源としたもので、平成14年春に完成しました。湧水は、水路を流れて霞ヶ関西中学校脇を通り小畔川に繋がっています。法面は粗朶工法（そだこうほう）を用いて、柳の土留めが自然に優しい水路となっています。現在は、当初と違って多種の草木が茂り、工法の詳細を見ることができませんが、完成直後の写真を見るとよくわかります。

水路には、カワムツ、オイカワ、マシジミ、ドブガイ、メダカ等が生息しています。小畔川から上ってくるのでしょうか。水路の法面にはノイバラが繁茂し、秋には赤い実が目立ちます。



完成当初の池と水路 粗朶工法



ドブガイとメダカ



水路



現在の池の様子



2019年11月のエコツアーで訪れた時

1. 喜多院

■場所：小仙波町1-20-1

■交通：小江戸巡回バス「喜多院」下車すぐ
駐車場あり

喜多院（星野山無量寿寺仏蔵院）は、川越大師とも呼ばれ、平安初期に慈覚大師円仁によって創建されたといわれる天台宗の寺院です。

江戸時代初期の川越大火で山門を除き



山門から本堂を望む



慈恵堂から多宝塔を望む

堂宇はすべて焼失し、その後数年の間に、慈恵堂、多宝塔、仙波東照宮などが相次いで再建され、今の社域ができあがりました。春は桜の名所として有名です。

慈眼堂の斜面にある2019年に伐採された幹回り300cm超のケヤキの切株



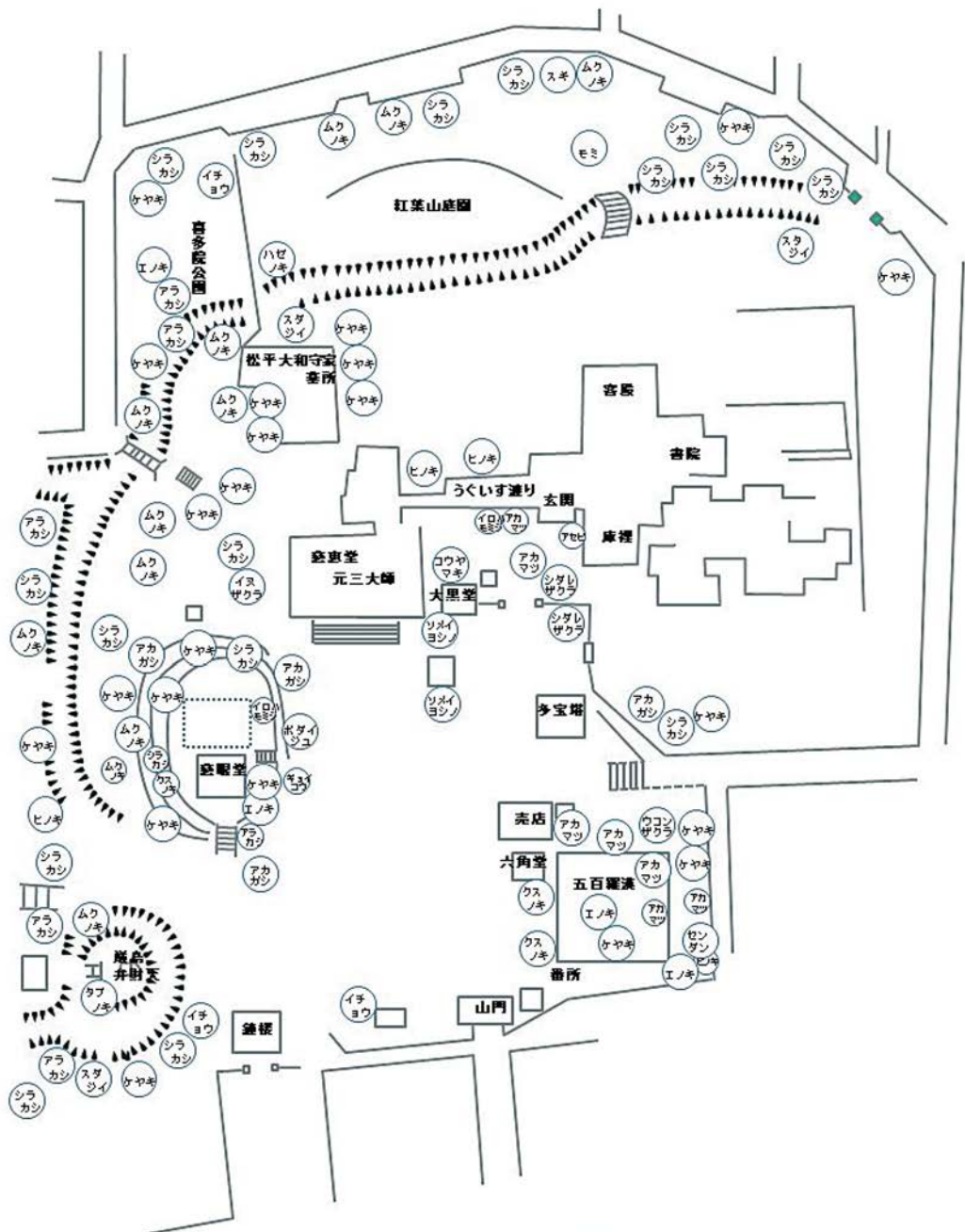
ケヤキの巨木の断面

年輪の幅を一つ一つ追ひ、その時代の気候変動や生育環境（特に日当たり）を想像してみるのはいかがでしょう

の年輪を数えました。樹齢は160年弱、江戸時代の幕末期に生まれ、明治・大正はゆっくり緻密に育ち、昭和の後半から平成にかけてはのびやかに育ち、最近は少し病気がちだったのかもしれませんが。

喜多院境内は、社寺林として維持されてきたため、ケヤキの他、ムクノキ等の落葉広葉樹、シラカシ、アラカシ、アカガシ、スダジイ等の常緑広葉樹の大木が多く残っています。また、ボダイジュやタブノキなど珍しい木も見られます。

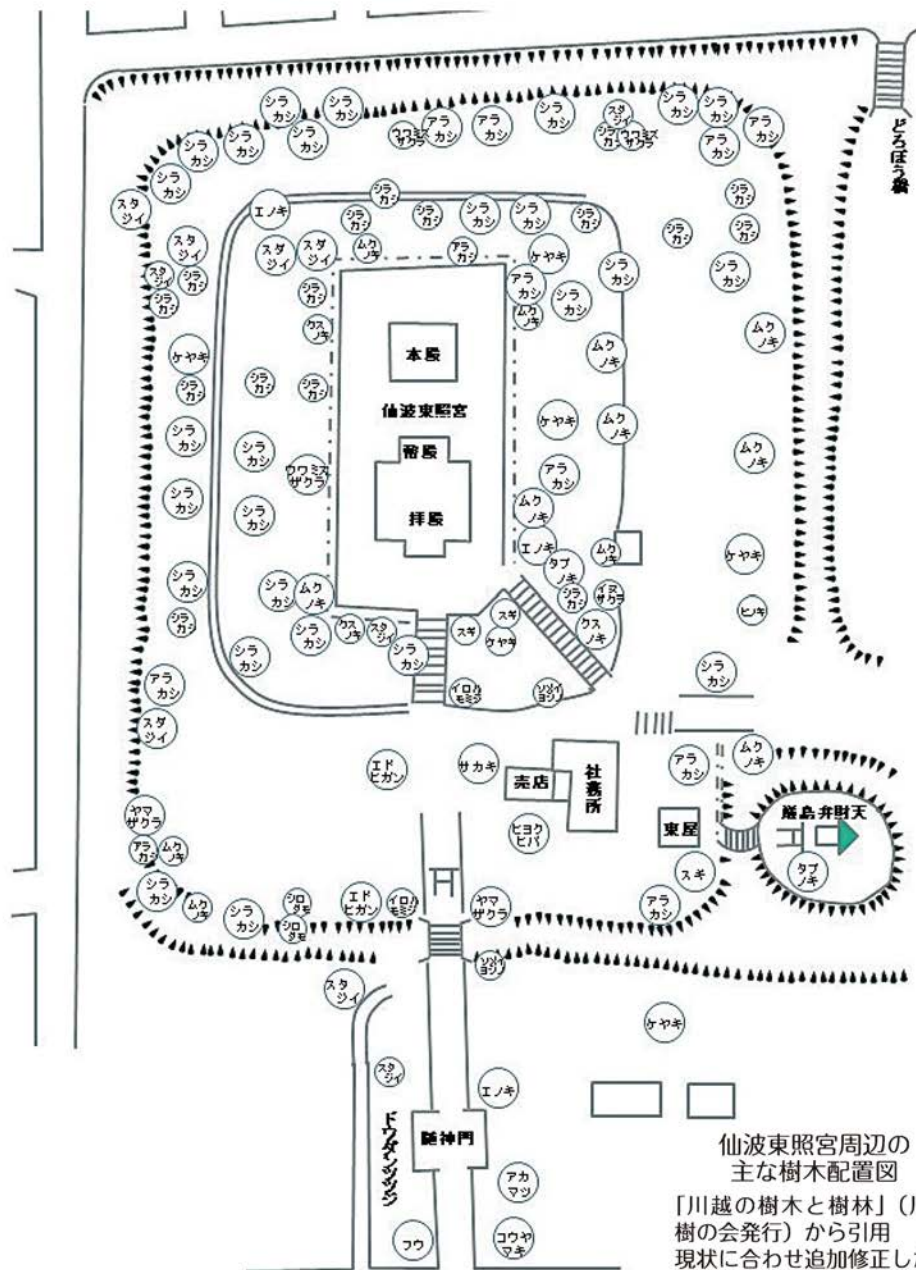
下図に喜多院境内の主な樹木の位置を示します。



喜多院境内の主な樹木配置図

【川越の樹木と樹林】(川越樹の会発行) から引用 現状に合わせ追加修正した

関東地方は、照葉樹林帯にあり、そのまま放置すればシラカシ、アラカシ、スダジイ等の常緑広葉樹の森になると言われています。仙波東照宮の周りには、このような常緑広葉樹の森が見られ、照葉樹林帯の雰囲気味わうことができます。下図に仙波東照宮周辺の主な樹木の位置を示します。





アカガシ

本堂わきにある。川越市では珍しい。
材が堅く、赤いのが名前の由来



エドヒガン

仙波東照宮階段前にある
エドヒガンとしては川越一の太木



ボダイジュ

日本で菩提樹と呼ばれる木。お釈迦様がその下で悟りを開いたと言われるインドの「菩提樹」とはまったく別の種です



クスノキ

五百羅漢の前にある。巨木になる代表的樹木



仙波東照宮周辺の照葉樹林の森

関東地方の潜在植生と言われるカシやスダジイ等の常緑広葉樹が主になる森

2. 中院

■場所：小仙波町5-15-1

■交通：小江戸巡回バス「中院」下車すぐ

天台宗別格本山中院は、平安時代初期に慈覚大師円仁により、星野山無量寿寺仏地院として開山されました。

当初、中院は現在の仙波東照宮の場所にはありましたが、江戸時代初期、東照宮を建造する際に幕府により現在の場所に移されました。

中院は花の寺とも言われ、境内は良く手入れされており、春のシダレザクラやエドヒガン、川越最大のキンモクセイ、秋の紅葉など閑静な佇まいの中で四季折々の風情が楽しめます。

境内には、お寺に縁のある樹木や川越では珍しい樹木が多く植えられています。以下にその一部を紹介します。

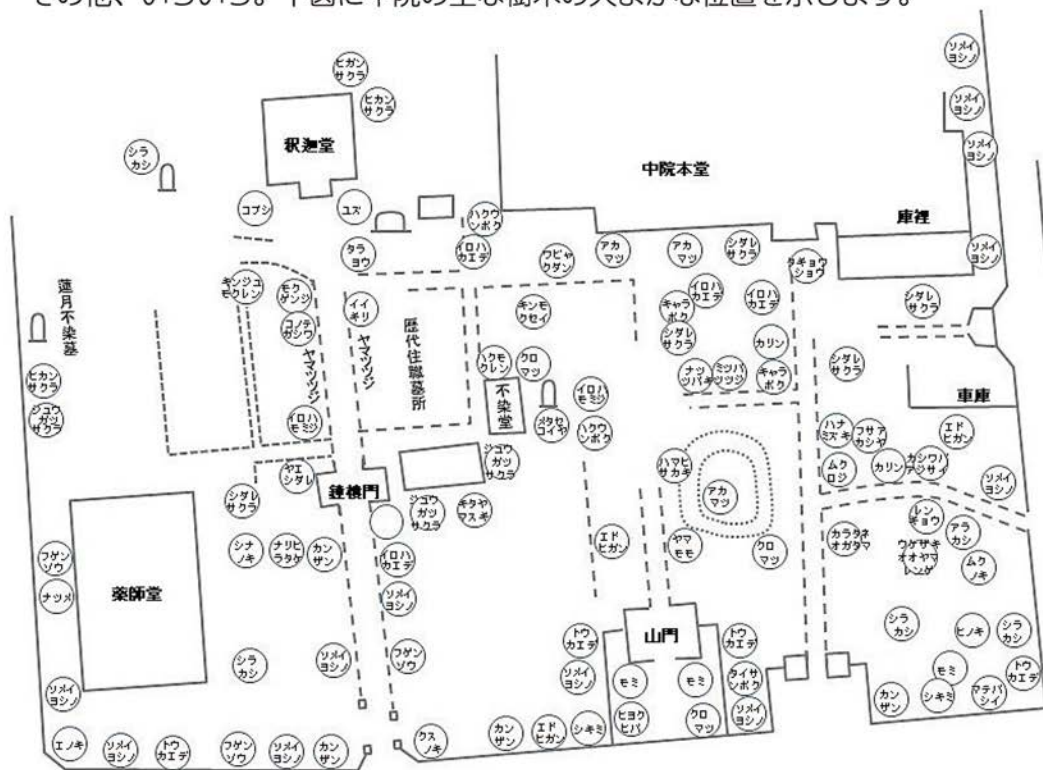


中院の境内



シダレザクラ

- ・アカマツ(赤松)、クロマツ(黒松)、タギョウショウ(多行松)：マツ類
 - ・ヒヨクヒバ(比翼檜葉)、コノテガシワ(側柏)、ワビャクダン(和白檀)ヒノキ(桧)、サワラ(榎)：針葉樹
 - ・エドヒガン(江戸彼岸)、シダレザクラ(枝垂桜)、カンヒサクラ(寒緋桜)、ジュウガツザクラ(十月桜)、フゲンゾウ(普賢象)、カンザン(関山)、ソメイヨシノ(染井吉野)、ベニシダレ(紅枝垂)：サクラ属
 - ・モクゲンジ(木患子)、ムクロジ(無患子)：種で数珠を作った
 - ・シキミ(柘)：枝葉は、仏事や葬儀で使用
 - ・ナツツバキ(夏椿)、ハクウンボク(白雲木)：インド沙羅双樹の代用木
 - ・シナノキ(科の木)：葉がインド菩提樹に似ている
 - ・タラヨウ(多羅葉)：葉の裏に字が書ける (お経を書いた?)
 - ・ウケザキオオヤマレンゲ(受咲大山蓮華)：ハウノキとオオヤマレンゲの自然交配種とされていて、川越では珍しい
 - ・カラタネオガタマ(唐種招霊)：招霊(おぎたま)の木とされている
- その他、いろいろ。下図に中院の主な樹木の大きな位置を示します。



中院境内の主な樹木配置図

【川越の樹木と樹林】(川越樹の会発行) から引用 現状に合わせて追加修正した



シキミ

枝葉は仏事にお供えとして使用する 全草有毒



エドヒガン

ソメイヨシノの片親

ソメイヨシノと同様に葉が出る前に花が咲く



タギョウショウ

アカマツの変種

根元から多数の幹を出し傘を広げた形になる



キンモクセイ
川越一の古木



ナツツバキ

別名を「シャラノキ
(沙羅の木)」と呼ばれる

3. 川越八幡宮

■場所：南通町19-3

■交通：川越駅東口より徒歩約6分、本川越駅より徒歩約7分、駐車場あり

川越駅東口から昼夜大勢の人で賑わうクリアモール商店街を200メートルほど進み、地域住民が大切に育てている花壇が目印のクリアパークを右に折れた先、大きな絵馬が飾られているのが「川越八幡宮」です。

川越八幡宮の歴史は古く、平安中期の武将である源頼信（みなもとのよりのぶ）がこの地で必勝祈願を行い、みごと敵陣を抑え込んだことに感謝し、1030年（長元3年）に創建されたと伝えられています。1457年（長祿元年）に川越城が築かれた後は、川越の歴代城主からもあがめられ、酒井氏の一族からは社殿の造営や修繕などがなされました。そして現在、川越八幡宮は良縁やスポーツ必勝など様々なことを祈願する人々の信仰の場であると共に、「ちんじゅの森コンサート」や「こども相



川越八幡宮



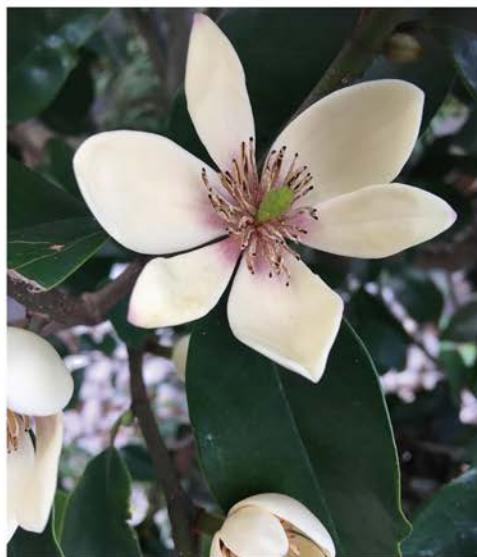
川越八幡宮の参道

撲大会」などのイベントを行うコミュニティの場にもなっています。それに加え、都市化が進み川越の市街地の緑が減少していく中、貴重な自然を残すまちのオアシスとなっています。

社殿の正面側には、縁結びの夫婦イチヨウ、葉の裏に文字を書くことができる「はがきの木」で知られるタラヨウ、ハナモモ（枝垂れ桃）、ウメ、オガタマノキなど個性豊かな木々が植えられています。社殿裏にあるちんじゅの森には、たくさんのサカキやヒサカキがあり、参道近くにはジュウガツザクラ、モミジ、ヒノキ、エノキ、ツバキ、シラカシ、ビワ、ヤマブキ、アジサイなどが育っています。なお、参道は2006年に川越の都市景観の形成と文化の向上に貢献しているとして「都市景観ポイント賞」を受賞しています。

八幡宮の御祭神は応神天皇です。応神天皇には、神霊が山頂の巨石から「金色の鷹」となって出現し、鍛冶の翁、三歳の童子へと変わり、後に「金のハト」に変わったとされる伝説があります。川越八幡宮の境内では、ハトだけでなく、ヒヨドリ、ムクドリ、シジュウカラ、メジロ、オナガ、キクイタダキなどの野鳥の姿もみることができます。

川越八幡宮は2030年に創建千年を迎えます。これからの時代、市街地に残る自然はますます貴重になっていくでしょう。たくさんの人々が気軽に足を運び、自然を身近に感じることができるいやしの場として、この宮がさらにいく千年もこの地にあり続けることを願うばかりです。



オガタマノキの花



タラヨウ（葉書の木）

4. 尾崎神社

■場所：笠幡1280

■交通：JR川越線笠幡駅より徒歩20分
駐車場あり

小畔川に架かる宮下橋を渡り、さざんか通りの坂道を登ると、うっそうとした常緑樹の森がみえてきます。樹齢数百年を越す木々の中に鎮座するのが尾崎神社（おさきじんじゃ）です。

尾崎神社の創建年代は正確にはわかっていないようですが、この地に残る言い伝えでは、日本武尊（ヤマトタケルノミコト）が現在の尾崎神社がある周辺を通った際、台地のはずれにある見晴らしのよい所だったことから尾崎の宮と称えて二神を祀ったことが起源と伝えられています。神社には15世紀ころの板碑（いたび）や懸仏（かけほとけ）など中世からの篤い信仰の痕跡が残されており、笠幡村の鎮守のやしろとして古くからまつられてきたことがうかがえます。

かつて、神社の裏に大の大人3人が両手をまわしても届かないほどの老杉がご神木としてあったそうです。「川越の伝説・第一集（川越市教育委員会発行）」には、その老杉の根元には空洞があり、



尾崎神社

大蛇が住んでいると伝えられ、周囲を3回まわると大蛇が出るという伝説が紹介されています。

現在でも境内には幹回り2メートル以上のスギやヒノキの大木があり、この神社が有する歴史の長さを物語っています。2008年には川越市より「保存樹林」に指定され、2012年には「川越百景」にも選出されています。その他境内には、クヌギ、コナラ、カシ、モミジ、サカキ、ヒサカキなどが育っています。この森では、春には市内では珍しいカラタネオガタマノキが甘い香りの花を咲かせ、夏は田んぼで冷やされた南風が木々の間を吹き、秋から冬にかけては毎朝神主さんが竹ぼうきで落ち葉掃きをして大切にお手入れをしています。そして少し暖かい季節になると、たくさんのメジロが再び春の訪れを告げてくれる場所になっています。

笠幡の芳地戸（ほうじど）地域では、春の彼岸の中日「春分の日」に悪魔払いの神事である「ふせぎ」が行われています。1721年に疫病が流行したことから始まったとされており、現代にも古式を伝える行事になっていることから、1972年に市指定の「無形民俗文化財」になりました。行事当日は、午前中に尾崎神社の境内でみこしと辻札をつくり、午後はふれ太鼓を先頭にして家々のお清めのため、村回りが行われるそうです。この場所では、改めて地域の伝統文化の継承と自然保護の大事さを共に考えさせられます。



大木に囲まれた参道

5. 巨樹・古木巡り

川越市には9か所に天然記念物として指定されている樹木があります。これらを中心に川越市内の巨樹・古木の一部をご紹介します。多くの特例がありますが、巨樹は基本的には「胸高130cmの幹周りが300cmを超えるもの」と定義されています。その多くは神社仏閣にあり、観光を兼ねて巨樹・古木の魅力を堪能されてはいかがでしょうか。

昭和9年に県の天然記念物に指定された並木の大きなクスは並木大クス公園内にあり、2000年頃6mであった幹回り



並木の大クス (川越市並木277)

には今では7mを越えています。松江町のイチヨウは出世稲荷神社にあり、川越市の天然記念物一号で鯨井のヒイラギとともに1958年に指定されました。枝はかなり切られていますが、2本のイチヨウのうちの1本は幹周りが792cmあり、イチヨウとしては川越一で、街中であって堂々と巨樹の威厳を保っています。鯨井のヒイラギも川越一で、幹周りが230cmあります。



松江町のイチヨウ (川越市松江町1-7-1)



鯨井のヒイラギ (川越市鯨井1840)

下小坂の白鬚神社にある大ケヤキは、川越一、二の幹周りが634cm、630cmある巨樹で参道を挟んでお寺の力士像のように根元のどっしりとした風貌は見応えがあります。推定樹齢は500年ですが、樹勢は盛んです。推定樹齢200年の古市場のヒイラギは地元の人にとっては大切な古木で、今まで



下小坂の大ケヤキ (川越市下小坂1002)



古市場のヒイラギ (川越市古市場192-4)

切られることはありませんでしたが、指定された2000年以降、痛みがひどくなり、切られて小さくなりました。幹周りが236cmの笠幡浅間神社のヒヨクヒバはサワラの園芸種で小枝が細長く糸状に垂れ下がり、イトヒバとも言われています。

2013年に指定された砂氷川神社のシラカシとイヌツゲは推定樹齢が300年近いですが、樹勢は良好で、特に幹周りが3.88mのシラカシは石垣を抱きかかえるように根を張っているのが印象的です。樹高5mの県内でも特に大きいイヌツゲは3本の株立ち状の幹の1本が切られているのが残念です。



笠幡浅間神社のヒヨクヒバ (川越市笠幡1977)



砂氷川神社のシラカシ (川越市砂640)



砂氷川神社のイヌツゲ (川越市砂640)

以上は川越市にある天然記念物の樹木です。これ以外にも川越市には素敵な樹木がありますからご紹介します。

古木の推定樹齢は伝承によるものが多い中で、明見院のシダレザクラは1779年の本堂庫裏竣工時の古文書に記録が残されていて、それによると樹齢が240年以上となり、その親木は伝承では樹齢が360年以上の中院のシダレザクラとされています。



明見院のシダレザクラ (川越市今福677)



中院のシダレザクラ (川越市小仙波町5-15-1)



東明寺のイチヨウ (川越市志多町13-1)

イチヨウの隣には1546年の北条氏康と上杉朝定の河越夜戦の石碑があります。銀杏の話より合戦の場所が東明寺の寺領だったことが有名ですね。

幹周り600cm、推定樹齢400年の三変稻荷神社古墳のムクノキはどっしりと古墳の上に立っています。この古墳は4世紀後半の前期古墳で市内最古で、鏡、碧玉製腕輪などが出土しています。

喜多院のすぐそばの喜多院公園には幹周りが7mに近く、推定樹齢が580年の大イチヨウ

推定樹齢が360年以上で幹周り465cmの東明寺のイチヨウ（雌木）については、住職の話として南の大イチヨウ（出世稻荷のイチヨウ、雄木）から花粉が飛んできて銀杏がよく実るとか。根元に前年の銀杏がたくさん落ちていました。



三変稻荷神社古墳のムクノキ
(小仙波町4-9-5)

ウがあります。こちらは毎年多くの新芽が出てそれが切り取られるため根元は異様な形をしています。

幹周りが468cmのクスノキが川越城富士見櫓跡にあります。この場所は平城であった川越城には天守閣がないため3つあった櫓の中で最も高い所にあった富士見櫓が天守閣の役割をしていたようです。

幹周りが471cm、推定樹齢が200年の三芳野神社のクスノキは、大枝が台風で折れ、かなり剪定されたようですが、とてもそれを感じさせません。ここは童謡「とおりゃんせ」の発祥の地とされています。



喜多院公園のイチヨウ



川越城富士見櫓跡のクスノキ (川越市郭町2丁目)



三芳野神社のクスノキ (川越市郭町2-25-11)

幹周りが422cm、推定樹齢が300余年の並木氷川神社のケヤキは大枝が剪定されていますが、しっかりと大地に根を張った姿は巨樹にふさわしいのに対し、幹周りが218cmの八ツ島公民館のラカンマキは静かなたたずまいの古木で、根元にも樹木の表情が感じられます。



並木氷川神社のケヤキ (川越市並木5-1)



八ツ島公民館のラカンマキ (川越市八ツ島383)

今回ご紹介した巨樹・古木は

「川越市指定木リスト」川越市文化財保護課

「かわごえの巨樹・古木・名木めぐり」川越市環境部環境政策課

「小江戸川越 歴史を年輪に刻む巨樹古木たち 寺院・神社35選」小泉巧、宜保宏著などを参考に選びました。これらの本を参考に、記載されている巨樹・古木巡りをされますと、川越の樹木や歴史などに対する思いが深まると思います。また、2016年（平成28年）に発行された「かわごえの巨樹・古木・名木めぐり」で紹介された巨樹・古木も、枯れたり、安全のために枝が落とされたりと、かなりの樹木が姿を変えています。

喜多院の名物、三本イチョウは2020年に大きく切られましたが、元気に芽吹いています。川越大火で上部が焼けた鴉山稲荷神社のケヤキは2002年には元気でしたが枯れてしまいました。それでも威厳を今でも保っています。

数年前まで元気だった獅子宮氷川神社のケヤキ、灌頂院のサイカチも切り株になりました。何十年、何百年も生きてきた巨樹・古木にとって今の環境の変化はとて大きいようです。



喜多院の三本イチョウ



鴉山神社のケヤキ
(川越市仲町10-10)



獅子宮氷川神社ケヤキの切り株
(川越市古市場2)



灌頂院サイカチの切り株
(川越市古谷本郷1428)



写真のこんもりした緑が城山です。隣接した住宅地に住む方々が「坂戸サワギキョウの会」を組織し、30年近く自然観察や保全をしてきました。絶滅危惧種が98種あるそうで驚きです。植物、昆虫、爬虫類、両生類……生き物の宝庫です。

ここに2019年、大規模なソーラー発電が計画されましたが、会の方々のコクランの発見で中止され、地主さん

が山林を坂戸市に寄贈されるといううれしい結末になりました。

「坂戸サワギキョウの会」の方がこれまでに調査した植物調査494種の内、レッドデータ種が41種、昆虫・クモでは447種の内35種、爬虫類・両生類・鳥類では52種の内22種がレッドデータといえますから驚きです。

下の写真（昆虫の8枚）は、同会の佐々木勝男氏の提供です。

「坂戸サワギキョウの会」の問い合わせ：坂戸市役所環境政策課 TEL 049-284-7115



サワギキョウ

埼玉県内ではここだけに生息。地下水のある冷涼な環境が助けている



コクラン

「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」で保護されている



サイゴクベニシダ
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



ホソミイトトンボ



ナツアカネ



ムラサキシジミ



シラホシカミキリ



ヤマトフキバッタ



アオオビハエトリ



ヨダンハエトリ



ラクダムシ

1. 川越のチョウ

10年間の観察で

市内に生息するチョウを10年間にわたって観察してきました。その方法は市内の主要な緑地での定点観察、広域的な調査および現地観察会を組み合わせ、これまで5,000件を超えるデータとなりました。主に観察している緑地は、(仮称)森林公園計画地、安比奈親水公園、水上公園、寺尾調節池および今福の雑木林です。

川越で観察されたチョウ (一覧)

| 科名 | 亜科名 | チョウの種名 | | | |
|-----------------|----------|-----------|-----------|------------|------------|
| アゲハチョウ (9種) | アゲハチョウ | アオスジアゲハ | オナガアゲハ | カラスアゲハ | クロアゲハ |
| | | ナガサキアゲハ | ジャコウアゲハ | ナミアゲハ | キアゲハ |
| シジミチョウ (12種) | シジミチョウ | アカシジミ | ウラナミアカシジミ | ムラサキシジミ | ミズイロオナガシジミ |
| | | ツバメシジミ | ヤマトシジミ | ルリシジミ | ウラナミシジミ |
| | ベニシジミ | ウラゴマダラシジミ | ムラサキツバメ | | |
| シロチョウ (5種) | モンキチョウ | モンキチョウ | キタキチョウ | ツマキチョウ | |
| | モンシロチョウ | モンシロチョウ | スジグロシロチョウ | | |
| セセリチョウ (10種) | セセリチョウ | イチモンジセセリ | キマダラセセリ | チャバネセセリ | オオチャバネセセリ |
| | | ダイミョウセセリ | ミヤマセセリ | ギンイチモンジセセリ | コチャバネセセリ |
| タテハチョウ (24種) | タテハチョウ | ヒメアカタテハ | アカタテハ | キタテハ | ルリタテハ |
| | | ツマグロヒョウモン | サトキマダラヒガゲ | ヒオドシチョウ | ウラギンヒョウモン |
| | | ゴマダラチョウ | ミドリヒョウモン | クロコノマチョウ | リュウキュウムラサキ |
| | イチモンジチョウ | コムスジ | イチモンジチョウ | アサマイチモンジ | |
| | ジャノメチョウ | ヒカゲチョウ | コジャノメ | ヒメジャノメ | ヒメウラナミジャノメ |
| | ウラナミジャノメ | | | | |
| テングチョウ | テングチョウ | | | | |
| コムラサキ | アカボシゴマダラ | ゴマダラチョウ | コムラサキ | | |
| マダラチョウ | アサギマダラ | | | | |

これまでの調査で、市内で観察した60種類のチョウのうち、約50種類が毎年観察できました。過去には川越では71種類が報告されていますが、そのうち15種類が現在では確認できませんでした。

川越で観察された主なチョウ

観察地点数が多いチョウのベスト3は、モンシロチョウが最も多く、ナミアゲハにヤマトシジミが続きます。モンシロチョウは家庭菜園や畑で多く見られますが、水田地帯でも畔で見ることができます。ナミアゲハは移動能力が高く住宅地のミカン科の植物を食草として広い範囲で見ることができます。ヤマトシジミは狭い環境でも食草のカタバミで命をつなぎます。羽が黄色のモンキチョウとキタキチョウも比較的多く観察され、モンキチョウは開けた場所や河川土手に多く見られます。一方、キタキチョウは林縁から開けた場所に見られ、多種類の環境がある場所では共存しています。

| チョウの名前 | メッシュ地点数 |
|-----------|---------|
| モンシロチョウ | 62 |
| ナミアゲハ | 57 |
| ヤマトシジミ | 48 |
| モンキチョウ | 41 |
| ベニシジミ | 34 |
| アカボシゴマダラ | 33 |
| キタキチョウ | 32 |
| ツマグロヒョウモン | 31 |
| アオスジアゲハ | 26 |
| コムスジ | 26 |
| クロアゲハ | 25 |

川越の主要な環境の平地林では、ゴマダラチョウやアカシジミ、ウラナミアカシジミなどのゼフィルスが局所的に残されており、開けた雑木林に生息するミヤマセセリも数か所では観察されていません。水田地帯ではチョウの種類は少なくなる傾向があり、見かける頭数も減ってきますが、この地域に残された神社や河畔林でまだ多くの種類を見ることができます。とりわけ、河畔林がある安比奈親水公園、水上公園や寺尾調節池などでは貴重なチョウも観察されています。

一方、気候変動で北上しているツマグロヒョウモン、クロコノマチョウ、ムラサキシジミ、意図的な放蝶のアカボシゴマダラなどは川越に定着し、その分布を広げています。

環境の変化によって、チョウの分布が局所的になり、食草などの減少により市内での絶滅が危惧されるのは、ジャコウアゲハ、ヒオドシチョウ、ゴマダラチョウ、ミヤマセセリ、コムラサキなど10種類ほどになります。

主なチョウの写真



モンシロチョウ



モンキチョウ



キアゲハ



ヤマトシジミ



クロノマチョウ



ウラナミシジミ



コムスジ



ツマキチョウ



アカシジミ



ウラナミアカシジミ



ミズイロオナガシジミ



ギンイチモンジセセリ



ベニシジミ



ムラサキシジミ



ツماغロヒョウモン



アカボシゴマダラ



ゴマダラチョウ



ヒオドシチョウ



ルリタテハ



ミヤマセセリ



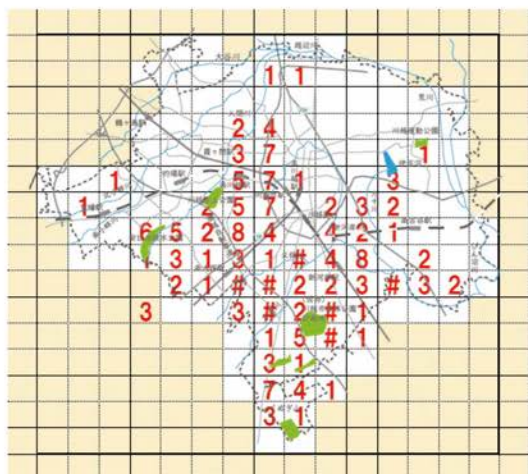
アオスジアゲハ



コムラサキ

チョウの分布

チョウは食草や生息環境および種類の行動力によってその分布が大きく異なってきます。市内に見られるチョウの分布を主なチョウについて検証してみます。最も多くの場所で見られるモンシロチョウは、食草であるアブラナ科の植物が市域に広く生育しており、観察期間も長く、畑作地帯や水田地域でも見ることができます。(分布図1)



分布図1 モンシロチョウ

分布図の説明

左の図は川越市を1kmごとの碁盤に区切ったもので、これは世界標準に則っておりメッシュコードと呼ばれ8桁の番号がついています。1つ1つの区切りをメッシュと呼びます。川越は市境も含めると150のメッシュ数になります。この分布図は各メッシュの中で何か所でモンシロチョウが観察されたかを表しています。

#は10か所以上を表します。

広い範囲に見られるナミアゲハ（アゲハチョウ）は高い飛翔力を持ち、食草はミカン科の樹木で、住宅地、樹林地から水田まで生息します。生息地を離れて遠くまでその分布を広げている現状が見てとれます。市内での個体数は、推計で約300頭となり1km当たり1～2頭といった分布です。このチョウは3月から11月まで長く観察でき、広く分布していると思われます。

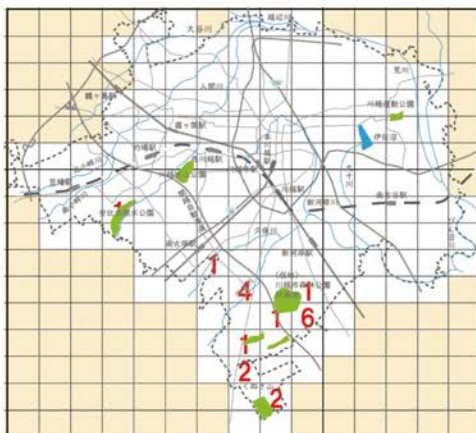
小型のチョウで狭い緑地で繁殖し、カタバミを食草とするヤマトシジミもいたる所で観察できます。開けた環境を必要としていることから、河川敷の土手、樹林地の周辺、公園などに比較的多く見ることができます。このチョウは狭い環境でも生息でき、出現時期も4月から11月までの長い期間観察ができます。

キタキチョウとモンキチョウとの関係は、モンキチョウの食草はマメ科植物なので明るく開けた環境で多く見られ、河川敷、水田地帯などに多く見られます。キタキチョウはハギ類やネムノキを好み、林縁とそれに続く草地で多く見られます。河畔林やそれに続く草地のある多様な環境では両者が混在

することがあります。

雑木林には、シジミチョウ科のゼフィルス類、タテハチョウ科のゴマダラチョウ、ヒオドシチョウ、テングチョウ、ルリタテハ、サトキマダラヒカゲ、ヒカゲチョウなどがいます。特にゼフィルス類は雑木林のコナラやクヌギの新芽に依存しており、雑木林の分布と一致し、5月から6月にかけて出現します。特にウラミアカシジミは若いコナラ等を必要としており、今福、中福の雑木林には多く生息しています。タテハチョウ科のチョウは食草や餌となる樹液、比較的暗い環境などが必要とされており、それらの分布は雑木林と重なっています。最近、水田地帯の古い神社でサトキマダラヒカゲ、ヒカゲチョウが観察され、飛び地での生息が確認されました。その分布拡大の解明が必要です。

季節変化を示すチョウにはイチモンジセセリ、ウラミシジミなどがありますが、イネや豆の害虫として嫌われます。これらのチョウは夏から秋にかけて増殖しながら北上するために秋になると目につきやすくなります。



ウラミアカシジミ分布図

チョウの未来について

川越でこの50年間で10数種類のチョウが姿を消してしまいました。チョウの現状から推測すると①生息地の開発及び破壊、②温暖化によるチョウ相の変化、③雑木林などの放置、などが考えられます。特に草原や空き地の開発でシジミチョウ科のチョウが大幅に減少しており、シジミチョウの分布が限定されているのはそのことを示しています。

華やかなチョウも卵、幼虫、さなぎ、そして成虫（チョウ）と多様な形態で、様々な環境を利用して生息しています。そのどれかが断ち切られると生存できなくなります。そのためにチョウは地域の環境指標として大切な役割を持っています。チョウの住める環境を保全することをめざして、いつまでもチョウと共生できる環境を維持できるように願わずにはられません。

2. 川越のトンボ — 5年間の記録

チョウに続いて環境との関連が比較的明らかなトンボを対象にして市民調査を実施しましたが、チョウと違って移動速度が速く、観察場所も林や水路、水辺と多様で簡単に調査できる状況になく、難しさがありました。しかし、観察対象を広げることでこれまで見過ごされてきたトンボの行動が少しずつ明らかになってきています。県内でのトンボの歴史も振り返りながら川越のトンボについてこれまでに分かったことを報告します。

埼玉昆虫談話会が作成した埼玉県昆虫誌（1998年発行）によると、トンボの調査が本格的に始まったのは1950年代から60年代にかけてです。70年代には1978年に長須房次郎氏によって埼玉県のトンボ相がはじめてまとめられ「埼玉県動物誌」に「埼玉県のトンボ類」が掲載されました。80年代には新井裕氏による「埼玉県トンボ観察記」の発行があり、90年代は昆虫同好会や研究会の活動が活発になりました。そして、1996年に埼玉県レッドデータブックの刊行で、それまで記載のあったトンボの1/3を超える34種が絶滅危惧種としてあげられ2018年には全88種のうち40種類に増加しました。

市内にはトンボの生息になくなくてはならない大小の河川、準用河川などが多く、伊佐沼、寺尾調節池、小畔水鳥の郷公園、御伊勢塚公園などの水辺、さらに広大な水田と水路があります。この中で寺尾調節池、安比奈親水公園の小川での調査で見つかったトンボやヤゴについて紹介します。

安比奈親水公園を流れる小川は智光山公園を水源として親水公園では崖線の下を流れています。ここで4年間ヤゴの調査を行いました。

専門家に依頼して鑑定してもらったヤゴは、オナガサナエ、コオニヤンマ、ハグロトンボ、ホンサナエ、ミヤマサナエです。最も多いのがハグロトンボで他は毎年2種類が見つかっただけです。



安比奈親水公園内の小川



ハグロトンボのヤゴ



ホンサナエのヤゴ

公園内の水路や竹藪ではカトリヤンマ、ヒメアカネ（絶滅危惧Ⅱ類VU）、イトトンボ類など15種類のトンボを観察でき、多様な自然環境でトンボのサクチュアリとなっています。小畔水鳥の郷公園の池ではアジアイトトンボ、コシアキトンボなどを見つけることができました。水上公園ではウチワヤンマ、コヤマトンボなどが見られました。

トンボの定点調査と広域調査では、24種類のトンボを観察することができました。最も多い地域で見られたのはシオカラトンボで水辺を離れた場所でもよく見るすることができます。次に多いアキアカネは田んぼで羽化して山に移動し、秋には戻ってくる性質を持っています。このトンボの集団移動を2年間続けて福原で観察していますので、移動経路の一つとなっていることがわかりました。秋の彼岸頃よく目にするウスバキトンボは秋になると一斉に北上していたる所で目に見ることができます。長距離の飛行に適した体形で止まらず群れて北上していきます。ヤゴは冬の寒さに適応できず北国では越冬することができません。

止水域で生息するギンヤンマは田んぼでその飛行を確認でき、夏には市街地で飛行し、雑木林で避暑している姿を見かけます。寺尾調節池で



アオヤンマ

はアオヤンマを見つけました。水辺のアシに産卵し、底質に砂がある良好な水質に生息するトンボで、

絶滅危惧Ⅱ類です。今福の雑木林では5月にミヤマサナエが風を避けているのに出会いました。また、田んぼやその周辺で生息しているミヤマアカネやハグロトンボを雑木林で見かけることがあり、アキアカネほどではないのですが、生息地を離れての移動が行われていると考えられます。

| 種名 | 観察地点数 |
|-----------|-------|
| シオカラトンボ | 33 |
| アキアカネ | 18 |
| ウスバキトンボ | 12 |
| ギンヤンマ | 8 |
| ミヤマアカネ | 7 |
| ハグロトンボ | 7 |
| コシアキトンボ | 4 |
| ナツアカネ | 3 |
| ノシメトンボ | 2 |
| コヤマトンボ | 2 |
| オオシオカラトンボ | 2 |
| ウチワヤンマ | 2 |
| アジアイトトンボ | 2 |
| ルリボシヤンマ | 1 |
| マユタテアカネ | 1 |
| ヒメアカネ | 1 |
| ハラビロトンボ | 1 |
| チョウトンボ | 1 |
| シオヤトンボ | 1 |
| コフキトンボ | 1 |
| コノシメトンボ | 1 |
| クロイトトンボ | 1 |
| カトリヤンマ | 1 |
| アオモンイトトンボ | 1 |

水田や小川に多いミヤマアカネ、ハグロトンボが今福の雑木林で観察され、飛行距離が短いトンボでも夏には林に移動する行動が見られることがわかりましたし、トンボの生息を守るには水辺とともに樹林地も合わせて守る必要があることを教えています。トンボは水辺と林を行き来し複数の環境を利用していると言われていました。しかし川越市内でのその実態は、まだまだ知られていないことが多くあるようです。トンボと遊んだ子どもの記憶は遠い昔のこととなったのでしょうか。子どもの眼差しで今の時代の環境を見つめ直してみたいかがでしょう。



アキアカネ



ナツアカネ



ミヤマアカネ



シオカラトンボ



チョウトンボ



ハラビロトンボ



ギンヤンマ



ハグロトンボ



ヒガシカワトンボ



ウチワヤンマ



コノシメトンボ



ウスバキトンボ

3. 川越の昆虫

昆虫は多様な環境に進出し、適応して地球上でもっとも繁栄している生物です。埼玉県では16目10,756種類が現在知られており（埼玉県レッドデータブック動物編2018）、市内数カ所での調査結果を踏まえて、どのくらいの昆虫が生息するのか紹介します。調査場所は、安比奈親水公園、水上公園、寺尾調節池周辺、「(仮称)川越市森林公園」計画地、今福の雑木林などで、単発的に調査した箇所も含まれています。

安比奈親水公園の自然環境は、グラウンド、芝生、花畑と親水河川がある人工的な空間とシンジュ、真竹、崖線の小川、そばの草はらの自然空間と多様です。ここで見られた昆虫は、クヌギの樹液にカナブン、コクワガタ、コガタスズメバチ、オオスズメバチ、チョウ（ヒカゲチョウ、サトキマダラヒカゲ、アカボシゴマダラ）等が、シンジュ林にはミンミンゼミの色彩型のミカドミンミンが、倒木にはヤマトタマムシが産卵していました。真竹とクワの林ではベッコウバチ、チョウセンカマキリなどの捕食者が見つかりました。また水路と水田、樹林地があるためにトンボのサンクチュアリとなっており、カトリヤンマ、ヒメアカネなどが観察されています。草はらにはヨウリョウバッタ、オンブバッタ、クルマバッタモドキなどが生息していました。花畑や芝生にはトノサマバッタが周遊路から飛び出しました。珍しくなったアカハネナガウンカも見つかっています。



ミカドミンミン
ミンミンゼミの色彩型
(本来黒い部分が緑化したもの)

水上公園は、堤防を境に人工的な環境とクヌギ、エノキとクワの河畔林に



水上公園での調査



ジャコウアゲハ幼虫 (左) とサナギ (右)

分けられています。この自然地では枯れ木や枯れ枝、落ち葉が放置され昆虫の棲みやすい環境となっています。ここの昆虫は、樹液の出る特定のクヌギには絶滅危惧種のアカアシオオオカミキリ、希少種のチャイロスズメバチが見られます。ムラサキツヤハナムグリは市内初めての観察でした。堤防の斜面では食草（ウマノスズクサ）を繁殖させてジャコウアゲハの保護に取り組んでいます。この地はチョウの種類が多く、ミズイロオナガシジミも出現します。土手の斜面にはバッターも見られ、最近少なくなったクルマバッターモドキも観察できます。枯れ木や落ち葉の下にはヒメマイマイカブリ、センチコガネなどが隠れています。

今福の雑木林は、伝統的な雑木林の管理がされており、トウキョウヒメハンミョウ、カブトムシ、ノコギリクワガタ、カナブン、など雑木林特有の昆虫が多く見られました。

〔(仮称)川越市森林公園〕計画地には水場はありませんが、手入れされた農用林、樹林地、畑地など様々な要素があり、多様性に富んでいます。このエリアでかわごえ環境ネットが10年間にわたり調査や観察会で確認した種は300種ほどです。また、須賀邦昭氏他の専門家による5年間の調査では、400種ほどが標本にされています。まだまだ未調査のものも含めると相当数が生息していると考えられます。



ミズイロオナガシジミ



「虫の観察会」2017/7/30

調査・観察会で見つかった昆虫

ハチ・ハエの仲間



モンズズメバチ
小型のスズメバチ
希少種



オオスズメバチ
樹液に集まる
雑木林には多い



アオメアブ
大型の昆虫を捕食する



メスアカケバエ
幼虫はミミズのように
落葉の下に大発生する。
5月ごろ飛び回る

コウチュウの仲間



ウスバカミキリ



キボシカミキリ
イチジクなどにつく



キマダラカミキリ



ルリカミキリ



ラミーカミキリ



ヨツスジハナカミキリ



アカアシオアオカミキリ
準絶滅危惧種



ウバタムシ
準絶滅危惧種



アオマダラタムシ
準絶滅危惧種



マメコガネ



ジンガサハムシ



ノコギリクワガタ

カメムシの仲間



ヨコヅナサシガメ
円内は羽化直後



アカスジキンカメムシ
円内は幼虫



エサキモンキツノカメムシ



キバラヘリカメムシの幼虫



アワダチソウグンバイ

バッタ・ナナフシの仲間



ツチイナゴ



クルマバッタモドキ
後ろ翅に黒色の輪状帯がある



ヒナバッタ



ヤスマツトビナナフシ

これまでかわごえ環境ネットのメンバーが撮りためてきたものからいくつか紹介しました。トンボ、チョウは前項のページをご覧ください。その他、クモ、水生昆虫は第8章をご覧ください。

4. 田んぼの自然

蔵造りのまち並みで有名な小江戸川越ですが、中心市街地から少し足を延ばすと、西部の霞ヶ関や北部の山田、東部伊佐沼周辺の古谷、そして南東部の南古谷地域においては、今もなお美しい水田風景が広がっています。川越市内には小畔川、新河岸川、入間川、荒川など多くの河川が流れており、河川周辺の低地部分では稲作に適した土壌を形成しています。



小畔川沿いの田園風景

しかし、田んぼだけでなく畑と樹園地も含めた農業をめぐる市内の状況は、宅地開発や農業分野の後継者不足などの影響から、残念ながら減少傾向が続いています。川越市の農林業センサスによると、1975年から2015年の40年間で田んぼは約1,200ha減、全体としても約2,200haの耕作地が減少しています。

耕作地の面積推移 (ha)

| | 1975年 | 1985年 | 1995年 | 2005年 | 2010年 | 2015年 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 田 | 2,739 | 2,474 | 2,199 | 1,681 | 1,674 | 1,520 |
| 畑 | 1,529 | 1,330 | 1,287 | 918 | 974 | 892 |
| 樹園地 | 468 | 263 | 120 | 55 | 45 | 38 |
| 合計 | 4,736 | 4,066 | 3,606 | 2,654 | 2,693 | 2,449 |

出展：川越市 農林業センサス

一方、田んぼや畑作などの農地については食料を供給するだけでなく多面的な機能が近年見直されるようになってきました。農地の多面的機能には、降雨の際の水源のかん養、緑豊かで良好な景観の形成、そして都市内での生きものたちの生息地を確保するための生物多様性の保全などがあります。川越市においても、農地が都市にあるべきものとして認識され、「川越市農業振興計画（平成31年3月）」では「農のあるまち川越」という視点が入り入れられています。

市内耕作地の約6割を占める田んぼでは実に多くの生きものたちの存在を感じることができます。春の訪れを告げるウグイス、「ケーン、ケーン」と藪の中から声をだすキジ、田んぼに水を張った後は水面をすいすいと泳ぐカルガモの親子、時折エサを探しにくるアオサギやコサギたち、梅雨にはカエルの大合唱、夏の終わり黄金色に染まった田んぼの上ではアキアカネが舞っています。このように田んぼはお米づくりだけではなく、身近な生きものたちが暮らす場所にもなっています。



カルガモの親子

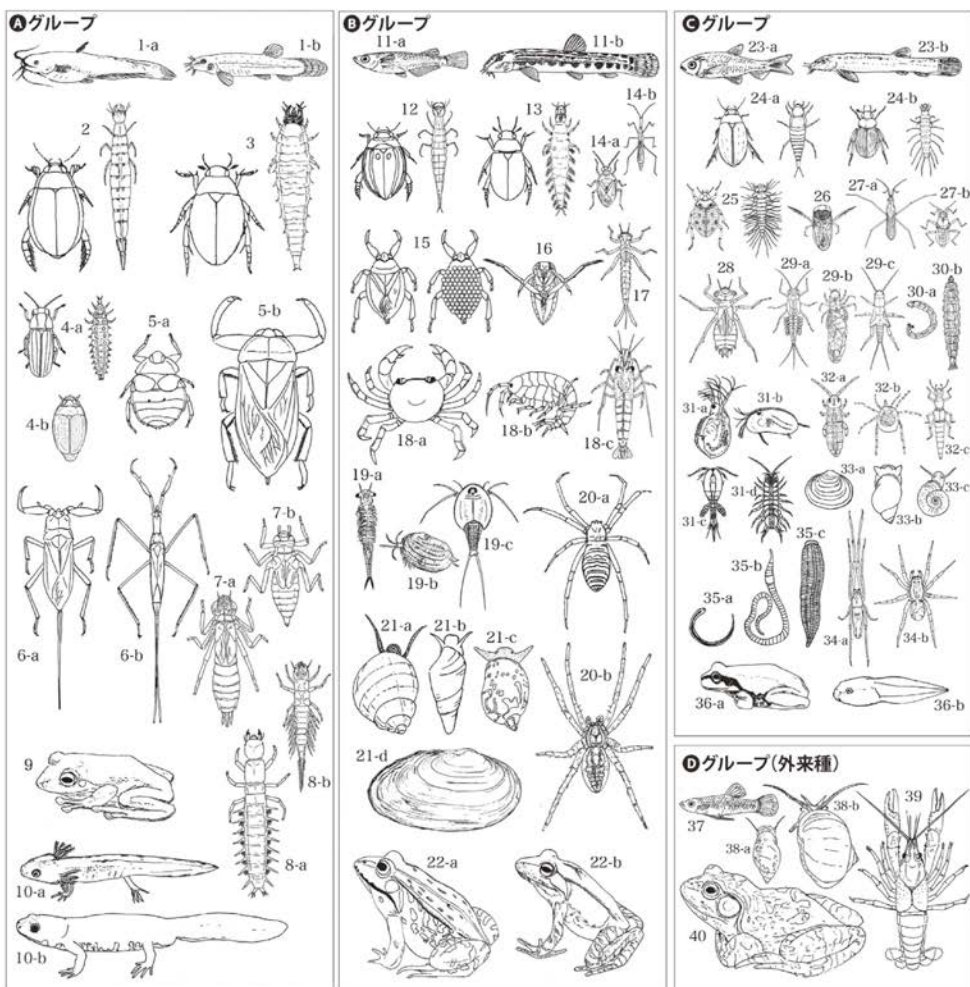


キジ



田植えの様子

川越市の北部福田地域では、「NPO法人 かわごえ里山イニシアチブ」が、無農薬で化学肥料を使用しない生きものを育む田んぼプロジェクトを実践しています。かわごえ里山イニシアチブでは、例年6月ごろ、身近な自然の楽しみ方を提案している団体「食楽風土(クラフード)」と「かわごえ環境ネット」が協力して田んぼの生きもの観察会を実施しています。この生きもの観察会では、田んぼにいる生きものを希少性の高い順でA、B、C、Dの4つのグループに分類した「田んぼの生きもの環境チェックシート」を活用し点数化することで、田んぼの環境を「見える化」しています。



田んぼの生きもの環境チェックシート (「食楽風土」提供)

2020年の生きもの観察会の結果

| Aグループ (5ポイント) | | 21 | タニシ・カワナナ・モノアラガイ・ドブガイ | ○ | |
|---------------|----------------------|---------------|-------------------------|------------------------|---|
| 1 | 田魚A (ナマズ類、ホトケドジョウ) | 22 | トノサマガエル・ダルマガエル類・アカガエル類 | ○ | |
| 2 | ゲンゴロウ | Cグループ (1ポイント) | | | |
| 3 | ガムシ | 23 | 田魚C (タモロコ・ドジョウ・雑魚) | ○ | |
| 4 | ホタル・ミズスマシ | 24 | 小型のゲンゴロウ。ガムシの仲間 | ○ | |
| 5 | ナベブタムシ・タガメ | 25 | コガシラミズムシ | | |
| 6 | タイコウチ・ミズカマキリ | 26 | コミズムシ | ○ | |
| 7 | ヤンマ・サナエのヤゴ | 27 | アメンボ類・カタビロアメンボ類 | ○ | |
| 8 | ヘビトンボ・センブリの幼虫 | 28 | トンボ・アカネのヤゴ | ○ | |
| 9 | モリアオガエルなど青蛙の仲間 | 29 | カゲロウ・トビケラ・カワゲラ | ○ | |
| 10 | サンショウウオ幼生・イモリ | 30 | ユスリカ・ミズアブ | ○ | |
| Bグループ (3ポイント) | | 31 | ミジンコ・カイミジンコ・ケンミジンコ・ミズムシ | ○ | |
| 11 | 田魚B (メダカ、シマドジョウ) | ○ | 32 | トビムシ・ミズダニ・ハネカクシ | ○ |
| 12 | 中型のゲンゴロウ | 33 | シジミ・ヒメモノアラガイ・ヒラキミズマイマイ | ○ | |
| 13 | コガムシ | ○ | 34 | アシナガガモ類(造網)・ハシリグモ類(徘徊) | ○ |
| 14 | ミズクワカメムシ・イトアメンボの仲間 | 35 | センチュウ・イトミミズ・ヒル | | |
| 15 | コオイムシ | 36 | アマガエル・オタマジャクシ・他カエル類 | ○ | |
| 16 | マツモムシ | ○ | Dグループ 外来種 (-2ポイント) | | |
| 17 | イトトンボ・カワトンボのヤゴ | ○ | 37 | 外来魚 | |
| 18 | 甲殻類 (カニ・ヨコエビ・エビ) | ○ | 38 | 外来貝 (サカマキガイ・スクミリンゴガイ) | ○ |
| 19 | ホウネンエビ・カイエビ・カブトエビ | | 39 | アメリカザリガニ | ○ |
| 20 | コガネグモ類(造網)ハシリグモ類(徘徊) | | 40 | ウシガエル | |

川越市内では、かわごえ里山イニシアチブだけでなく、少しずつですが環境に配慮した農業を営む農家も増えてきています。このように生きものとの共生を意識した農の営みが増えていくことで、人にも環境にもやさしいサステイナブルな都市が形成していければと思います。



稲穂



生きもの観察会の様子

1. 植物

木本

コナラ (ブナ科) 雑木林を代表する樹種。落ち葉堆肥をとるために人工的に植えられた。



ハイロチョッキリ

3月下旬頃新芽、雄花が出る。新芽は銀白色の毛を纏い遠目に見ると全体が輝いて見える。やがて普通の緑になる。初夏の雑木林でコナラのどんぐりが枝ごと落ちてることがある。切り口を見るとスパッと切れているが、これはハイロチョッキリの仕業。どんぐりに卵を産み付け枝ごと切り落とす。



クヌギ (ブナ科) コナラと共に雑木林に多い。どんぐりは大きく、2年かかって成熟する。



春先の雄花



どんぐりの成長



鋸歯の先端は針状



どんぐりは綿帽子つき



樹皮

アカシデ・イヌシデ (カバノキ科)

アカシデは春の果穂が赤くイヌシデは黄色い。垂れ下がる花穂のようすが神事に使う四手に似ることが名前の由来。雑木林には多く地元の人にはソロと呼ぶ。



春先の新芽



アカシデ



イヌシデ



果穂



果実



樹皮

ウワミズザクラ・イヌザクラ (バラ科)

ウワミズザクラは雑木林には多い。この花を「サクラ」と聞いて驚く人は多い。ウワミズザクラと似ているイヌザクラは少ない。



ウワミズザクラの花と実。実は5月下旬頃から赤くなる。野鳥の好物で、すぐなくなる。果実酒にすると美味。



花のついた枝に葉があればウワミズザクラ、なければイヌザクラ。



樹皮 白っぽい



樹皮 黒っぽい

ヤマコウバシ (クスノキ科) 落葉樹だが、冬になってもなかなか葉が落ちない。受験生のお守りになる。3月頃まで枯れた葉をつけている。4月に新芽が出る



とき入れ替わる。

エゴノキ (エゴノキ科)



果実にえぐ味があることからの名前。5月下旬頃鈴なりにびっしりと白い花を付ける。その後に緑の実ができ、秋には茶色になる。様々な特定の生き物が依存している話題の多い木である。



実に産卵に来たエゴヒゲナガソウムシ



エゴノネコアシ 花が終わったところにできる虫こぶ。中にアブラムシがいる。



エゴツルクビ オトシブミ

オトシブミ 葉を葉巻みたいに巻いて写真の虫が産卵する。

ヤマザクラ (バラ科) 日本の桜はヤマザクラが元祖。寿命が長く巨木になる。雑木林に



は直径が80cmを超える大木も散見する。他の高木に混じるため花は見えにくい。ソメイヨシノより少し遅れて、花と葉がほぼ同時に開く。花もきれいだが、赤茶色の葉が彩を添え美しい。

エノキ (アサ科) 高木になるので、昔は一里塚の目印に植えられた。葉は左右で対称なのが見分けのポイント。樹皮は灰黒色でざらつく。オオムラサキやゴマダラチョウの食草でもある。



葉脈が左右で対称



黒っぽい実ができる



堂々たる姿

アオハダ (モチノキ科)

樹皮をつめでこすると緑色の内皮が見えることが名前の由来。細い枝に棘のように見える短枝があるのが特徴。秋になると赤い実ができ、野鳥の好物。樹皮はなめらかで株立ちすることが多い。



短枝の先に葉が出る



株立ちになることが多い

ムクノキ (アサ科)

高木になる。葉は互生。卵形で先はとがり縁に鋸歯がある。表裏ともざらつき、昔、漆器や家具を磨くのに利用されたという。秋には黒紫色の実がなり、ブルーベリーのようなおいしさがある。野鳥がよく種を運び、雑木林では実生が多い。樹皮は白っぽく縦に細かく割れ、根元の基部が板根性になる。



ムラサキシキブ (シソ科)

高名な作家、紫式部にちなんだ名前。低木で葉は対生。6月頃花を、10月頃実を付ける。雑木林には多い。野鳥が種子を運ぶ。



ガマズミ (ガマズミ科)

林縁を彩る低木。対生する葉や枝が特徴。実は野鳥の好物、人も可食。酸っぱいが果実酒にすると美味。



サワフタギ (ハイノキ科)

明るめの水辺や林で枝いっぱい葉を茂らせる。「沢蓋木」という名前は、沢を塞ぐほど繁茂することに由来する。5月頃に白い花を咲かせ、10月頃になるり色の実をつける。



近年は川越の雑木林では、このシロシタホタルガの幼虫の食害で、葉がほとんどなくなり実を付ける木はごく少なくなった。

ウグイスカグラ (スイカズラ科)

雑木林では3月中頃一番に咲く花。実は6月頃熟し、野鳥に人気。人も可食。雑木林には多い。



リョウブ (リョウブ科)

雑木林に普通にある。樹皮は薄皮が剥がれ落ちてまだら模様になる。ナツツバキの樹皮に似ている。新芽は山菜として賞味される。



昔は救荒植物として利用された。

アカメガシワ (トウダイグサ科)

パイオニアプラントの代表格。空き地、林、川べりなどどこにでも繁茂する。成長も早いので要注意。春先に赤い新芽を出す。新芽の表面には星状毛と言われる毛が密生し、ほどなく剥げ落ちる。



木が倒れた林、不老川の護岸、住宅地など至る所で見られる。

アカマツ (マツ科)

川越南部には以前アカマツ林が多く、「松原」などの地名が残る。貧栄養の土地でも生育が早く、材としても用途があったが、近年のマツクイムシ被害で壊滅状態になった。



スギ (ヒノキ科)

スギは雑木林の境界木として列状に植えられていることが多い。また、社寺林などでは大木になったものもある。



ヒノキ (ヒノキ科)



Y(わいはヒノキや)

ヒノキは言わずと知れた第一級の建築用材で、山林だけでなく平地林にも境界木などとして多く植栽されている。サワラはヒノキに比べ柔らかく加工しやすいが材は脆く、昔は風呂桶などを作った。両者は葉で見分けるのが普通。葉の先端の尖り方に違いがあり、「尖りサワラに丸ヒノキ」と言われる。また、葉裏の気孔帯のようがヒノキはYの字、サワラはWの字に見える。

サワラ (ヒノキ科)



サワラは(サWaラ)

シラカシ (ブナ科)



葉は細い楕円形で上半分に低い鋸歯があり、裏面が白っぽい。春に花を付け、秋にはドン

グリになる。昔は防風を兼ね屋敷の生け垣にした。今も街中の住まいや農家の屋敷に巨木となったものを目にする事がある。雑木林にも大木になったものがある。川越市の木「かし」はこのシラカシを指す。

サカキ (モッコク科)



サカキは神社によく植えられているが、雑木林では皆無に近い。葉は鋸歯がなく冬芽の先が弓なりにまがる(矢印)。

ヒサカキ (モッコク科)



ヒサカキは低山の林床に普通にみられ、雑木林では非常に増えてきている。葉はサカキより小さく、丸い鋸歯がある。

草本 春 (レッドデータは埼玉県版)

シュンラン (ラン科)



準絶滅危惧 (NT) 落葉樹林の林床に咲く。ホクロ、ジジババの別名もある。

アズマイチゲ (キンポウゲ科)



準絶滅危惧 (NT) 日当たりのよい林縁に咲く。池辺公園に群落がある。

アマナ (ユリ科)



落葉樹林の林床に4月初めに星のような花を付ける。球根で増える。

キジムシロ (バラ科)



4月初め頃開花。5～9枚の小葉からなる奇数羽状複葉。地面に広がりキジの筵のよう。

ジュウニヒトエ (シソ科)



花が重なって咲く様子を十二単にたとえた。近年は野生のものは少ない。

オドリコソウ (シソ科)



外来のヒメオドリコソウとは違い花が大きく優しいイメージ。川越ではあまり見られない。

コスミレ (スミレ科)



3月終わり頃には開花する。葉はやや丸みのある長さ2～6cmの長三角形。花が終わると葉が大きくなる。

ヒメスミレ (スミレ科)



4月中頃に咲く小さなスミレで全体が高さ5cmほど。花は濃い紫色。

ツボスミレ (スミレ科)



5月頃雑木林では最後に咲くスミレ。長く茎を出し小さな白い花をつける。如意堇ともいう。

草本 初夏～初秋

イチヤクソウ (ツツジ科)



落葉広葉樹林に生息する。半寄生植物。

ウメガサソウ (ツツジ科)



絶滅危惧Ⅱ類 (VU) コナラ林などの林床に生育する。花は1cmほどで中心は紅色を帯びる。半寄生植物。

シャクジョウソウ (ツツジ科)



準絶滅危惧 (NT) 林内のやや暗い場所に生育。クロロフィルを欠き、寄生植物。

ノヤマトンボ (ラン科)



準絶滅危惧 (NT) 林内の疎林地に生息。薄黄緑の花をトンボに見立てた名前。

オニノヤガラ (ラン科)



絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 腐生植物で光合成をせずナラタケと共生関係にある。生息地は限られている。

クチナシグサ (ハマウツボ科)



果実の形がクチナシに似ている。

準絶滅危惧 (NT) 里山のような林内に生息。半寄生で栽培は不可。

キンミズヒキ (バラ科)



道端や山野で見られ夏に黄色の総状の花を咲かせる。果実にはトゲがあって動物について散布される。

ニガクサ (シソ科)



野山のやや湿った木陰に生える。薄紅色の爽やかな花。

シラヤマギク (キク科)



秋の野山に咲く野菊の一種。茎は高く伸び、白い花をまばらにつける。

ノコンギク (キク科)



野山に咲く野菊の一種。ヨメナと似るが冠毛、葉にちがいがあ。広く群生する。

オケラ (キク科)



秋に林内に咲くが、数は少ない。総苞片がレース編みのようで他にはない造形。

草本 秋から初冬へ

ヤブラン (キジカクシ科)



ヒメヤブラン (キジカクシ科)



オオバジャノヒゲ (キジカクシ科)



雑木林の林床によく生える。6～10月ころまでどれかが咲いている。

コウヤボウキ (キク科)



オオハナワラビ (ハナヤスリ科)



胞子のカプセル

雑木林で晩秋に咲く。キク科には珍しい木本。昔、高野山で箒を作ったということからの名前。

雑木林で夏頃から葉を出し、晩秋頃に胞子葉を出し、オレンジ色になる。

草本 湿地性の植物

ミクリ (ミクリ科)



準絶滅危惧 (NT) 多年生の抽水植物。水路や湿地に見られる。果実がクリのイガのようなのでこの名がついた。

ヒメミズワラビ (ホウライシダ科)



準絶滅危惧 (NT) 農業を使用しない水田や湿地で見られる。

タコノアシ (タコノアシ科)



絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 河川敷や水路などで見られる。紅葉すると全体が赤くなり花序がゆでだこの足のように見える。

イチョウウキゴケ (ウキゴケ科)



絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 浮遊性のこけ類。農業を使用しない水田や湿地で見られる。

オオカワヂシャ (オオバコ科)



特定外来生物 川や沼地の水際で在来のカワヂシャを駆逐し増えている。在来種のカワヂシャは白い小さな花だが本種は薄紫の花。

2. 昆虫以外の動物いろいろ

クモ

クモ（蜘蛛）は昆虫とは違い、足は8本、体節は腹部と頭胸部の2節。日本では1400種ほど確認されているが、普通には500種ほどがみられる。

ジョロウグモ



20~30mm 都市部から山間部まで広く生息する。

コガネグモ



20~25mm 樹林地の周辺に生息。X字形の網の中心にいる。

ナガコガネグモ



20~25mm 平地から山地まで広く生息する。

オオシロカネグモ



13~15mm 里山~山地に生息。大型の水平円網を張る。

網を張らないクモ ピョンピョン飛びながら虫を捕まえる

アズチグモ



6~8mm♀ 平地~山地まで広く生息。色彩・模様は変異が大きい。サングラスをかけたような頭部が特徴。

ヒメスジハエトリ



2~3mm♂♀ 海岸、河原、空き地などに生息。腹部にある3本の褐色条が特徴。ハエトリグモ類では最小。

マミジロハエトリ



6~7mm♂ 平地~山地まで広く生息。オスの頭部前面の白いまゆ毛が特徴。

哺乳類

川越に野生の哺乳類は何がいるのでしょうか？タヌキが少し、圧倒的に多いのが迷惑しているアライグマ。

モグラ



林の中にこんもりと盛り上がったモグラ塚。姿を見ることはまずないが、存在はわかる。関東にいるのはアズマモグラ。

アカネズミ



「虫の観察会」の時に草原の中から出てきたところ。体長は10cmほどの小さなかわいいネズミ。

タヌキ



小群川沿いの草原で出会った。

爬虫類

アオダイショウ



カナヘビ



クサガメ



両生類

カエルの仲間

トウキョウダルマガエル

ヌマガエル



ミシシippiaカミミガメ



夜店でミドリガメとして売られていたのが放棄され、今や川、沼に満ち溢れている。顔の赤い模様が特徴、特定外来種。

ニホンアカガエル



ヒキガエル



畑のすみっこにいた。

その他

ヤマナメクジ



ナメクジは雌雄同体なので交尾の時はどちらも精子を出しどちらも産卵する。これは森の中でのショット。卵塊がきれいなブルー。ヤマナメクジは大きくて5cmくらいある。

トビズムカデ



8~15cm 毒をもって13cm 刺されないように。

マクラギヤスデ



3. 魚類・水生動物

オイカワ



よく見られる魚、オスは繁殖期にはこのような婚姻色がでる
ニゴイ



細長い体型
アブラハヤ



ウロコが小さく体表のぬめりが強い 陽をあびると虹色に光る
カワムツ



体の中央に藍色の濃い線がある ヒレは黄色
モツゴ



川や湖に普通にいる 体側の線が口先までである
クチボソともよばれる

川越に棲む魚類

カマツカ



礫質の川底にいる、オデコが出っ張っている
シマドジョウ



体に模様がある 希少種で数は少ない
ドジョウ



田んぼや川などにたくさんいる
ナマズ



寺橋あたりに潜んでいた大ナマズ
コイ



どこにでもいて何でも食べる 30cm以上は普通

トウヨシノボリ



ハゼの仲間で浅瀬を好む 尾鰭に橙色がある

ヌマチチブ



ハゼの仲間 ズングリした体型

ギバチ



清流の指標とされる絶滅危惧種 ヒゲが8本あり
アブラビレが大きい 日本固有種

コクチバス



特定外来種 ブラックバスとよばれる 上あごの
後端が目より前にある トラ模様

オオクチバス



特定外来種 口が目の後まである 体側に太い模様がある

ブルーギル



特定外来種 エラのアたりがブルーに輝いている
体型は扁平

タイリクバラタナゴ



外来種 流れの緩やかな場所を好む 汚れた水質でも生息する

モクズガニ



爪の部分にモクズのような毛が密生 産卵期には
河口付近まで下る

テナガエビ



生息数はあまり多くない 第2歩脚が長い

ヌカエビ



5cm未満の小さなエビ 個体数は多い

水生動物 川や田んぼで調査している時にであった生き物たち

清流域

サワガニ



ヘビトンボ幼虫



アミメカゲロウの仲間

マシジミ



ギバチ



アユ



ホトケドジョウ



絶滅危惧種 I A (CR)

小河川の源流域や湧水が残りサワガニの生息や、水生植物が自生するような水域に生息
全長5～7cm

シオカラトンボ



ハグロトンボ



コオニヤンマ



コヤマトンボ



オニヤンマ



田んぼの生き物

ハウネンエビ



カプトエビ



生きた化石といわれ、2億年前に起源があるとか。こんな顔です。

田んぼの人気者

ハウネンエビもカプトエビも田植えが終わり1週間ほどで出現するが、まもなく卵を産んで消えていく。ほとんどを卵で過ごす。有機田んぼに多い。大きさは1~2cmほど。

サカマキガイ



マツムシ



コシマゲンゴロウ



ヒメガムシ幼虫



キクツキコモリグモ



4. 野鳥 —川越の身近な野鳥

野鳥は、季節（夏鳥、冬鳥などの渡り鳥）や場所（水辺、山野）によって見られる種が異なります。

川越では、地形や環境の特徴から内陸の水辺や低地で暮らす鳥のほか、渡り途中の鳥が見られ、「川越市生き物調査」によると年間約100種の野鳥が観察されています。

伊佐沼、川越水上公園、(仮称)川越市森林公園などが比較的野鳥が見やすい場所です。

水辺の鳥

| No | 種名 | 科名 | 全長(cm) | 時期(月) | 鳴き声(聞きなし)、その他特徴 |
|----|--------|----|--------|-------|----------------------------------|
| 1 | ヨシガモ | カモ | 48 | 10~4 | 「ピュルルル」。♂は前頭が茶色で後頭は光沢緑色。容姿「よき鴨」。 |
| 2 | ヒドリガモ | カモ | 48 | 10~4 | 口笛に似た声で「ピュー、ピュー」。♂は頭が赤褐色で頭頂が黄土色。 |
| 3 | マガモ | カモ | 59 | 10~4 | 「グェッ、グェッ」とカルガモ似。♂は嘴が黄色、頭は光沢ある緑色。 |
| 4 | カルガモ | カモ | 61 | 通年 | 「グェッ、グェッ」と押しつぶれ声。雌雄ほぼ同色。嘴黒く先端黄色。 |
| 5 | ハシビロガモ | カモ | 50 | 10~4 | 「クェッ、クェッ」。♂♀とも嘴はへら型で、大きく目立つ。 |
| 6 | オナガガモ | カモ | 75 | 10~4 | 「ピュルッ、ピュルッ」。♂♀とも首と尾が長い。♂は首と胸が白色。 |
| 7 | コガモ | カモ | 37 | 9~4 | 「ピリッ、ピリッ」。♂は頭が赤褐色、眼の周りの後方は暗緑色の帯。 |
| 8 | ゴイサギ | サギ | 57 | 通年 | 頭と背は灰黒色。幼鳥は褐色で白斑があり、「ホシゴイ」と呼ばれる。 |
| 9 | アマサギ | サギ | 51 | 6~10 | 夏羽は、頭、首、背にかけ橙黄色の飾り羽が出る。嘴は、黄色で短い。 |
| 10 | アオサギ | サギ | 93 | 通年 | 日本のサギ類最大。体の上面は青灰色で、下面は白く、黒い縦筋あり。 |
| 11 | ダイサギ | サギ | 90 | 通年 | 嘴、首、足とも長い。足、指は黒い。嘴は夏は黒く、冬は黄色。 |
| 12 | チュウサギ | サギ | 69 | 6~10 | コサギより大きい。嘴は短い。夏、背と胸に飾り羽が出る。 |
| 13 | コサギ | サギ | 61 | 通年 | 嘴と足は周年黒い。足指は黄色。夏羽は、後頭に長い冠羽がある。 |



1 ヨシガモ ♂



5 ハシビロガモ ♂



10 アオサギ



11 ダイサギ



12 チュウサギ



13 コサギ

| No | 種名 | 科名 | 全長(cm) | 時期(月) | 鳴き声(聞きなし)、その他特徴 |
|----|---------|--------|--------|-------|----------------------------------|
| 14 | カイツブリ | カイツブリ | 26 | 通年 | 「ケレケレケレ」「キュルル」と響く声。警戒時「ピッ」。潜水名手。 |
| 15 | カワウ | ウ | 82 | 通年 | 太い声で「グワッ、グワッ」。潜水して魚をとる。群れで編隊を組む。 |
| 16 | バン | クイナ | 32 | 通年 | 「クルルッ」「キュルルッ」。体は黒く、嘴と顔が赤い。足は黄緑色。 |
| 17 | オオバン | クイナ | 39 | 通年 | 「キュン」「ケツ」「ピーー」。体黒く、嘴と顔は白い。足は緑青色。 |
| 18 | タゲリ | チドリ | 32 | 10~4 | 「ミュー、ミュー」と猫似の声。後頭に長い冠羽。体上面は緑黒色。 |
| 19 | コチドリ | チドリ | 16 | 通年 | 「ピョ、ピョ、ピュー、ピュー」。アイリング(眼の周り)が黄色。 |
| 20 | セイタカシギ | セイタカシギ | 37 | 通年 | 「ピユウー、ピユウー」。嘴は黒く、細長い。足もピンクで長い。 |
| 21 | イソシギ | シギ | 20 | 通年 | 「チーリーー」と甲高い声で鳴く。胸の白色が翼付け根に食い込む。 |
| 22 | ユリカモメ | カモメ | 40 | 10~5 | 「ギイー、ギイー」と騒々しい声。冬羽は頭が白く、眼の後方に黒斑。 |
| 23 | コアジサシ | カモメ | 25 | 4~9 | 「キリッ、キリッ」。夏羽は頭頂・後頭が黒い。嘴は黄色で先は黒色。 |
| 24 | カワセミ | カワセミ | 17 | 通年 | 水面を低く直線的に飛び「チー」。頭、背、翼、尾の上部は緑青色。 |
| 25 | オオヨシキリ | ヨシキリ | 18 | 5~9 | アシ原などで「ギョギョシ、ギョギョシ」と大口をあけて囀る。 |
| 26 | セッカ | セッカ | 13 | 5~9 | 上昇しながら「ヒッヒッ」、下降しながら「チャッチャツ」と鳴く。 |
| 27 | キセキレイ | セキレイ | 20 | 通年 | 「チチン、チチン」と尖った声。頭から上面は灰白色、腰は黄色。 |
| 28 | ハクセキレイ | セキレイ | 21 | 通年 | 「チュチュン、チュチュン、チチツ」。頬が白く、過眼線が黒い。 |
| 29 | セグロセキレイ | セキレイ | 21 | 通年 | 「ジジ、ジジッ」と濁る。頬が黒く、過眼線が白く、日本固有種。 |
| 30 | タヒバリ | セキレイ | 16 | 11~4 | 河原、畑地などで「チッチツ」「ピーピー」と鳴き、尾を上下に振る。 |



14 カイツブリ



17 オオバン



18 タゲリ



20 セイタカシギ



21 イソシギ



22 ユリカモメ



24 カワセミ



27 キセキレイ



29 セグロセキレイ

山野の鳥

| No | 種名 | 科名 | 全長(m) | 時期(月) | 鳴き声(聞きなし)、その他特徴 |
|----|---------|------|-------|-------|----------------------------------|
| 31 | キジ | キジ | ♂80 | 通年 | 「ケーン、ケーン」と大きく響く声。尾羽が長い。日本固有種で国鳥。 |
| 32 | コジュケイ | キジ | 27 | 通年 | 「ちよっと、来い」との聞きなし。頬から頸、胸は赤茶色。外来種。 |
| 33 | キジバト | ハト | 33 | 通年 | 「デデー、ポッポー」。体は灰褐色で、上面の羽毛が雉♀似。 |
| 34 | カッコウ | カッコウ | 35 | 5~9 | 「カッコー、カッコー」。頭から上面は灰色。モズなどに托卵。 |
| 35 | トビ | タカ | 64 | 通年 | 「ピーヒョロロ」。全体に茶褐色で翼と尾が長い。尾羽は凹尾。 |
| 36 | オオタカ | タカ | 54 | 通年 | 「ケッケツ」。上面は黒灰色で白い眉斑。下面は白く、黒色の横斑。 |
| 37 | ノスリ | タカ | 55 | 通年 | 「ピーエー」。翼は幅広で、下面の左右に黒斑。ホバリングする。 |
| 38 | コゲラ | キツツキ | 15 | 通年 | 「ギー、ギー」。背中は黒褐色と白色の縞模様。最小のキツツキ。 |
| 39 | アカゲラ | キツツキ | 23 | 10~4 | 「キョッ、キョッ」。頭から背中は黒色、下腹は赤い。♂後頭は赤い。 |
| 40 | アオゲラ | キツツキ | 29 | 通年 | 「ビョー、ビョー」「キョッ」。背や翼の上面が灰緑色。頭頂は赤い。 |
| 41 | チョウゲンボウ | ハヤブサ | 36 | 通年 | 「キッキッ」。頭は青灰色で背は褐色。翼、尾が長くホバリングする。 |
| 42 | カケス | カラス | 33 | 10~4 | 「ジェーイ、ジェーイ」とだみ声。ごま塩頭。翼に青と黒の斑模様。 |
| 43 | オナガ | カラス | 37 | 通年 | 「グェーイ、グェーイ」と濁り声。頭は黒く、翼と長い尾羽は淡青色。 |
| 44 | ハシボソガラス | カラス | 50 | 通年 | 濁った声で「ガーガー」と頭を振って鳴く。嘴細く、額は出っ張らず。 |
| 45 | ハシブトガラス | カラス | 57 | 通年 | 澄んだ声で「カーカー」と頭を前に出して鳴く。嘴太く、額出っ張る。 |



31 キジ ♂



35 トビ



36 オオタカ (若鳥)



38 コゲラ



40 アオゲラ



42 カケス

| No | 種名 | 科名 | 全長(cm) | 時期(月) | 鳴き声(聞きなし)、その他特徴 |
|----|--------|--------|--------|-------|-----------------------------------|
| 46 | モズ | モズ | 20 | 通年 | 秋に「キー、キチキチ」と高鳴き。♂は黒色の過眼線。背は青灰色。 |
| 47 | ヤマガラ | シジュウカラ | 14 | 通年 | 「ニー、ニー」。ゆっくり「ツツツービー」。背と下面は茶褐色。 |
| 48 | シジュウカラ | シジュウカラ | 14 | 通年 | 「ツツビー、ツツビー」「ジュク、ジュク」。公園、林や野原各所に。 |
| 49 | ヒバリ | ヒバリ | 17 | 通年 | 空高く舞い上がり「ピーチュク、ピーチュル、ピリユリ」。頭に冠羽。 |
| 50 | ツバメ | ツバメ | 17 | 4~10 | 「ピチュピチュピーー」など複雑。顔と喉は赤褐色。軒などに営巣。 |
| 51 | ヒヨドリ | ヒヨドリ | 27 | 通年 | 「ピーヨ、ピーヨ」と甲高い声。頭は灰色で毛がボサつき、尾は長い。 |
| 52 | ウグイス | ウグイス | 15 | 通年 | 「ホー、ホケキョッ」。地鳴きは「チャッ、チャッ」。藪に生息。 |
| 53 | エナガ | エナガ | 14 | 通年 | 「チーチー、ジュリジュリ」。丸い体に尾が長い。頭白く黒い過眼線。 |
| 54 | メジロ | メジロ | 12 | 通年 | 「チーチー」。 「チーチュルチュルル」など多彩。動きが速い。 |
| 55 | ガビチョウ | チメドリ | 25 | 通年 | 「ピーピーヨ」と騒がしく鳴き回る。外来種で近年生息数が増加。 |
| 56 | シロハラ | ヒタキ | 24 | 10~4 | 「ツイー」。頭部は♂灰褐色、♀褐色。背中ではこげ茶、下腹はうす茶。 |
| 57 | ツグミ | ヒタキ | 24 | 10~5 | 「クワッ、クワッ」「キョッ、キョッ」。地上を跳ね歩き餌を探す。 |
| 58 | ルリビタキ | ヒタキ | 14 | 10~4 | 「ピッピロピィピィ」「ヒッ、ヒッ」。♂の上面は青、下面は白。 |
| 59 | ジョウビタキ | ヒタキ | 14 | 10~4 | 「ヒッ、ヒッ」。♂の頭は灰白色、顔は黒色。胸は橙色。翼に白斑。 |
| 60 | キビタキ | ヒタキ | 14 | 4~10 | 「ピッピリー、ピーチュリー」など複雑。上面は黒く、下面は黄色。 |



46 モズ ♂



49 ヒバリ



53 エナガ



54 メジロ



56 シロハラ



57 ツグミ



58 ルリビタキ ♂



59 ジョウビタキ ♂



60 キビタキ ♂

| No | 種名 | 科名 | 全長(cm) | 時期(月) | 鳴き声(聞きなし)、その他特徴 |
|----|-------|------|--------|-------|----------------------------------|
| 61 | ムクドリ | ムクドリ | 24 | 通年 | 「ギョルギョル」と囀く。体は全体に灰黒色で、嘴と足がオレンジ色。 |
| 62 | スズメ | スズメ | 14 | 通年 | 「チュン、チュン」。頭部は茶色で頬は白く、黒斑あり。群れで行動。 |
| 63 | ピンズイ | セキレイ | 15 | 10~4 | 「ピンピン、ツイツイ」の鳴き声が鳥名由来。腰を振って林床を歩行。 |
| 64 | カワラヒワ | アトリ | 15 | 通年 | 「キリリ、コロロ」。頭は緑灰色、体は茶褐色。翼の黄色帯が目立つ。 |
| 65 | シメ | アトリ | 18 | 10~4 | 鋭い声で「ピチッ」「チチッ」。嘴が太い。目先と喉が黒く強面顔。 |
| 66 | イカル | アトリ | 23 | 通年 | 「キョキコーキー」と澄んだ響く声。頭と尾は黒い。嘴は黄色で太い。 |
| 67 | ホオジロ | ホオジロ | 16 | 通年 | 「一筆啓上仕り候」と聞きなし。地鳴き「チッ」。眉班と頬線が白い。 |
| 68 | アオジ | ホオジロ | 16 | 通年 | 「チョッピーチョ、ピーチョ」。藪で「ジッ」。上面褐色、下面黄色。 |

用語の説明

- さえずり：主に繁殖期に、♂が求愛のためやなわばりを主張して鳴く声。
- 地鳴き：さえずり以外で「チッ」「ヒッ」など短い単音で鳴く声。
- 聞きなし：鳥の声を、わかりやすい言葉や語句に置き換えて覚えやすくしたもの。
- 全長：鳥を仰向けに寝かせたときの、嘴の先から尾の先までの長さ。
- 過眼線：嘴の基部から目を横切る線。眉班（目の上の眉状の線）とともに顔の特徴付ける。
- 夏羽：繁殖期の羽衣で、一般的に冬羽（非繁殖期の地味な羽）に比べて鮮やか。
- ホバリング：翼を操って空中の一点にとどまる飛び方。カワセミやタカ類で目にする。
- 托卵：他の鳥の巣に産卵して、その仮親に育てさせる。カッコウ類の習性。
- 物差し鳥：鳥の大きさを見分ける基準の鳥。スズメ、ムクドリ、キジバト、ハシブトガラスの4種。
- 日本固有種：日本でのみ見られる鳥。セグロセキレイ、キジ、アオゲラ、アカコッコなど12種。



63 ピンズイ



64 カワラヒワ



66 イカル



67 ホオジロ



68 アオジ

コラム コチドリ三態

野鳥は、種によって独特の習性や生態が観察されます。下の写真は、市内の農地でのコチドリの様子です。

擬傷：雛や巣に外敵が迫ると、自分が傷ついたふりをしてその場所から離れ、敵の注意をそらします。

求愛：恋の季節、♂は扇形に尾羽を開くディスプレイで♀の歓心を買います。

家族：初夏に川原、畑地などに巣を作り、3～4個の卵を産み雛を育てます。



黄色のアイリングがチャームポイント



♂は♀に近寄って（求愛）



危ない！危ない！（擬傷）



雛は生後1～2ヵ月で巣立ち（家族）

コラム 伊佐沼の珍鳥

入間川、荒川に近い水田地帯の中に位置し、大きな自然沼である伊佐沼は、水鳥の貴重な休息地になっています。時おり珍鳥が飛来し話題になりますが、近年では、ヘラサギ（トキ科）、レンカク（レンカク科）が姿を見せ愛鳥家を楽しませました。



ヘラサギ



レンカク

1. 植物

植物は丁寧に調査すると数多くなりますが、ここでは在来種や希少種を100種ほど選んで紹介します。表中、①は〔(仮称)川越市森林公園〕計画地、②は池辺公園、③は水上公園、④は東洋大学川越キャンパスのデータです。

※備考欄の「絶滅ⅠB」は絶滅危惧種ⅠB (EN) を、「絶滅Ⅱ類」は絶滅危惧Ⅱ類 (VU) を、「準絶滅」は準絶滅危惧 (NT) を表します。(埼玉県カテゴリー)

| No | 種名 | 科 | 備考 | ① | ② | ③ | ④ |
|----|----------|---------|-----|---|---|---|---|
| 1 | アカマツ | マツ | | ● | | | ● |
| 2 | スギ | ヒノキ | | ● | | ● | ● |
| 3 | ヒノキ | ヒノキ | | ● | ● | ● | ● |
| 4 | ヒサカキ | モッコク | | ● | ● | | ● |
| 5 | シラカシ | フナ | | ● | ● | ● | ● |
| 6 | コナラ | フナ | | ● | ● | ● | ● |
| 7 | クヌギ | フナ | | ● | ● | ● | ● |
| 8 | エノキ | アサ | | ● | ● | ● | ● |
| 9 | ヤマザクラ | バラ | | ● | ● | ● | ● |
| 10 | ウワミズザクラ | バラ | | ● | ● | | ● |
| 11 | イヌザクラ | バラ | | ● | ● | ● | |
| 12 | アカシデ | カバノキ | | ● | | ● | ● |
| 13 | ハリエンジュ | マメ | | ● | ● | ● | ● |
| 14 | ウグイスカグラ | スイカズラ | | ● | | | ● |
| 15 | ムラサキシキブ | シソ | | ● | | | ● |
| 16 | ヤマコウバシ | クスノキ | | ● | | ● | ● |
| 17 | イボタノキ | モクセイ | | | ● | ● | ● |
| 18 | ゴンズイ | ミツバウツギ | | ● | | | ● |
| 19 | リョウブ | リョウブ | | ● | | | ● |
| 20 | オオハナウラビ | ハナヤスリ | | ● | | | |
| 21 | フユノハナウラビ | ハナヤスリ | | | | ● | |
| 22 | トウゲシバ | ヒカゲノカズラ | | ● | | | |
| 23 | アキノキリンソウ | キク | | ● | | | |
| 24 | ガンクビソウ | キク | | ● | | | ● |
| 25 | コウヤボウキ | キク | | ● | | | ● |
| 26 | シラヤマギク | キク | | ● | | | ● |
| 27 | センボンヤリ | キク | | ● | | | |
| 28 | ノコンギク | キク | | ● | | | |
| 29 | ヒヨドリバナ | キク | | ● | | | ● |
| 30 | ホウキギク | キク | | | | ● | |
| 31 | ヤクシソウ | キク | | ● | | | ● |
| 32 | オケラ | キク | | ● | | | |
| 33 | ヤブタバコ | キク | | ● | | | |
| 34 | ツリガネニンジン | キキョウ | | ● | | | |
| 35 | オトコエシ | スイカズラ | | ● | | | ● |
| 36 | ハエドクソウ | ハエドクソウ | | ● | | ● | ● |
| 37 | ハグロソウ | キツネノマゴ | 準絶滅 | | ● | ● | |
| 38 | クチナシグサ | ゴマノハグサ | 準絶滅 | ● | | | ● |
| 39 | ヒヨドリジョウゴ | ナス | | ● | | | ● |
| 40 | イヌコウジュ | シソ | | ● | | | ● |
| 41 | アキノタムラソウ | シソ | | ● | ● | ● | ● |
| 42 | ニガクサ | シソ | | | ● | | |
| 43 | ミソコウジュ | シソ | | | | ● | |
| 44 | ジュウニヒトエ | シソ | 希少種 | ● | | | |

| No | 種名 | 科 | 備考 | ① | ② | ③ | ④ |
|-----|-------------|---------|------|---|---|---|---|
| 45 | ハナイバナ | ムラサキ | | ● | | | ● |
| 46 | ガガイモ | ガガイモ | | ● | | | ● |
| 47 | リンドウ | リンドウ | 希少種 | ● | | | |
| 48 | センブリ | リンドウ | 絶滅Ⅱ類 | ● | | | |
| 49 | コナスビ | サクラソウ | | ● | ● | ● | ● |
| 50 | イチヤクソウ | イチヤクソウ | 希少種 | ● | | | |
| 51 | シャクジョウソウ | イチヤクソウ | 準絶滅 | ● | | | |
| 52 | アオイスミレ | スミレ | | ● | ● | | |
| 53 | スミレ | スミレ | | ● | ● | | |
| 54 | コスミレ | スミレ | | ● | ● | | ● |
| 55 | ツボスミレ | スミレ | | ● | ● | | ● |
| 56 | タチツボスミレ | スミレ | | ● | ● | ● | ● |
| 57 | ノジスミレ | スミレ | | ● | | ● | |
| 58 | ヒメスミレ | スミレ | | ● | | ● | |
| 59 | オトギリソウ | オトギリソウ | | ● | | | ● |
| 60 | マツカゼソウ | ミカン | | | ● | | |
| 61 | カワラケツメイ | マメ | | | | ● | |
| 62 | クサフジ | マメ | | ● | | | |
| 63 | キンミズヒキ | バラ | | ● | ● | ● | ● |
| 64 | ワレモコウ | バラ | 希少種 | | | ● | |
| 65 | ジロボウエンゴサク | ケシ | 希少種 | | | ● | ● |
| 66 | ヤマエンゴサク | ケシ | 希少種 | | | ● | |
| 67 | センニンソウ | キンポウゲ | | ● | ● | ● | |
| 68 | コボタンツル | キンポウゲ | | ● | ● | | ● |
| 69 | アキカラマツ | キンポウゲ | | | ● | ● | |
| 70 | イシミカワ | タデ | | ● | | ● | |
| 71 | ハナタデ | タデ | | ● | | ● | |
| 72 | ミズヒキ | タデ | | ● | ● | ● | ● |
| 73 | ウマノスズクサ | ウマノスズクサ | 希少種 | | | ● | |
| 74 | ヒトリシズカ | センリョウ | 希少種 | ● | | | |
| 75 | フタリシズカ | センリョウ | | ● | | ● | ● |
| 76 | シオデ | サルトリイバラ | | ● | ● | | ● |
| 77 | ノヤマトンボ | ラン | 準絶滅 | ● | | | |
| 78 | キンラン | ラン | 絶滅ⅠB | ● | | | ● |
| 79 | ギンラン (含ササバ) | ラン | 絶滅Ⅱ類 | ● | | | ● |
| 80 | クモキリソウ | ラン | 準絶滅 | ● | | | |
| 81 | シュンラン | ラン | 準絶滅 | ● | ● | | ● |
| 82 | サイハイラン | ラン | 準絶滅 | ● | | | |
| 83 | オニノヤガラ | ラン | 絶滅Ⅱ類 | ● | ● | | |
| 84 | キツネノカミソリ | ヒガンバナ | 準絶滅 | | ● | ● | |
| 85 | ヒガンバナ | ヒガンバナ | | ● | ● | ● | ● |
| 86 | ノビル | ヒガンバナ | | ● | ● | ● | ● |
| 87 | チゴユリ | イヌサフラン | | ● | | | |
| 88 | アマナ | ユリ | 準絶滅 | | ● | ● | |
| 89 | ウバユリ | ユリ | 希少種 | | ● | | |
| 90 | ヤマユリ | ユリ | 希少種 | ● | | | ● |
| 91 | ヤブラン | キジカクシ | | ● | ● | | ● |
| 92 | オオバジャノヒゲ | キジカクシ | | ● | ● | | ● |
| 93 | キチジョウソウ | キジカクシ | | ● | ● | | |
| 94 | オオバギボウシ | キジカクシ | | ● | ● | | |
| 95 | コバギボウシ | キジカクシ | | ● | ● | ● | ● |
| 96 | ジャノヒゲ | キジカクシ | | ● | ● | ● | ● |
| 97 | ツルボ | キジカクシ | | ● | ● | ● | ● |
| 98 | ノカンソウ | ツルボラン | | | ● | | |
| 99 | ヤブカンソウ | ツルボラン | | | ● | ● | ● |
| 100 | フトイ | カヤツリグサ | | | | ● | |

2. 昆虫

この昆虫のリストは「〔仮称〕川越市森林公園」計画地、福原地区の雑木林、水上公園、安比奈親水公園、寺尾調節池などで調査確認した種や観察会などで見つかった種を掲載しています。

須賀邦昭氏他数名の昆虫の専門家が「〔仮称〕川越市森林公園」計画地で、2012年から5年間にわたり調査採集した標本を譲り受けました。この提供されたリストも含まれています。須賀氏はコウチュウの専門家でしたので、標本367種のうち、230種余がコウチュウ目の種類でした。

540種ほどをリストアップしましたが、紙数の関係で科名は表示せず目レベルで表記しました。

| | | |
|------------------|----------------|-----------------|
| ハチ目 | 38 ハリプトシリアゲアリ | 7 カネタタキ |
| 1 アズマオオアリ | 39 ヒメスズメバチ | 8 カヤキリ |
| 2 アシナガバチ | 40 マイマイヒラタヒメバチ | 9 クサキリ |
| 3 アズマオオズアリ | 41 ミカドトックリバチ | 10 クビキリギス |
| 4 アメバチの1種 | 42 ムシヒキアブ | 11 クルマバツタ |
| 5 オオアメバチ | 43 モンスズメバチ | 12 クルマバツタモドキ |
| 6 オオクロアリ | 44 ヤマトキマダラハナバチ | 13 コバネイナゴ |
| 7 オオクロハバチ | 45 ヨツボシナガアリ | 14 ショウリョウバツタ |
| 8 オオズアリ | ハエ目 | 15 セスジツコムシ |
| 9 オオスズメバチ | 1 オオイシアブ | 16 ツチイナゴ |
| 10 オオツマグロハバチ | 2 キイロホソガガンボ | 17 ツコムシ |
| 11 オオナガキバチ | 3 クロアシボンケバエ | 18 トノサマバツタ |
| 12 オオハキリバチ | 4 シオヤアブ | 19 ハヤシノウマオイ |
| 13 オオフタオビドロバチ | 5 ショウジョウバエ | 20 ハラオカメコオロギ |
| 14 オオホシオナガバチ | 6 ニクバエ s p | 21 ハラヒシバツタ |
| 15 キアシナガバチ | 7 ハチモドキハナアブ | 22 ヒシバツタ |
| 16 キイロスズメバチ | 8 ホソヒラタアブ | 23 ヒシバツタの一種 |
| 17 クマバチ | 9 オオイシアブ | 24 ヒメギス |
| 18 クロオオアリ | 10 チャイロオオイシアブ | 25 マダラカマドウマ |
| 19 クロヒゲフシオナガヒメバチ | 11 ネグロミズアブ | 26 ヤブキリ |
| 20 クロヤマアリ | 12 マガリケムシヒキ | 27 ハラヒシバツタ |
| 21 コガタスズメバチ | 13 マダラメバエ | ラクダムシ目 |
| 22 コブフシヒメバチ | 14 メスアカケバエ | 1 ラクダムシ |
| 23 コンボウハバチ | 15 ルリミズアブ | アミメカゲロウ目 |
| 24 ジガバチ | ナナフシ目 | 1 アミメカゲロウ |
| 25 シロスジクチキヒメバチ | 1 エダナナフシ | 2 ウスバカゲロウ |
| 26 スズバチ | 2 トビナナフシ | 3 クサカゲロウ |
| 27 セイヨウミツバチ | 3 ナナフシ | 4 ヒメカマキリモドキ |
| 28 セグロアシナガバチ | 4 ヤスマットビナナフシ | チョウ目 |
| 29 チャイロハバチ | ヘビトンボ目 | 1 アオスジアゲハ |
| 30 テラニシシリアゲアリ | 1 ナミヘビトンボ | 2 アカシジミ |
| 31 トゲアリ | バタ目 | 3 アカタテハ |
| 32 トビイロケアリ | 1 アオマツムシ | 4 アカボシゴマダラ |
| 33 トビイロシワアリ | 2 アリツカコオロギ s p | 5 アサギマダラ |
| 34 ニホンミツバチ | 3 イボバツタ | 6 アサマイチモンジ |
| 35 ハバチ sp | 4 ウスイロササキリ | 7 アメリカシロヒトリ |
| 36 ハヤシケアリ | 5 エンマコオロギ | 8 イチモンジセセリ |
| 37 ハラナガツチバチ | 6 オンバツタ | 9 イチモンジチョウ |

| | |
|----|-------------|
| 10 | ウラギンシジミ |
| 11 | ウラギンヒョウモン |
| 12 | ウラゴマダラシジミ |
| 13 | ウラナミアカシジミ |
| 14 | ウラナミシジミ |
| 15 | オオスカシバ |
| 16 | オオチャバネセセリ |
| 17 | オナガアゲハ |
| 18 | カラスアゲハ |
| 19 | キアゲハ |
| 20 | キアシドクガ |
| 21 | キタキチョウ |
| 22 | キタテハ |
| 23 | キマダラセセリ |
| 24 | ギンイチモンジセセリ |
| 25 | クオアゲハ |
| 26 | クロコノマチョウ |
| 27 | コシロシタバ |
| 28 | コチャバネセセリ |
| 29 | ゴマダラチョウ |
| 30 | コムスジ |
| 31 | コムラサキ |
| 32 | サトキマダラヒカゲ |
| 33 | ジャコウアゲハ |
| 34 | ジャノメチョウ |
| 35 | スジグロシロチョウ |
| 36 | セスジスズメ |
| 37 | ダイミョウセセリ |
| 38 | チャバネセセリ |
| 39 | ツバメシジミ |
| 40 | ツマキチョウ |
| 41 | ツマグロヒョウモン |
| 42 | テングチョウ |
| 43 | トラフシジミ |
| 44 | ナガサキアゲハ |
| 45 | ナミアゲハ |
| 46 | ハスオビエダシャク |
| 47 | ヒオドシチョウ |
| 48 | ヒカゲチョウ |
| 49 | ヒメアカタテハ |
| 50 | ヒメウラナミジャノメ |
| 51 | ヒメキマダラセセリ |
| 52 | ヒメジャノメ |
| 53 | フクラスズメ |
| 54 | ヘニシジミ |
| 55 | ホンバセセリ |
| 56 | マイマイガ |
| 57 | マダラマルハヒロズコガ |
| 58 | マメキシタバ |
| 59 | ミスイロオナガシジミ |

| | |
|--------------|---------------|
| 60 | ミスジチョウ |
| 61 | ミドリヒョウモン |
| 62 | ミヤマセセリ |
| 63 | ムラサキシジミ |
| 64 | ムラサキツバメ |
| 65 | モンキアゲハ |
| 66 | モンキチョウ |
| 67 | モンシロチョウ |
| 68 | ヤマトシジミ |
| 69 | ヤマユ |
| 70 | ルリシジミ |
| 71 | ルリタテハ |
| トンボ目 | |
| 1 | アオモンイトトンボ |
| 2 | アオヤンマ |
| 3 | アキアカネ |
| 4 | アジアイトトンボ |
| 5 | ウスバキトンボ |
| 6 | ウチワヤンマ |
| 7 | オオシオカラトンボ |
| 8 | カトリヤンマ |
| 9 | ギンヤンマ |
| 10 | クロイトトンボ |
| 11 | コシアキトンボ |
| 12 | コノシメトンボ |
| 13 | コフキトンボ |
| 14 | コヤマトンボ |
| 15 | シオカラトンボ |
| 16 | シオヤトンボ |
| 17 | チョウトンボ |
| 18 | ナツアカネ |
| 19 | ノシメトンボ |
| 20 | ハグロトンボ |
| 21 | ハラビロトンボ |
| 22 | ヒメアカネ |
| 23 | マユタテアカネ |
| 24 | ミヤマアカネ |
| 25 | ミヤマサナエ |
| 26 | ルリボシヤンマ |
| カメムシ目 | |
| 1 | アオバハゴロモ |
| 2 | アカスジカメムシ |
| 3 | アカハネナガウンカ |
| 4 | アブラゼミ |
| 5 | アワダチソウウンバイ |
| 6 | エサキモンツクツノカメムシ |
| 7 | エビイロカメムシ |
| 8 | オオホシチビカスミカメムシ |
| 9 | オオモンシロナガカメムシ |
| 10 | キベリナガカスミカメムシ |

| | |
|---------------|---------------|
| 11 | キマダラカメムシ |
| 12 | クサギカメムシ |
| 13 | クモヘリカメムシ |
| 14 | クロスジアワフキ |
| 15 | コバネナガカメムシ |
| 16 | コミミズク |
| 17 | シナノキトビカスミカメムシ |
| 18 | シマサシガメ |
| 19 | ジュウジナガカメムシ |
| 20 | シロオビアワフキ |
| 21 | スケバハゴロモ |
| 22 | セアカツノカメムシ |
| 23 | チャイロカスミカメムシ |
| 24 | チャバネアオカメムシ |
| 25 | ツクツクボウシ |
| 26 | ツマグロオオヨコバイ |
| 27 | ツマグロヨコバイ |
| 28 | ツヤクロカスミカメムシ |
| 29 | トビイロオヒラタカメムシ |
| 30 | ニイニイゼミ |
| 31 | ハサミツノカメムシ |
| 32 | ヒグラシ |
| 33 | ヒメジュウジナガカメムシ |
| 34 | ヒメツチカメムシ |
| 35 | ヒメハサミツノカメムシ |
| 36 | ヒメホシカメムシ |
| 37 | ヒラタグンバイウンカ |
| 38 | フタボシヘリカメムシ |
| 39 | ベッコウハゴロモ |
| 40 | ヘリカメムシ |
| 41 | ホシハラビロヘリカメムシ |
| 42 | ホソアワフキ |
| 43 | ホソハリカメムシ |
| 44 | ミミズク |
| 45 | ミンミンゼミ |
| 46 | ムネアカアワフキ |
| 47 | ムラサキナガカメムシ |
| 48 | ヤサハナカメムシ |
| 49 | ヤスマツナガカメムシ |
| 50 | ヤナギウスバカスミカメムシ |
| 51 | ヨコヅナサシガメ |
| コウチュウ目 | |
| 1 | アオオサムシ |
| 2 | アオカナブン |
| 3 | アオカミキリモドキ |
| 4 | アオグロカミキリモドキ |
| 5 | アオグロナガタマムシ |
| 6 | アオドウガネ |
| 7 | アオバクチキムシ |
| 8 | アオヘリアオゴミムシ |

| | |
|----|----------------|
| 9 | アオマダラタムシ |
| 10 | アカアシオアオカミキリ |
| 11 | アカアシノミゾウムシ |
| 12 | アカアシハナコメツキ |
| 13 | アカガネサルハムシ |
| 14 | アカナガクチカクシゾウムシ |
| 15 | アカネセクチブトクイゾウムシ |
| 16 | アカハナカミキリ |
| 17 | アカバネツヤクチキムシ |
| 18 | アカハバヒロオオキノコ |
| 19 | アカハラクロコメツキ |
| 20 | アカハラケシキスイ |
| 21 | アカヒゲヒラタコメツキ |
| 22 | アカホソアリモドキ |
| 23 | アシナガオニゾウムシ |
| 24 | アトジロサビカミキリ |
| 25 | アトボシハムシ |
| 26 | アトモンケシカミキリ |
| 27 | イクビホソアトキリゴミムシ |
| 28 | イチモンジカメノコハムシ |
| 29 | ウグイスナガタムシ |
| 30 | ウスイロクチキムシ |
| 31 | ウスオビキノコケシキスイ |
| 32 | ウスキホシテントウ |
| 33 | ウスバカミキリ |
| 34 | ウスバキスイ |
| 35 | ウスバツマキジョウカイ |
| 36 | ウバタムシ |
| 37 | ウバタマコメツキ |
| 38 | ウリハムシ |
| 39 | エグリコブヒゲナガゾウムシ |
| 40 | エグリゴミムシダマシ |
| 41 | エグリトラカミキリ |
| 42 | エゴシギゾウムシ |
| 43 | エゴツルクビオトシブミ |
| 44 | エゴヒゲナガゾウムシ |
| 45 | エリザハンミョウ |
| 46 | オオアトボシアオゴミムシ |
| 47 | オオウグイスナガタムシ |
| 48 | オオクシヒゲコメツキ |
| 49 | オオクチキムシ |
| 50 | オオクロクシコメツキ |
| 51 | オオクロコガネ |
| 52 | オオサビコメツキ |
| 53 | オオスナゴミムシダマシ |
| 54 | オオナガコメツキ |
| 55 | オオハナコメツキ |
| 56 | オオヒラタゴミムシ |
| 57 | オオヒラタシデムシ |
| 58 | オビアカサルゾウムシ |

| | |
|-----|----------------|
| 59 | カオジロヒゲナガゾウムシ |
| 60 | カシルリオトシブミ |
| 61 | カシワクチブトゾウムシ |
| 62 | カシワノミゾウムシ |
| 63 | カタシロゴマフカミキリ |
| 64 | カタモンオオキノコ |
| 65 | カドムネチビヒラタムシ |
| 66 | カナブン |
| 67 | カブトムシ |
| 68 | ガロアケシカミキリ |
| 69 | ガロアノミゾウムシ |
| 70 | キイチゴトゲサルゾウムシ |
| 71 | キイロテントウ |
| 72 | キイロトラカミキリ |
| 73 | キスジコガネ |
| 74 | キスジトラカミキリ |
| 75 | キノコヒゲナガゾウムシ |
| 76 | キバネカミキリモドキ |
| 77 | キベリクビボソハムシ |
| 78 | キボシカミキリ |
| 79 | キマダラカミキリ |
| 80 | キマダラヒゲナガゾウムシ |
| 81 | キマダラミヤマカミキリ |
| 82 | キマワリ |
| 83 | キムネマルハナノミ |
| 84 | クシコメツキ |
| 85 | クズノチビタムシ |
| 86 | クチキムシ |
| 87 | クチブトコメツキ |
| 88 | クチブトチョッキリ |
| 89 | クビアカトラカミキリ |
| 90 | グミチョッキリ |
| 91 | クモガタケシカミキリ |
| 92 | クリイロチビキカワムシ |
| 93 | クロウリハムシ |
| 94 | クロカナブン |
| 95 | クロガネハネカクシ |
| 96 | クロカミキリ |
| 97 | クロキマダラケシキスイ |
| 98 | クロキマワリ |
| 99 | クロコガネ |
| 100 | クロツヤキノコゴミムシダマシ |
| 101 | クロツヤテントウ |
| 102 | クロナガオサムシ |
| 103 | クロナガタムシ |
| 104 | クロノミゾウムシ |
| 105 | クロハナコメツキ |
| 106 | クロハナムグリ |
| 107 | クロヒメクビボソジョウカイ |
| 108 | クロフナガタハナノミ |

| | |
|-----|----------------|
| 109 | クロヘリアトキリゴミムシ |
| 110 | クロヘリヒラタケシキスイ |
| 111 | クロボシツツハムシ |
| 112 | クロホソナガクチキムシ |
| 113 | クロマルエンガコガネ |
| 114 | クワカミキリ |
| 115 | クワハムシ |
| 116 | ケシカミキリ |
| 117 | ケシジョウカイモドキ |
| 118 | ケブカホソクチゾウムシ |
| 119 | コアオハナムグリ |
| 120 | コアオマルガタゴミムシ |
| 121 | コイチャコガネ |
| 122 | コウソチビタムシ |
| 123 | コエンマムシ |
| 124 | コガタクシコメツキ |
| 125 | コカブトムシ |
| 126 | コクロシデムシ |
| 127 | ククロハナボタル |
| 128 | ククロハナボタル |
| 129 | ククロヒメテントウ |
| 130 | ククワガタ |
| 131 | クゲチャセマルケシキスイ |
| 132 | コゴモクムシ |
| 133 | コササコクゾウムシ |
| 134 | コバネカミキリ |
| 135 | コハンミョウ |
| 136 | コフキコガネ |
| 137 | コフトナゴコメツキ |
| 138 | コフナガタハナノミ |
| 139 | コブハナゾウムシ |
| 140 | コブマルエンマコガネ |
| 141 | ゴマダラカミキリ |
| 142 | コマルノミハムシ |
| 143 | コモンヒメヒゲナガゾウムシ |
| 144 | コヨツボシアトキリゴミムシ |
| 145 | コヨツボシケシキスイ |
| 146 | コルベヨツコブゴミムシダマシ |
| 147 | サクラコガネ |
| 148 | サビキコリ |
| 149 | シナノクロフカミキリ |
| 150 | シモフリコメツキ |
| 151 | ジュウジアトキリゴミムシ |
| 152 | ジュウジチビシギゾウムシ |
| 153 | シロテンハナムグリ |
| 154 | ジンガサハムシ |
| 155 | スグリゾウムシ |
| 156 | スジアオゴミムシ |
| 157 | スジコガネ |
| 158 | スネアカヒゲナガゾウムシ |

| | |
|-----|----------------|
| 159 | セアカヒラタゴミムシ |
| 160 | セスジデオキスイ |
| 161 | セスジナガキマワリ |
| 162 | セボシジョウカイ |
| 163 | セミスジコブヒゲカミキリ |
| 164 | センチコガネ |
| 165 | ダイコンサルゾウムシ |
| 166 | タケトラカミキリ |
| 167 | タマムシ |
| 168 | ダンダラチブタマムシ |
| 169 | チビアオゾウムシ |
| 170 | チビカサハラハムシ |
| 171 | チビカサハラムシ |
| 172 | チビゴモクムシ s p |
| 173 | チビザクラコガネ |
| 174 | チビホソナガクチキムシ |
| 175 | チャイロヒメハナモミ |
| 176 | チャバネツヤハムシ |
| 177 | ツツゾウムシ |
| 178 | ツヤエンマコガネ |
| 179 | ツヤケシホソカタムシ |
| 180 | ツヤチビキカワムシ |
| 181 | ツヤナガヒラタホソカタムシ |
| 182 | ドウガネブイブイ |
| 183 | トウキョウヒメハナムシ |
| 184 | トウキョウムネピロオオキノコ |
| 185 | トゲバカミキリ |
| 186 | トゲハラヒラセクモゾウムシ |
| 187 | トゲヒゲトラカミキリ |
| 188 | トビイロクチキムシ |
| 189 | トビイロクチキムシ |
| 190 | トビサルハムシ |
| 191 | ナアカカヒゲフトハネカクシ |
| 192 | ナガコゲチャケシキスイ |
| 193 | ナガゴマフカミキリ |
| 194 | ナガサビキコリ |
| 195 | ナカジロサビカミキリ |
| 196 | ナガニジスミムシシダマシ |
| 197 | ナカネナガタマムシ |
| 198 | ナナホシテントウ |
| 199 | ナミテントウ |
| 200 | ナミモンコケシキスイ |
| 201 | ニイジマチビカミキリ |
| 202 | ニセクチプトコメツキ |
| 203 | ニセミツモンセマルヒラタムシ |
| 204 | ニホンヒメミノコメツキダマシ |
| 205 | ネジキトゲムネサルゾウムシ |
| 206 | ノコギリカミキリ |
| 207 | ノコギリクワガタ |
| 208 | ハギキノコゴミムシ |

| | |
|-----|-----------------|
| 209 | ハネナガヒラタケシキスイ |
| 210 | ハムシダマシ |
| 211 | バラルリツツハムシ |
| 212 | ハロルドヒメコクヌスト |
| 213 | ハンノヒメコガネ |
| 214 | ヒゲナガコメツキ |
| 215 | ヒゲフトハナムグリ |
| 216 | ヒゲフトハネカクシ |
| 217 | ヒゲフトハムシダマシ |
| 218 | ヒサゴクチカクシゾウムシ |
| 219 | ヒサゴホソカタムシ |
| 220 | ヒシカミキリ |
| 221 | ヒシモンナガタマムシ |
| 222 | ヒトオビアラゲカミキリ |
| 223 | ヒメアカホシテントウ |
| 224 | ヒメエンマムシ |
| 225 | ヒメオビオオキノコ |
| 226 | ヒメカメノコテントウ |
| 227 | ヒメキマワリ |
| 228 | ヒメクロオトシブミ |
| 229 | ヒメクロコメツキ |
| 230 | ヒメクロトラカミキリ |
| 231 | ヒメコガネ |
| 232 | ヒメスギカミキリ |
| 233 | ヒメトラハナムグリ |
| 234 | ヒメナガエンマムシ |
| 235 | ヒメヒゲナガカミキリ |
| 236 | ヒメルリハナカミキリ |
| 237 | ヒラタアオコガネ |
| 238 | ヒラタクワガタ |
| 239 | ヒラタハナムグリ |
| 240 | ヒラツノキノコゴミムシシダマシ |
| 241 | ヒレルコキノコムシ |
| 242 | ヒレルホソクチゾウムシ |
| 243 | ピロウドホソナガクチキムシ |
| 244 | フタホシテントウ |
| 245 | フタモンクロテントウ |
| 246 | フチトリヒメヒラタ |
| 247 | ブドウハマキチョッキリ |
| 248 | フトナガニジゴミムシシダマシ |
| 249 | フナガタクチキムシ |
| 250 | ベニカミキリ |
| 251 | ベニナガタマムシ |
| 252 | ベニバハナカミキリ |
| 253 | ベニモンキノコゴミムシシダマシ |
| 254 | ベニモンツヤミジンムシ |
| 255 | ヘリアカバコガシラハネカクシ |
| 256 | ホソアシナガタマムシ |
| 257 | ホソアトキリゴミムシ |
| 258 | ホソクビアリモドキ |

| | |
|-----|---------------|
| 259 | ホソサビキコリ |
| 260 | ホソヒメカタゾウムシ |
| 261 | ホソマダラホソカタムシ |
| 262 | ホソマダラホソヒラタムシ |
| 263 | マエキミジンムシ |
| 264 | マズダクロホシタマムシ |
| 265 | マダラアラゲサルハムシ |
| 266 | マダラチビコメツキ |
| 267 | マツクチフトクイゾウムシ |
| 268 | マツノキイムシ |
| 269 | マメコガネ |
| 270 | マルガタゴミムシ |
| 271 | マルガタツヤヒラタゴミムシ |
| 272 | マルキマダラケシキスイ |
| 273 | マルクビケマダラカミキリ |
| 274 | マルヒメゴモクムシ |
| 275 | マルムネチョッキリ |
| 276 | ミツモンセマルヒラタムシ |
| 277 | ミヤマカミキリ |
| 278 | ムーアシロホシテントウ |
| 279 | ムシクソハムシ |
| 280 | ムナビロアカハナムシ |
| 281 | ムネアカチビナカボン |
| 282 | ムネアカナガタマムシ |
| 283 | メダカチビカワゴミムシ |
| 284 | ヤツボシハナカミキリ |
| 285 | ヤツボシハムシ |
| 286 | ヤノシギゾウムシ |
| 287 | ヤノナミガタクビタマムシ |
| 288 | ヤハズカミキリ |
| 289 | ヤマイモハムシ |
| 290 | ヤマトタマムシ |
| 291 | ヤマトデオキノコムシ |
| 292 | ユアサハナゾウムシ |
| 293 | ヨツコブゴミムシシダマシ |
| 294 | ヨツスジハナカミキリ |
| 295 | ヨツボシオオキスイ |
| 296 | ヨツボシケシキスイ |
| 297 | ヨツボシチビヒラタカミキリ |
| 298 | ヨツボシテントウ |
| 299 | ヨツモンクワツツハムシ |
| 300 | ヨリトモナガゴミムシ |
| 301 | ラミーカミキリ |
| 302 | ルイスコオニケシキスイ |
| 303 | ルリオオキノコ |
| 304 | ルリカミキリ |
| 305 | ルリゴミムシシダマシ |
| 306 | ルリマルノミハムシ |
| 307 | ロニノナガタマムシ |

3. 野鳥観察記録

- 場所及び詳細：① 伊佐沼：2012年度～2019年度、8年間の探鳥会での種別観察回数
 ② (仮称)川越森林公園計画地：2010年～2020年間の自由観察での種別観察回数
 ③ 川越水上公園：2009年～2013年間の観察会によるもので種名のみを表したもの

| No | 種名 | 科 | ① | ② | ③ |
|----|-----------|-------|----|----|---|
| 1 | コジュケイ | キジ | | 2 | ○ |
| 2 | キジ | キジ | | 2 | ○ |
| 3 | オオハクチョウ | カモ | 1 | | |
| 4 | オシドリ | カモ | | | ○ |
| 5 | オカヨシガモ | カモ | | | ○ |
| 6 | ヒドリガモ | カモ | 34 | | ○ |
| 7 | アメリカヒドリ | カモ | 2 | | ○ |
| 8 | マガモ | カモ | 15 | | ○ |
| 9 | カルガモ | カモ | 79 | | ○ |
| 10 | ハシビロガモ | カモ | 27 | | ○ |
| 11 | オナガガモ | カモ | 4 | | ○ |
| 12 | コガモ | カモ | 52 | | ○ |
| 13 | アメリカコガモ | カモ | 2 | | |
| 14 | ホシハジロ | カモ | 19 | | ○ |
| 15 | キンクロハジロ | カモ | 7 | | ○ |
| 16 | スズガモ | カモ | 2 | | |
| 17 | ホオジロガモ | カモ | 1 | | |
| 18 | ミコアイサ | カモ | 1 | | ○ |
| 19 | ウミアイサ | カモ | 1 | | |
| 20 | カイツブリ | カイツブリ | 66 | | ○ |
| 21 | カンムリカイツブリ | カイツブリ | 5 | | ○ |
| 22 | カラバト(ドバト) | ハト | | | ○ |
| 23 | キジバト | ハト | 46 | 11 | ○ |
| 24 | シラコバト | ハト | 10 | | |
| 25 | カワウ | ウ | 75 | | ○ |
| 26 | ゴイサギ | サギ | 5 | | |
| 27 | ササゴイ | サギ | 1 | | ○ |
| 28 | アマサギ | サギ | 7 | | |
| 29 | アオサギ | サギ | 59 | | ○ |
| 30 | ダイサギ | サギ | 58 | | ○ |
| 31 | チュウサギ | サギ | 11 | | |
| 32 | コサギ | サギ | 48 | | ○ |

| No | 種名 | 科 | ① | ② | ③ |
|----|-----------|--------|----|---|---|
| 33 | ヘラサギ | トキ | 3 | | |
| 34 | クイナ | クイナ | | | ○ |
| 35 | バン | クイナ | 10 | | ○ |
| 36 | オオバン | クイナ | 6 | | ○ |
| 37 | ホトトギス | カッコウ | | | ○ |
| 38 | ツツドリ | カッコウ | | | ○ |
| 39 | カッコウ | カッコウ | | 2 | ○ |
| 40 | タゲリ | チドリ | | | ○ |
| 41 | ケリ | チドリ | 1 | | |
| 42 | ムナグロ | チドリ | 3 | | |
| 43 | イカルチドリ | チドリ | 7 | | ○ |
| 44 | コチドリ | チドリ | 39 | 4 | ○ |
| 45 | シロチドリ | チドリ | 3 | | |
| 46 | セイタカシギ | セイタカシギ | 27 | | |
| 47 | タシギ | シギ | 3 | | ○ |
| 48 | オオハシシギ | シギ | 2 | | |
| 49 | オグロシギ | シギ | 1 | | |
| 50 | ツルシギ | シギ | 4 | | |
| 51 | コアオアシシギ | シギ | 1 | | |
| 52 | アオアシシギ | シギ | 9 | | |
| 53 | クサシギ | シギ | | | ○ |
| 54 | キアシシギ | シギ | 1 | | ○ |
| 55 | イソシギ | シギ | 48 | | ○ |
| 56 | トウネン | シギ | 3 | | |
| 57 | ヨーロッパトウネン | シギ | 1 | | |
| 58 | オジロトウネン | シギ | 1 | | |
| 59 | オジロトウネン | シギ | 1 | | |
| 60 | ハマシギ | シギ | 11 | | |
| 61 | ユリカモメ | カモメ | 20 | | ○ |
| 62 | ウミネコ | カモメ | | | ○ |
| 63 | カナダカモメ | カモメ | | | ○ |
| 64 | セグロカモメ | カモメ | 17 | | |

| No | 種名 | 科 | ① | ② | ③ |
|-----|----------|---------|----|----|---|
| 65 | コアジサシ | カモメ | 21 | | ○ |
| 66 | アジサシ | カモメ | 3 | | |
| 67 | クロハラアジサシ | カモメ | 5 | | |
| 68 | ミスゴ | ミスゴ | 1 | | ○ |
| 69 | トビ | タカ | 13 | | ○ |
| 70 | ツミ | タカ | | 3 | ○ |
| 71 | ハイタカ | タカ | | | ○ |
| 72 | オオタカ | タカ | 4 | 11 | ○ |
| 73 | ノスリ | タカ | | 1 | ○ |
| 74 | カワセミ | カワセミ | 52 | | ○ |
| 75 | アリスイ | キツツキ | | | ○ |
| 76 | コゲラ | キツツキ | 30 | 11 | ○ |
| 77 | アカゲラ | キツツキ | | 3 | ○ |
| 78 | アオゲラ | キツツキ | | 4 | ○ |
| 79 | チョウゲンボウ | ハヤブサ | 9 | | ○ |
| 80 | ハヤブサ | ハヤブサ | 1 | | ○ |
| 81 | サンショウクイ | サンショウクイ | 1 | | |
| 82 | サンコウチョウ | カササギヒタキ | | | ○ |
| 83 | モズ | モズ | 30 | 10 | ○ |
| 84 | カケス | カラス | | 3 | ○ |
| 85 | オナガ | カラス | 2 | 7 | ○ |
| 86 | ハシボソガラス | カラス | 67 | 11 | ○ |
| 87 | ハシブトガラス | カラス | 31 | 11 | ○ |
| 88 | クイタダキ | クイタダキ | | | ○ |
| 89 | ヤマガラ | シジュウカラ | | 9 | ○ |
| 90 | ヒガラ | シジュウカラ | | | ○ |
| 91 | シジュウカラ | シジュウカラ | 53 | 11 | ○ |
| 92 | ガビチョウ | チメドリ | | | ○ |
| 93 | ヒバリ | ヒバリ | 21 | 11 | ○ |
| 94 | ショウドウツバメ | ツバメ | | | |
| 95 | ツバメ | ツバメ | 35 | 11 | ○ |
| 96 | イワツバメ | ツバメ | 1 | | ○ |
| 97 | ヒヨドリ | ヒヨドリ | 47 | 11 | ○ |
| 98 | ウグイス | ウグイス | 3 | 2 | ○ |
| 99 | エナガ | エナガ | | 5 | ○ |
| 100 | エソムシクイ | ムシクイ | | 3 | |
| 101 | センダイムシクイ | ムシクイ | | 3 | ○ |

| No | 種名 | 科 | ① | ② | ③ |
|-----|---------|-------|----|----|---|
| 102 | メジロ | メジロ | 20 | 11 | ○ |
| 103 | オオヨシキリ | ヨシキリ | 13 | | ○ |
| 104 | セッカ | セッカ | 18 | | ○ |
| 105 | ヒレンジャク | レンジャク | | | ○ |
| 106 | ムクドリ | ムクドリ | 49 | 11 | ○ |
| 107 | コムクドリ | ムクドリ | | | ○ |
| 108 | トラツグミ | ヒタキ | | 3 | ○ |
| 109 | シロハラ | ヒタキ | | 11 | |
| 110 | アカハラ | ヒタキ | | 2 | ○ |
| 111 | ツグミ | ヒタキ | 23 | 11 | ○ |
| 112 | ルリビタキ | ヒタキ | | 11 | |
| 113 | ジョウビタキ | ヒタキ | 9 | 4 | ○ |
| 114 | エソビタキ | ヒタキ | | | ○ |
| 115 | コサメビタキ | ヒタキ | | | ○ |
| 116 | キビタキ | ヒタキ | | 11 | ○ |
| 117 | オオルリ | ヒタキ | | | ○ |
| 118 | スズメ | スズメ | 72 | 12 | ○ |
| 119 | キセキレイ | セキレイ | 9 | 1 | ○ |
| 120 | ハクセキレイ | セキレイ | 68 | 4 | ○ |
| 121 | セグロセキレイ | セキレイ | 8 | | ○ |
| 122 | ピンズイ | セキレイ | | 5 | ○ |
| 123 | タヒバリ | セキレイ | 10 | | ○ |
| 124 | アトリ | アトリ | 1 | 2 | ○ |
| 125 | カワラヒワ | アトリ | 47 | 11 | ○ |
| 126 | ベニマシコ | アトリ | | | ○ |
| 127 | オオマシコ | アトリ | | | ○ |
| 128 | ウソ | アトリ | 1 | | ○ |
| 129 | シメ | アトリ | 11 | 7 | ○ |
| 130 | コイカル | アトリ | | | ○ |
| 131 | イカル | アトリ | | | ○ |
| 132 | ホオジロ | ホオジロ | 4 | 6 | ○ |
| 133 | ホオアカ | ホオジロ | | | ○ |
| 134 | カシラダカ | ホオジロ | 5 | 4 | ○ |
| 135 | ミヤマホオジロ | ホオジロ | | | ○ |
| 136 | アオジ | ホオジロ | 10 | 4 | ○ |
| 137 | コジュリン | ホオジロ | | | ○ |
| 138 | オオジュリン | ホオジロ | 2 | | ○ |

組織の主なできごと

- 2000年8月5日 かわごえ環境ネット設立 会員数76（個人36、団体40）
- 2002年6月1日 総会において投票によりシンボルマーク制定
- 2008年10月8日 「地球温暖化対策地域協議会」として環境省に登録
- 2011年4月20日 「第12回さいたま環境賞」（現在の「彩の国埼玉環境大賞」）の「県民部門」を受賞（同年7月28日にテレ玉の番組に出演）
- 2014年6月7日 日本水環境学会関東支部「水環境保全活動奨励賞」を受賞
このときの賞金を原資として、同年より川越市が主催する環境月間ポスターコンクールにおいて「環境ネット賞」を設け、小中学生の作品を表彰
- 2016年11月11日 公益財団法人都市緑化機構主催、第一生命保険株式会社特別協賛による第36回「緑の都市賞」市民協働部門 奨励賞を、自然環境部会の「〔仮称〕川越市森林公園計画地」調査・保全活動として受賞
- 2020年12月16日現在 会員数192（個人142、団体50）

主な主催事業

- 2002年11月～2003年3月 埼玉県のリスクコミュニケーションモデル事業を実施
対象事業者は東洋インキ製造(株)と和光純薬工業(株)
- 2003年2月1日 第1回かわごえ環境フォーラムを開催 以来、毎年2月か3月に開催し、2021年に第19回を開催（第18回は新型コロナウイルスの影響により中止）
- 2003年12月23日 現在「歳末まち美化活動」と称しているクリーン活動の第1回を開催 毎年12月下旬に開催し、2020年12月で18回目を開催（雨天等で中止の回あり）
- 2005年6月5日 「身近な水環境の全国一斉調査」実施の流域団体に協力する形で川越市内の「川の一斉水質調査」を実施 以降、2020年まで16回実施
- 2005年8月26日～2007年12月10日 「〔仮称〕川越市環境基本条例の制定に関する勉強会・検討会」「川越市環境基本計画の見直しに関する勉強会・検討会」「〔仮称〕かわごえアジェンダ21検討委員会」「〔仮称〕環境行動計画『かわごえアジェンダ21』作成委員会」を計40回開催し、川越市が策定した「川越市環境行動計画『かわごえアジェンダ21』（平成20年1月）」の作成に協力
- 2007年7月22日 伊佐沼周辺の「郊外クリーン活動」を実施（当初は社会環境部会主催事業）その後、川越市民聖苑やすらぎのさつや川越警察署の周辺に活動場所を移して現在まで毎年7月に実施

- 2008年2月24日 「第6回かわごえ環境フォーラム」において、午後に川越市との共催による「かわごえアジェンダ21記念講演会」を開催
- 2008年11月～2009年2月 早稲田大学村山研究室と共催で「環境リスクを考える川越フォーラム」を実施
- 2011年2月19日 設立10周年記念事業として第9回かわごえ環境フォーラム「すみたい街 かわごえカフェ～みんなで語ろう環境・福祉・観光など～」を開催 この準備として2010年6月から同年12月まで「小江戸のエコを語り合うワールド・カフェ・サロン」を6回開催 かわごえ環境フォーラムにおける「かわごえカフェ」は以降、2015・2016・2018年に開催
- 2012年6月16・17日 つばさ館において「環境月間 環境啓発展」を開催 翌年の2013年6月にも開催
- 2014年4月～2017年1月 「第二次川越市環境基本計画・かわごえアジェンダ21見直し勉強会」「新かわごえアジェンダ21検討会」「(仮称)かわごえアジェンダ21作成委員会」を計34回開催し、川越市が2018年2月に策定した「川越市環境行動計画」の作成に協力
- 2014年10月24日・2015年3月10・17日 特定非営利活動法人地域医療・福祉サービス協議会と共催で「地域情報アドバイザー」育成講座・実践講座を開催
- 2016年10月15・16日 「川越まつり会場クリーン活動」を2006年から実施してきたクリーン&ハートフル川越から主催を引き継いで実施 以降、毎年川越まつりに合わせて実施 2020年10月17日は川越まつりが中止となったため「秋のクリーン活動」として実施
- 2017年2月25日 ウェスタ川越で開催した第15回かわごえ環境フォーラムの午後の部として「川越市環境行動計画策定記念講演会」を実施
- 2019年5月12日 「春の里山 自然観察&クリーン活動」を(仮称)川越市森林公園計画地で実施 本年以降、年4回のクリーン活動を本会主催で実施

出版事業

- 2003年2月1日 「第1回かわごえ環境フォーラム」において「かわごえ環境活動報告集」発行 以降、かわごえ環境フォーラムに合わせて毎年発行（行事中止となった第18回においても発行）
- 2011年5月21日 設立10周年記念出版「川越の自然」発行（財団法人日野自動車グリーンファンド助成）発行部数は2500部
- 2018年2月25日 「川越の自然を訪ねて きのご編」発行（公益財団法人サイサン環境保全基金助成）発行部数は1500部
- 2021年2月27日 設立20周年記念出版「川越の自然（新訂版）」発行（公益財団法人サイサン環境保全基金助成）発行部数は3000部（初版）

主な事業出展・協力・活動支援

- 2001年9月22日 第3回となる「アースデイ・イン・川越2001」に出展 以降、出展や事業への後援・協力を継続的に実施 2020年10月4・11日には第22回となる「2020アースデイ川越 in 昭和の街」にオンライン出展
- 2001年10月27日 第1回「北公民館かんきょう祭り」に参加 以降、毎年継続的に出展や事業の後援、協力を実施（2020年は中止）
- 2003年以降 学校への自然学習支援活動を実施：高階西小学校（2003・2004年）、仙波小学校（2004年）、霞ヶ関西中学校（2007・2008・2012・2016年）、上戸小学校（2011～2017年）、高階北小学校（2011～2019年）、今成小学校（2016～2019年）、霞ヶ関西小学校（2017・2018年） その他の環境学習支援として、中央小学校でのポイ捨てごみ拾いの実際の経験の講演（2007年）、砂中学校での「環境講座」（2010年）、福原中学校家庭教育学級「防災カフェ」（2014年）を実施
- 2007年1～12月 川越ケーブルテレビ制作の「われら環境ネット」放映に協力
- 2007～2017年 川越百万灯夏まつり「小江戸川越打ち水風情」に協力
- 2010年3月13日 川越中心市街地で開催された「第9回環境まちづくりフォーラム・埼玉」に協力
- 2015～2019年度 ウェスタ川越の環境講座企画運営に協力
- 2019年12月14日 東洋大学川越キャンパスで開催された「第1回SDGsエコフォーラム in 埼玉」に後援・協力

広報委員会

- 2000年12月3日 季刊「かわごえ環境ネット会員通信」創刊 2006年7月1日までに23号発行
- 2001年2月3日 「広報委員会」を設置
- 2001年9月1日 インターネットホームページ開設
- 2003年7月 「かわごえ環境ネットメールニュース」を発行 2006年10月までに50号発行
- 2004年3月1日 ホームページリニューアル（ブログ形式のシステムを導入）「kawagoekankyo.net」のドメインを取得
- 2006年10月20日 「月刊かわごえ環境ネット」を創刊 2021年2月までに172号を発行
- 2009年2月 入会案内パンフレットを作成 2019年12月に新訂版作成
- 2011年4月 Twitterアカウントを開設
- 2012年9月 本会のPRパネル5枚を作成（以降適宜更新）

| | |
|-------------|--------------------------|
| 2012年11月 | Facebookページを開設 |
| 2013年5月 | ホームページリニューアル（スマートフォン対応） |
| 2018年10月31日 | ホームページをHTTPS化してセキュリティを向上 |
| 2018年11月 | 「会員限定メールサービス」を開始 |
| 2018年12月 | Instagramアカウント開設 |
| 2020年9月 | YouTubeチャンネル開設 |

社会環境部会

| | |
|-------------|---|
| 2001年1月28日 | 「社会環境グループ」設置 |
| 2001年12月1日 | 「社会環境推進委員会」発足 |
| 2004年3月 | 「社会環境部会」に改称 |
| 2010年11月14日 | 「エコドライブ教習会」を川越市環境政策課との共催で開催以降、2014年まで同名称、2015年から2019年までエコドライブシミュレータによる「エコドライブ普及推進活動」を開催 |
| 2013～2019年 | 「緑のカーテン苗配布」「緑のカーテン講座」「パッションフルーツ挿し木育苗講習会」などの緑のカーテン普及事業を実施 |

自然環境部会

| | |
|------------------|---|
| 2001年1月28日 | 「自然環境グループ」設置 |
| 2002年5月16日 | 「自然環境委員会」発足 |
| 2004年3月 | 「自然環境部会」に改称 |
| 2003年4月27日 | （仮称）川越市森林公園計画提案のためのフィールドワークを開催以降、同地における観察会や調査・保全活動を実施 |
| 2004年6月～2007年10月 | 仙波河岸史跡公園において自然観察会と保全活動を実施 |
| 2008年6月～現在 | 池辺公園で調査・保全活動を実施 |
| 2009～2017年度 | 埼玉県「県民参加生き物モニタリング調査」の委託を受け調査を実施 |
| 2017年現在 | 川越市が実施している「かわごえ生き物調査」に協力 |

その他の専門委員会

| | |
|-------------|------------------------------|
| 2002～2012年度 | かわごえ環境フォーラム実行委員会（毎年度時限付き）を設置 |
| 2003年度 | 機構改革検討委員会を設置 |
| 2004～2005年度 | 環境学習支援委員会を設置 |
| 2006～2008年度 | 企画委員会を設置 |
| 2008～2012年度 | かわごえアジェンダ21推進委員会を設置 |
| 2013年度～現在 | 事業運営委員会を設置 |
| 2014年度 | 幼児向け環境教育プログラム作成委員会を設置 |

あ と が き

川越の自然といってまず思い浮かぶのは畑と田んぼと雑木林と河川です。「かわごえ環境ネット」が設立されて20年、地道に観察し、蓄積してきた成果をまとめることができました。「豊かな癒やし」がある川越の端から端まで、訪れたことの少ない場所がていねいに説明されています。素人ばかりの編集委員でしたが、多くの方々のご協力や資料提供により完成を迎えることができました。また、財政面では「公益財団法人サイサン環境保全基金」からのご支援と、市民の皆様からの多大なご寄付をいただきました。厚くお礼を申し上げます。

編集委員

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 小瀬 博之 | 賀登 環 | 池田 雄二 | 内田 緑 | 岡 治 |
| 賀登 勉 | 菊池修一郎 | 過 昌司 | 稗島 英憲 | 増田 知久 |
| 宮澤 宏次 | 森田たか子 | 山中 和郎 | 横山三枝子 | 藍谷理恵子 |

監 修 (敬称略・順不同)

新井 浩二 (昆虫) 久津間文隆 (地質・地形) 牧野 彰吾 (植物)

協力団体・個人 (敬称略・順不同)

猪俣 昇 (チョウ調査指導) 内田 泰永 (空撮映像) 大辻 晃夫 (湧水)
栗原造園 (場所提供) Chu Jiaying (ドローン撮影)
故千木良宣行 (絵画) 佐々木勝男 (坂戸城山写真)
鈴木 圭治 (川越水上公園野鳥・昆虫写真)

寄付をいただいた方々 (敬称略・順不同)

企業・団体

あおい歯科医院 あおば幼稚園 株式会社 小川造園建設 沖縄物産 真南風
珈琲専門店 音羽屋 コーヒー&ギャラリー 珈香里 オーディオショップ カナン
川越巨樹・古木の会 NPO法人 川越蔵の会 川越Farmer's Market
川越緑のサポーター 川越中央ロータリークラブ 川越緑地協会 会長 山岸 寛
有限会社 栗原造園 ランチカフェ くるみの木
埼玉県生態系保護協会 川越・坂戸・鶴ヶ島支部 有限会社 島村緑地
株式会社 田島造園 d'ici peu 株式会社並木造園 野々山養蜂園
福原ファームクラブ ホンダカーズ川越 川越中央店 増田総業株式会社
株式会社 ミカミ・アイエヌジー 株式会社 山岸造園

個人

| | | | | | |
|--------|-------|--------|-------|-------|-------------|
| 藍谷理恵子 | 青田 武二 | 青野 多恵 | 青柳 遙 | 秋本みゆき | 秋山美樹男 |
| 浅倉 孝郎 | 浅野 正敏 | 新井 正司 | 新井 忠雄 | 安齊 茂昭 | 井合 敏行 |
| 飯島 希 | 井口吉三郎 | 池田 浩之 | 池田 佑哉 | 池田 雄二 | 石黒 剛 |
| 石田 裕恵 | 泉山 信一 | 伊田 正人 | 市川 衛 | 伊藤 章治 | 稻盛 夕子 |
| 井上 秋子 | 井上 勝美 | 井上 耕一 | 猪俣 昇 | 今井 キミ | 岩淵 久代 |
| 内河 静江 | 内田 晶男 | 内田 清 | 内田 緑 | 内田 紀子 | 内野威三雄 |
| 浦沢八重子 | 江口 ナミ | 近江 拓雄 | 大石 章 | 大川 智 | 大嶋津智代 |
| 太田 禎伸 | 大辻 晃夫 | 岡 治 | 岡 節子 | 岡 風露 | 岡野 誠一 |
| 岡登 伸一 | 小川 雪子 | 小河原かほる | 沖本八十陽 | 長田 昇 | 忍田 東枝 |
| 小田切久美子 | 片岡 勝江 | 賀登 愛莉 | 賀登 岳 | 賀登 環 | 賀登 勉 |
| 賀登 優菜 | 賀登 梁真 | 鎌田すみえ | 神谷 寛 | 川上ひろみ | 川尻 真澄 |
| 川部 弘子 | 菊池修一郎 | 菊池 拓弥 | 菊地 節子 | 菊地 三生 | 岸 宏吉 |
| 岸 文子 | 木村 伸子 | 楠原友紀子 | 黒瀬 美幸 | 神 菜緒 | 小浦 民江 |
| 國分 一彦 | 小島 秀雄 | 小瀬 博之 | 児玉 直 | 後藤 直人 | 小林久美子 |
| 小林 貞雄 | 小林 範子 | 小林 矩子 | 駒井 洋子 | 小茂鳥貴夫 | 西城千枝子 |
| 齋藤 和子 | 齋藤 真司 | 斉藤田美子 | 齋藤 晴美 | 坂本 昭 | 咲山 薫 |
| 桜井 勢子 | 佐々木 守 | 佐藤 順子 | 佐藤 春香 | 佐野 敬子 | 篠田 英汰 |
| 篠田 昊汰 | 芝 苗美 | 柴田 陽子 | 渋谷 ユリ | 島崎 洋 | 嶋田 紘治 |
| 清水いずみ | 下川 友希 | 白井 紀行 | 白土 佑弥 | 菅谷みさ子 | 過 昌司 |
| 鈴木 誠子 | 鈴木 敏夫 | 鈴木 実 | 須藤喜美子 | 関口シゲ子 | 関根 陽子 |
| 瀬下 洋之 | 園部 泰弘 | 多賀 啓二 | 高梨 耕治 | 高橋 宗人 | 宝田 尚美 |
| 武田 侃蔵 | 武弓 貴行 | 田中マリ子 | 千明 益江 | 千葉 宗市 | Chu Jiaying |
| 对馬 良一 | 坪井 雄起 | 手代木秀一 | 時枝 瞳 | 時任 秀夫 | 戸田 貴之 |
| 知久ナホ子 | 長澤 透 | 中島 貴子 | 長嶋 哲也 | 中嶋 則雄 | 中西 史郎 |
| 中西 陽菜 | 中西 勇雲 | 中野 繭子 | 中村 勝子 | 中村 朋絵 | 中村 正幸 |
| 中村美奈子 | 中村 吉宗 | 中山 勝美 | 中山 恭代 | 鳴河 一成 | 波岡み代子 |
| 西田 寿 | 西村由美子 | 二瓶 直子 | 羽柴 中衛 | 橋本 光司 | 長谷川征利 |
| 長谷川裕子 | 浜尾 憲吾 | 浜尾 春子 | 林 郁世 | 速水 和代 | 原嶋 昇治 |
| 原田 生子 | 原田 恵子 | 半田 祐一 | 稗島 英憲 | 稗島 百花 | 稗島 悠人 |
| 平谷 奈帆 | 深田 由夫 | 福島もも子 | 福田 英一 | 福田 忠博 | 福原 時夫 |
| 藤井美登利 | 藤岡 本八 | 藤多 文雄 | 藤野美智子 | 降旗 俊子 | 細田 英代 |
| 本田幸次郎 | 本多 正男 | 増田 純一 | 増田 節子 | 増田 知久 | 増田 理久 |
| 増田 梨奈 | 松岡 和雄 | 松岡壽賀子 | 松村 隆 | 松本 陽介 | 三浦 孝男 |
| 水口 達也 | 水田 英明 | 水村 矩子 | 水村 春男 | 宮岡 照江 | 宮川 秀明 |
| 宮崎 誠 | 宮澤 行子 | 宮澤 宏次 | 虫本 寿之 | 宗像ヤイ子 | 村瀬三枝子 |
| 村野 昭人 | 森口 雄太 | 森嶋 純子 | 森田 恵子 | 森田 正治 | 森田 誠次 |
| 森田たか子 | 森田 貴敏 | 森田 将博 | 森本 雪絵 | 守谷 範子 | 矢野 雄一 |
| 矢部 茂俊 | 山岸 敏子 | 山口 亨 | 山口 久雄 | 山口 裕子 | 山崎 茂 |
| 山下 武夫 | 山田 聖二 | 山田 一 | 山田ひろ子 | 山田 博史 | 山中 和郎 |
| 山本 眞 | 余 卓洋 | 横山三枝子 | 吉田 庄一 | 米田 英子 | 和田 徹 |
| 渡辺 利衛 | 渡邊 靖雄 | 匿名 8名 | | | |

索引

【ア行】

| | |
|-------------|--------------------|
| アイトケ | 33 |
| アオオビハエトリ | 125 |
| アオゲラ | 158 |
| アオサギ | 67, 95, 156 |
| アオジ | 160 |
| アオスジアゲハ | 128 |
| アオダイショウ | 151 |
| アオハダ | 144 |
| アオマダラタマムシ | 26, 136 |
| アオメアブ | 135 |
| アオヤンマ | 132 |
| アカアシオアオカミキリ | 136 |
| アカガシ | 112 |
| アカガネサルハムシ | 26 |
| アカゲラ | 30, 44 |
| アカシジミ | 128 |
| アカシデ | 24, 142 |
| アカスジキンカメムシ | 137 |
| アカタテハ | 41 |
| アカネズミ | 150 |
| アカボシゴマダラ | 41, 128 |
| アカマツ | 23, 44, 146 |
| アカメガシワ | 31, 145 |
| アカヤマドリ | 32 |
| アキアカネ | 133 |
| アサマイチモンジ | 66 |
| アズチグモ | 150 |
| アズマイチゲ | 1, 84, 147 |
| アブラハヤ | 152 |
| アマナ | 85, 147 |
| アメリカヒドリ | 68 |
| アユ | 57, 154 |
| アワダチソウグンバイ | 137 |
| イカル | 81, 160 |
| イソシギ | 157 |
| イチヤクソウ | 148 |
| イチョウ | 120, 122, 123, 124 |
| イチョウウキゴケ | 149 |
| イヌザクラ | 143 |
| イヌシデ | 142 |
| イヌツゲ | 121 |
| イボタノキ | 79, 85 |
| ウグイス | 81 |

| | |
|--------------|-----------------|
| ウグイスカグラ | 18, 24, 145 |
| ウスバカミキリ | 136 |
| ウスバキトンボ | 133 |
| ウチワヤンマ | 133 |
| ウツギ | 27 |
| ウバタマムシ | 136 |
| ウバユリ | 85 |
| ウラナミシジミ | 128 |
| ウマノスズクサ | 80 |
| ウメガサソウ | 148 |
| ウメモドキ | 25 |
| ウラナミアカシジミ | 128 |
| ウワミスザクラ | 18, 25, 85, 143 |
| エゴツルクビオトシブミ | 143 |
| エゴノキ | 25, 31, 143 |
| エゴノネコアシ | 143 |
| エゴヒゲナガゾウムシ | 143 |
| エサキモンキツノカメムシ | 137 |
| エドヒガン | 112, 115 |
| エナガ | 159 |
| エノキ | 71, 79, 84, 144 |
| オイカワ | 152 |
| オオカワヂシャ | 149 |
| オオクチバス | 153 |
| オオシロカネグモ | 150 |
| オオスズメバチ | 41, 135 |
| オオタカ | 158 |
| オオバジャノヒゲ | 149 |
| オオハナワラビ | 29, 149 |
| オオバン | 157 |
| オガタマノキ | 117 |
| オカトラノオ | 27 |
| オケラ | 29, 148 |
| オサムシタンポタケ | 32 |
| オトギリソウ | 27 |
| オドリコソウ | 147 |
| オニグルミ | 31 |
| オニノヤガラ | 148 |
| オニヤンマ | 154 |

【カ行】


| | |
|------------|---------|
| カイツブリ | 72, 157 |
| カケス | 158 |
| カシノナガキクイムシ | 45 |
| カシラダカ | 29 |

| | | | |
|-------------|------------------------|-------------|-------------------------|
| カナヘビ | 151 | コイ | 152 |
| カブトエビ | 155 | ゴイサギ | 91 |
| カブトムシ | 26, 41 | コウホネ | 68 |
| ガマズミ | 145 | コウヤボウキ | 149 |
| カマツカ | 152 | コオニヤンマ | 154 |
| カルガモ | 72, 81, 93, 139 | コガネグモ | 150 |
| カワウ | 95 | コクチバス | 153 |
| カワセミ | 59, 68, 157 | コクラン | 125 |
| カワムツ | 152 | コゲラ | 30, 158 |
| カワラヒワ | 29, 160 | コサギ | 95, 156 |
| キアゲハ | 127 | コシマゲンゴロウ | 155 |
| キクイタダキ | 30 | コジュケイ | 81 |
| キクツキコモリグモ | 155 | コスミレ | 147 |
| キジ | 139, 158 | コチドリ | 161 |
| キジムシロ | 147 | コナラ | 15, 19, 23, 31, 34, 142 |
| キセキレイ | 157 | コノシメトンボ | 133 |
| キタキチョウ | 27 | ゴマダラチョウ | 41, 128 |
| キタマゴタケ | 33 | コミスジ | 127 |
| キタミソウ | 73 | コムラサキ | 66, 75, 128 |
| キツネノカミソリ | 36, 37, 85 | コヤマトンボ | 154 |
| キツネノハナガサ | 33 | 【サ行】 | |
| ギバチ | 153, 154 | サイカチ | 124 |
| キバラヘリカメムシ | 137 | サイゴクベニシダ | 125 |
| キビタキ | 27, 159 | サカキ | 146 |
| キボシカミキリ | 136 | サカマキガイ | 155 |
| キマダラカミキリ | 136 | ササゴイ | 81 |
| キマワリ | 41 | サトキマダラヒカゲ | 41 |
| ギンイチモンジセセリ | 128 | サネカズラ | 29 |
| キンミズヒキ | 148 | サワガズ | 154 |
| キンモクセイ | 115 | サワギキョウ | 125 |
| ギンヤンマ | 133 | サワフタギ | 28, 145 |
| キンラン | 25 | サワラ | 146 |
| ギンラン | 25 | サンコタケ | 33 |
| クサガメ | 151 | シオカラトンボ | 133, 154 |
| クサボケ | 36 | シキミ | 115 |
| クスノキ | 112, 120, 123 | シジュウカラ | 29, 31 |
| クチナシグサ | 148 | シダレザクラ | 113, 122 |
| クツワムシ | 43 | シマドジョウ | 152 |
| クヌギ | 24, 142 | シャクジョウソウ | 148 |
| クルマバツタモドキ | 137 | ジャコウアゲハ | 80, 101, 134 |
| クロコノマチョウ | 128 | ジュウニヒトエ | 147 |
| クロスジフユエダシャク | 31 | シュンラン | 25, 147 |
| ケショウハツ | 33 | ジョウビタキ | 29, 159 |
| ケヤキ | 86, 109, 121, 123, 124 | ジョロウグモ | 29, 150 |
| ゲンゴロウブナ | 95 | シラカシ | 86, 121, 146 |
| コアジサイ | 27, 43 | シラホシカミキリ | 125 |

| | |
|-------------|-------------|
| シラヤマギク | 148 |
| シロシタホタルガ | 145 |
| シロテンハナムグリ | 41 |
| シロハラ | 159 |
| ジロボウエンゴサク | 35, 83 |
| ジンガサハムシ | 136 |
| シンジュ | 83 |
| スギ | 146 |
| スタジイ | 87, 112 |
| スッポン | 60 |
| セイタカシギ | 72, 157 |
| セグロセキレイ | 157 |
| センブリ | 29 |
| 【夕行】 | |
| ダイサギ | 67, 81, 156 |
| タイリクバラタナゴ | 153 |
| タギョウショウ | 115 |
| タゲリ | 157 |
| タコノアシ | 149 |
| タチツボスミレ | 97 |
| タニガワカゲロウ | 59 |
| タヌキ | 150 |
| タマゴタケ | 33 |
| タマゴテングタケモドキ | 87 |
| タラヨウ | 117 |
| チゴユリ | 25 |
| チチタケ | 33 |
| チュウサギ | 156 |
| チョウゲンボウ | 81 |
| チョウトンボ | 133 |
| ツグミ | 159 |
| ツチイナゴ | 137 |
| ツチグリ | 33 |
| ツバメシジミ | 83 |
| ツボスミレ | 147 |
| ツマキチョウ | 128 |
| ツマグロヒョウモン | 128 |
| ツミ | 81 |
| ツリガネニンジン | 27 |
| ツルボ | 80 |
| テナガエビ | 153 |
| テングタケ | 33 |
| トウキョウダルマガエル | 151 |
| トウヨシノボリ | 153 |
| ドジョウ | 152 |
| トビ | 67, 158 |

| | |
|-------------|---------------|
| トビズムカデ | 151 |
| ドブガイ | 108 |
| 【ナ行】 | |
| ナガコガネグモ | 150 |
| ナツアカネ | 125, 133 |
| ナツツバキ | 115 |
| ナマズ | 152 |
| ナルコユリ | 36 |
| ニオイタチツボスミレ | 25 |
| ニガクサ | 148 |
| ニゴイ | 152 |
| ニシキギ | 18, 28 |
| ニホンアカガエル | 151 |
| ニホンミツバチ | 43 |
| ヌカエビ | 153 |
| ヌマガエル | 151 |
| ヌマチチブ | 153 |
| ヌルデ | 31 |
| ネジキ | 27, 31 |
| ノウタケ | 87 |
| ノコギリクワガタ | 136 |
| ノコンギク | 148 |
| ノヤマトンボ | 148 |
| 【ハ行】 | |
| ハイイロチョッキリ | 142 |
| ハグロソウ | 80, 85 |
| ハグロトンボ | 131, 133, 154 |
| ハシビロガモ | 156 |
| ハス | 73, 91 |
| ハナオチバタケ | 85 |
| ハラビロトンボ | 133 |
| ハリエンジュ | 79 |
| ハンカチノキ | 86 |
| ハンゲショウ | 75 |
| ヒイラギ | 120, 121 |
| ヒオドシチョウ | 41, 128 |
| ヒカゲチョウ | 41 |
| ヒガシカワトンボ | 133 |
| ヒキガエル | 151 |
| ヒグラシ | 27 |
| ヒサカキ | 146 |
| ヒトクチタケ | 33 |
| ヒドリガモ | 91 |
| ヒナバタ | 137 |
| ヒノキ | 146 |
| ヒバリ | 159 |

| | | | |
|----------------|---------------|-------------|---------|
| ヒメウラナミジャノメ | 66 | メスアカケバエ | 135 |
| ヒメガムシ | 155 | モウソウチク | 49 |
| ヒメスジハエトリ | 150 | モクズガニ | 153 |
| ヒメスミレ | 147 | モグラ | 150 |
| ヒメミズウラビ | 149 | モズ | 159 |
| ヒメヤブラン | 149 | モツゴ | 152 |
| ヒヨクヒバ | 121 | モミジバフウ | 87 |
| ピンズイ | 160 | モンキチョウ | 127 |
| ブルーギル | 153 | モンキマメゲンゴロウ | 83 |
| ベニシジミ | 127 | モンシロチョウ | 127 |
| ベニマシコ | 81 | モンズズメバチ | 135 |
| ヘビトンボ | 58, 154 | 【ヤ行】 | |
| ヘラサギ | 161 | ヤグラタケ | 33 |
| ホウネンエビ | 155 | ヤスマツトピナナフシ | 137 |
| ホオジロ | 160 | ヤブラン | 149 |
| ホシハジロ | 67 | ヤマエンゴサク | 80 |
| ホソミイトトンボ | 125 | ヤマコウバシ | 31, 143 |
| ボダイジュ | 112 | ヤマザクラ | 144 |
| ボタンイボタケ | 33 | ヤマトシジミ | 127 |
| ホトケドジョウ | 154 | ヤマトタマムシ | 83 |
| ホンサナエ | 131 | ヤマトフキバッタ | 125 |
| 【マ行】 | | ヤマドリタケモドキ | 32 |
| マクラギヤスデ | 151 | ヤマナメクジ | 151 |
| マシジミ | 154 | ヤマハギ | 27 |
| マツオウジ | 33 | ヤマモモ | 87 |
| マツモムシ | 155 | ヤマユリ | 27 |
| マミジロハエトリ | 150 | ユリカモメ | 81, 157 |
| マメコガネ | 136 | ヨコツナサシガメ | 137 |
| マルバアオダモ | 31 | ヨシガモ | 68, 156 |
| マンネンタケ | 33 | ヨシノボリ | 58 |
| ミカドミンミン | 134 | ヨダンハエトリ | 125 |
| ミクリ | 149 | ヨツスジハナカミキリ | 136 |
| ミコアイサ | 81 | ヨツボシオオキスイ | 41 |
| ミシシippiaアカミミガメ | 151 | 【ラ行】 | |
| ミズイロオナガシジミ | 128, 135 | ラカンマキ | 123 |
| ミツバウツギ | 85 | ラクダムシ | 125 |
| ミドリシジミ | 75 | ラミーカミキリ | 136 |
| ミヤマアカネ | 83, 133 | リョウブ | 31, 145 |
| ミヤマウズラ | 47 | リンドウ | 29 |
| ミヤマセセリ | 128 | ルリカミキリ | 136 |
| ムクノキ | 106, 122, 144 | ルリタテハ | 128 |
| ムラサキシキブ | 27, 28, 145 | ルリハツタケ | 33 |
| ムラサキシジミ | 125, 128 | ルリビタキ | 30, 159 |
| ムラサキホウキタケ | 33 | ルリボシカミキリ | 43 |
| ムラサキヤマドリタケ | 32 | レンカク | 161 |
| メジロ | 159 | | |



かわごえ環境ネット設立20周年記念


川越の自然

— 雑木林・河川・公園・湧水・社寺林を訪ねて —

2021年2月27日発行

発 行：かわごえ環境ネット
事 務 局：川越市環境政策課 Tel 049-224-5866
編 集：かわごえ環境ネット「川越の自然」編集委員会
印刷・製本：六三四堂印刷株式会社

表紙写真：「(仮称)川越市森林公園」計画地 青柳 遥





本書は公益財団法人サイサン環境保全基金の
助成を受けて作成されました。

